

FUJITSU Desktop ESPRIMO

B6FK-5901-01 Z0



Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール ユーザーガイド

ESPRIMO Edge Computing Edition

FUJITSU

本書をお読みになる前に



安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。
特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

■本書の記号

本書に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。

■連続する操作の表記方法

本書中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例:「スタート」ボタンから「設定」をクリックし、「アプリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「設定」→「アプリ」の順にクリックします。

■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■用語説明

本書で使用する用語を次に説明します。

用語	意味
管理者端末	運用管理ツールを操作するための端末
マスター端末	Windows Update を最初に適用する端末

商標および著作権

Microsoft、Windows、Windows Server、.NET Framework は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本ソフトウェア説明書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

また、本製品に含まれている Microsoft(R) .NET Framework の著作権は、Microsoft Corporation が有しています。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2020,2021

目次

本書をお読みになる前に.....	2
安全にお使いいただくために.....	2
本書の表記.....	2
商標および著作権.....	2
第1章 管理コンソール機能の基本操作.....	6
1.1 起動方法.....	7
1.1.1 起動／終了する.....	7
1.1.2 別の運用管理ツール サーバに接続する.....	9
1.1.3 運用管理ツール サーバの接続履歴を削除する.....	10
1.2 画面構成.....	11
1.2.1 運用管理ツール 管理コンソール(ホーム)画面.....	11
1.2.2 運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)画面.....	12
1.2.3 運用管理ツール 管理コンソール(運用支援)画面.....	13
1.2.4 運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)画面.....	16
第2章 システムの管理.....	19
2.1 グループの管理.....	20
2.1.1 グループ種別と作成事例.....	21
2.1.2 グループを追加／編集／移動する.....	24
2.1.3 グループを確認する.....	28
2.1.4 グループを削除する.....	29
2.1.5 グループをエクスポート／インポートする.....	30
2.2 管理者の登録・管理.....	32
2.2.1 管理者の配置.....	32
2.2.2 管理者を追加／編集する.....	33
2.2.3 管理者の情報を確認する.....	37
2.2.4 管理者を削除する.....	38
2.2.5 ユーザーをエクスポート／インポートする.....	39
2.3 端末管理(端末のグループへの設定).....	41
2.3.1 管理する端末を追加する.....	41
2.3.2 登録済の端末を別のグループに移動する.....	43
2.3.3 端末の設定情報／稼働状況を確認・変更する.....	44
2.3.4 端末を削除する.....	47
2.3.5 端末を検索する.....	48
2.3.6 端末情報のエクスポート／インポート.....	49

第 3 章	管理コンソール機能からの端末操作.....	53
3.1	リモート操作.....	54
3.1.1	端末の電源操作をする.....	54
3.1.2	端末のログオン／ログオフをする.....	57
3.1.3	端末へ Ping を実行する.....	59
3.1.4	端末をリモート画面操作する.....	60
3.1.5	端末に対して状態通知依頼をする.....	60
3.1.6	端末に対してコマンド実行をする.....	61
3.1.7	端末に対してスクリプト実行をする.....	62
3.1.8	アクセスポイント部の再起動.....	63
3.1.9	アクセスポイント設定ファイルのインポート／エクスポート、ログファイルのエクスポート.....	65
3.1.10	アクセスポイント部のファームウェアアップデート.....	70
3.1.11	アクセスポイント部の時刻同期.....	72
3.1.12	アクセスポイント部の管理画面を開く.....	74
3.1.13	エッジコンピューティングデバイスの管理画面を開く.....	74
3.2	アラート通知の確認.....	75
第 4 章	スケジューラ機能の操作.....	76
4.1	スケジューラ機能の流れ.....	77
4.2	スケジュールを新規登録する.....	78
4.3	スケジュールを編集／削除する.....	91
4.4	登録済のスケジュール内容を表示する.....	92
4.5	実行ログを確認する.....	93
4.6	実行中のスケジュールをキャンセルする.....	94
第 5 章	アップデート連携の設定と実行.....	95
5.1	アップデート連携の設定.....	96
5.1.1	連携内容の設定を行う.....	96
5.1.2	スケジュールの設定を行う.....	96
5.2	アップデート連携の実行.....	97
5.2.1	アップデート連携機能を実行する.....	97
5.2.2	アップデート連携の実行結果を確認する.....	97
5.2.3	アップデート連携の実行をキャンセルする.....	98
5.2.4	パッチ一覧を確認する.....	99
5.2.5	アップデート連携のトラブルシューティング.....	101
5.3	手動で Windows Update を実行する.....	102

第 6 章	クライアント機能の操作	103
6.1	基本操作.....	104
6.1.1	タスクトレイの運用管理ツールアイコン.....	104
6.1.2	基本機能の「環境設定」画面の起動.....	106
6.2	「環境設定」画面の構成.....	107
6.2.1	「環境設定」画面.....	107
6.3	アップデート設定.....	108
6.4	パスワード変更.....	110
6.5	ログオン設定.....	111
6.6	省電力設定.....	112
6.7	その他設定.....	114
6.8	運用管理ツール クライアント機能のアンインストール.....	116
6.9	運用管理ツール クライアント機能の状態確認.....	117
付録	118
付録 A	運用管理ツール 管理コンソール機能に表示される項目.....	119
付録 B	運用管理ツール 管理コンソール機能の環境設定.....	122
付録 C	運用管理ツール 管理コンソール機能の表示パターン.....	124
付録 D	コードの管理.....	128
付録 E	スクリプト定義ファイル仕様.....	130
付録 F	ポリシーエディタツールの使用方法.....	131
付録 G	メール設定.....	133

第1章 管理コンソール機能の基本操作

運用管理ツール 管理コンソール機能の起動方法や、基本操作方法について説明します。

- 1.1 起動方法
- 1.2 画面構成

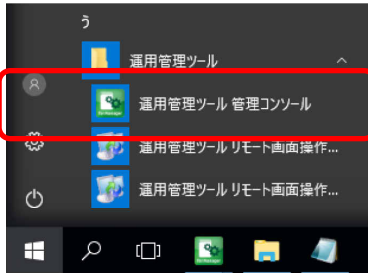
1.1 起動方法

運用管理ツール 管理コンソール機能の起動方法、および別の運用管理ツール サーバへの接続方法などについて説明します。

1.1.1 起動／終了する

■ 操作手順

1. 「スタート」ボタン→「運用管理ツール」→「運用管理ツール 管理コンソール」の順にクリックします。



運用管理ツール 管理コンソール機能の初回起動時は、「接続サーバの選択」画面が表示されます。

2 回目以降は、前回接続したサーバに接続されますので、「接続サーバの選択」画面は表示されません。

2. 運用管理ツール サーバ機能をインストールした端末を指定します。

サーバ名を直接入力または、サーバ名をプルダウンメニューから選択してください。

通常、ポート番号を変更する必要はありません。運用管理ツール サーバ機能のインストール時にポート番号を変更した場合のみ変更してください。



3. 「OK」をクリックします。

「ログイン」画面が表示されます。

4. システム管理者から指示された管理者ユーザーの「アカウント名」、「パスワード」を入力し、「ログイン」をクリックします。



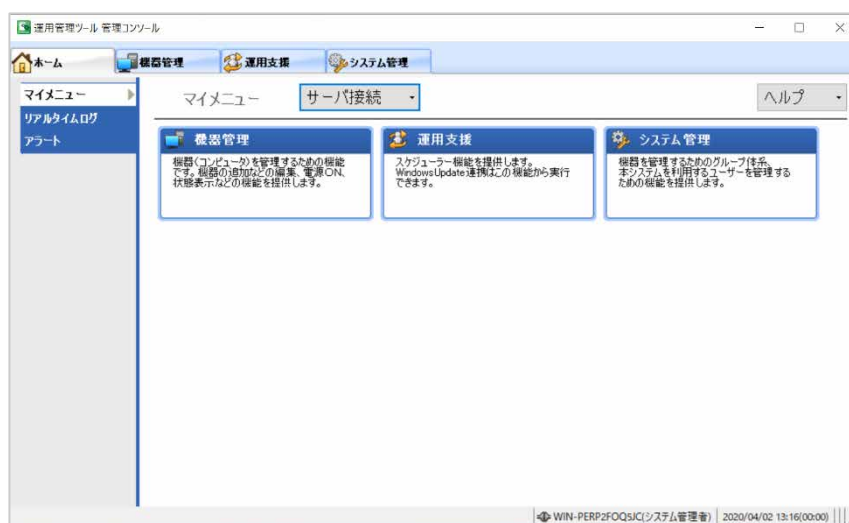
重要

- ・ 限定グループに登録した管理者が運用管理ツール 管理コンソール機能を使用する場合は、操作する限定グループに作成した管理者ユーザーのアカウント名でログインしてください。
- ・ admin アカウントでログインした場合、運用管理ツール サーバに登録されているすべての端末が操作可能になります。
- ・ 管理者ユーザーの作成方法については、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。

POINT

- ・ 運用管理ツール 管理コンソール機能は、アカウントの種類が管理者ユーザーの場合のみ、ログインすることができます。
- ・ ユーザー設定の詳細については「2.2 管理者の登録・管理」をご覧ください。
- ・ 運用管理ツール 管理コンソール機能へのログイン時に「認証情報の取得または判定に失敗しました。」と表示されてログインができない場合は、運用管理ツール サーバ機能の版数と運用管理ツール 管理コンソール機能の版数が一致しているか確認してください。
版数の詳細については、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。

運用管理ツール 管理コンソール機能が運用管理ツール サーバに接続され、「運用管理ツール 管理コンソール」画面が表示されます。



5. 運用管理ツール 管理コンソール機能を終了する場合は、「運用管理ツール 管理コンソール」画面の右上の「×」をクリックします。

1.1.2 別の運用管理ツール サーバに接続する

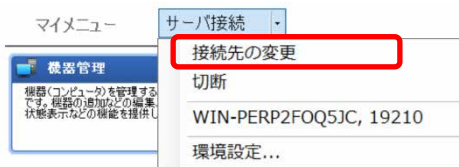
運用管理ツール 管理コンソール機能の初回起動時のみ、「接続サーバの選択」画面が表示されま
す。

2 回目以降は、前回設定した運用管理ツール サーバに自動的に接続されますが、接続サーバを変
更することもできます。

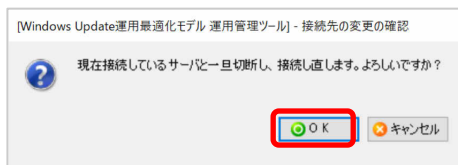
操作画面構成については、「1.2.1 運用管理ツール 管理コンソール(ホーム) 画面」をご覧ください。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(ホーム)」画面で、「マイメニュー」のプルダウンメニューから
「接続先の変更」をクリックします。



2. 「OK」をクリックします。



3. 接続するサーバ名をプルダウンメニューから選択、または直接入力して「OK」をクリックします。



POINT

- ・ 運用管理ツール サーバ管理用のパスワードを一度入力すると、運用管理ツ
ール 管理コンソール機能を終了するまで有効です。管理コンソール機能を終了す
るまでに再度、運用管理ツール サーバを切り替えるときは、パスワードの入力
は不要です。
- ・ 一度接続した運用管理ツール サーバの情報は記録されます。過去に接続した
運用管理ツール サーバの履歴を削除する場合は、「1.1.3 運用管理ツール サ
ーバの接続履歴を削除する」をご覧ください。

1.1.3 運用管理ツール サーバの接続履歴を削除する

運用管理ツール 管理コンソール機能は過去に接続した運用管理ツール サーバの情報を記録しています。

記録された運用管理ツール サーバの接続履歴は削除することができます。

操作画面構成については、「1.2.1 運用管理ツール 管理コンソール(ホーム) 画面」をご覧ください。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(ホーム)」画面で、「マイメニュー」のプルダウンメニューから「接続先の変更」をクリックします。

「接続先の変更の確認」画面が表示されます。

2. 「OK」をクリックします。

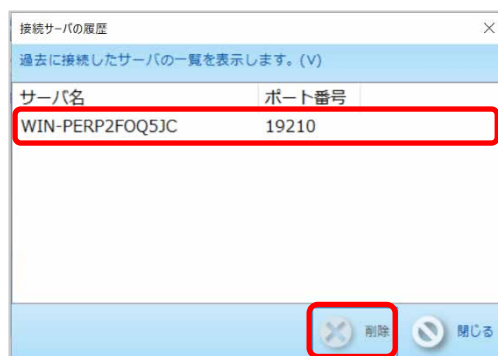
「接続サーバの選択」画面が表示されます。

3. 「接続サーバ履歴」をクリックします。



「接続サーバの履歴」画面が表示されます。

4. 履歴から削除するサーバ名を選択し、「削除」をクリックします。



選択したサーバ名が削除されます。

5. 右上の「×」をクリックします。

「接続サーバの履歴」画面が閉じます。

1.2 画面構成

運用管理ツール 管理コンソール機能の画面構成について説明します。
使用する機能のメニュータブをクリックすると、各操作メニューが表示されます。

本書では、各メニュータブを次のように表記します。

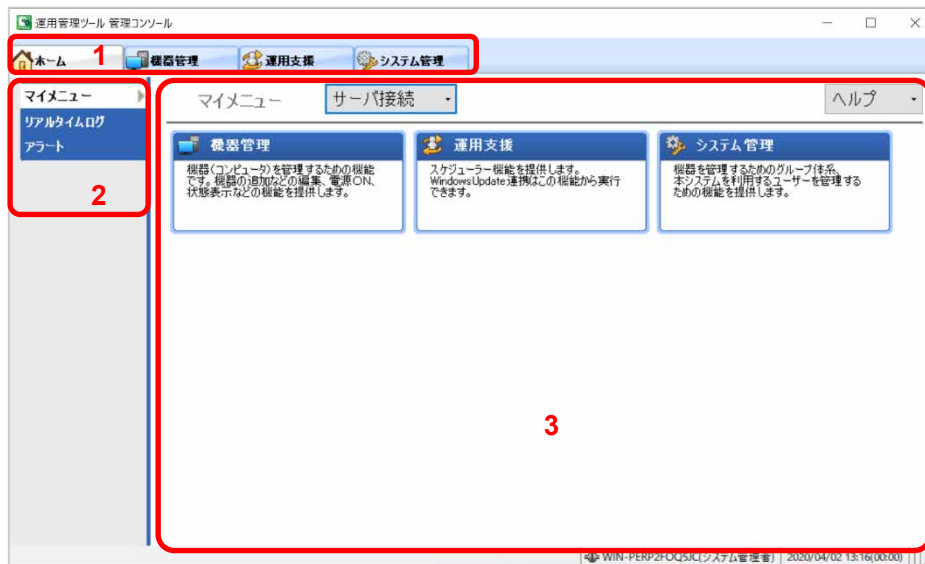
「運用管理ツール 管理コンソール」画面の「ホーム」タブ



「運用管理ツール 管理コンソール(ホーム)」

1.2.1 運用管理ツール 管理コンソール(ホーム) 画面

■ ホーム操作



1. メニュータブ

使用する機能のメニュータブをクリックすると、機能の操作ページが表示されます。

2. サブメニュー

「マイメニュー」、「リアルタイムログ」、「アラート」をクリックすると、操作域に各ページが表示されます。

3. 操作域

使用する機能名をクリックすると、機能の操作ページが表示されます。



POINT

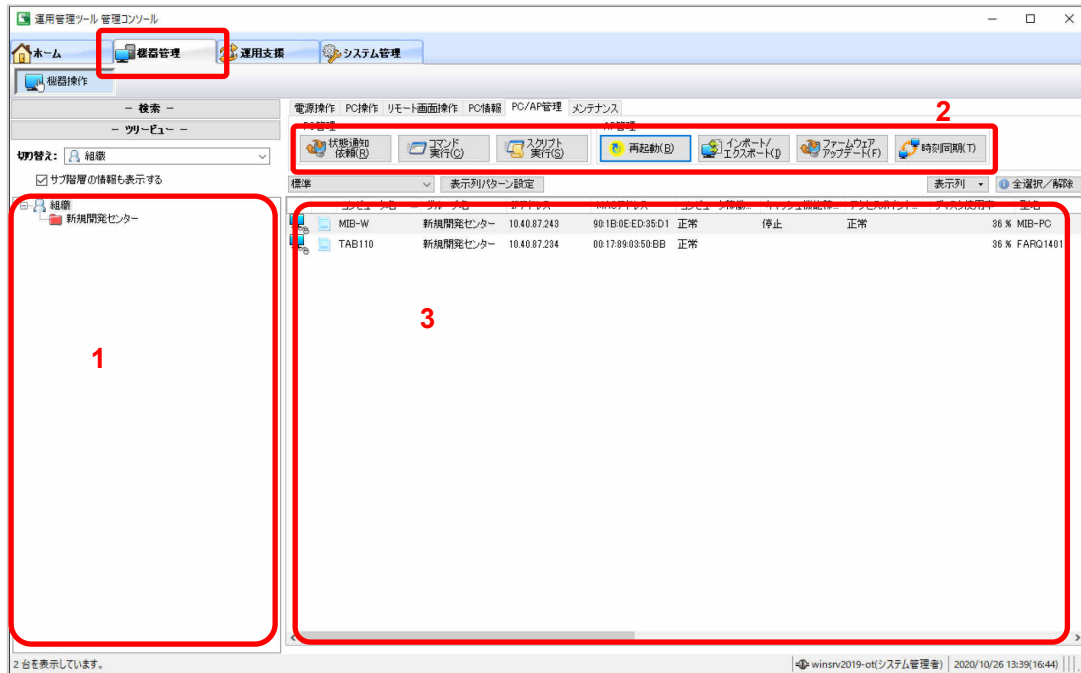
本画面での操作は、以下をご覧ください。

- ・1.1.2 別の運用管理ツール サーバに接続する
- ・1.1.3 運用管理ツール サーバの接続履歴を削除する
- ・「付録 B 運用管理ツール 管理コンソール機能の環境設定」

1.2.2 運用管理ツール 管理コンソール(機器管理) 画面

「機器管理」タブをクリックすると、「機器操作」の機能の操作ができます。
各機能の操作画面について説明します。

■ 機器操作



1. グループツリー

登録されているグループがツリー形式で表示されます。

2. 操作域

端末(マスター端末、エッジコンピューティングデバイス)に対して、各種操作を行う領域です。

3. 端末一覧

グループツリーで選択されたグループに属する端末(マスター端末、エッジコンピューティングデバイス)が一覧で表示されます。



POINT

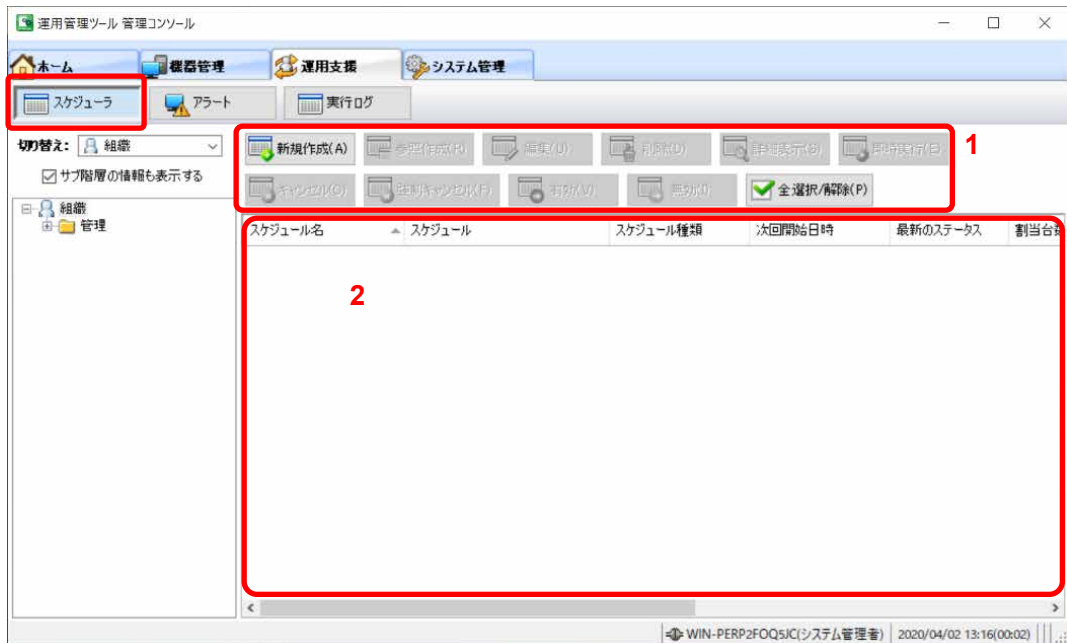
本画面での操作は、以下をご覧ください。

- ・2.3 端末管理(端末のグループへの設定)
- ・3.1 リモート操作
- ・「付録 C 運用管理ツール 管理コンソール機能の表示パターン」

1.2.3 運用管理ツール 管理コンソール(運用支援) 画面

「運用支援」タブをクリックすると、「スケジューラ」、「アラート」、「実行ログ」の機能の操作ができます。
各機能の操作画面について説明します。

■ スケジューラ



1. 操作域

スケジュールに対して、各種操作を行う領域です。

2. スケジュール一覧

スケジュールの一覧が表示されます。

POINT 本画面での操作は、以下をご覧ください。
・第4章 スケジューラ機能の操作

■ アラート

種類	発生日時	コンピュータ名	内容	発生元
情報	2020/03/30 15:48	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 15:16	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 15:00	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 14:45	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 14:33	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 13:32	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 12:21	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 12:09	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 12:01	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 11:14	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/30 10:44	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/27 23:39	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/27 23:00	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/27 22:24	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器
情報	2020/03/27 20:58	TAB105	対象クライアントを新規登録しました。	機器

1. 操作域

アラートに対して、各種操作を行う領域です。

2. アラート一覧

アラートの一覧が表示されます。

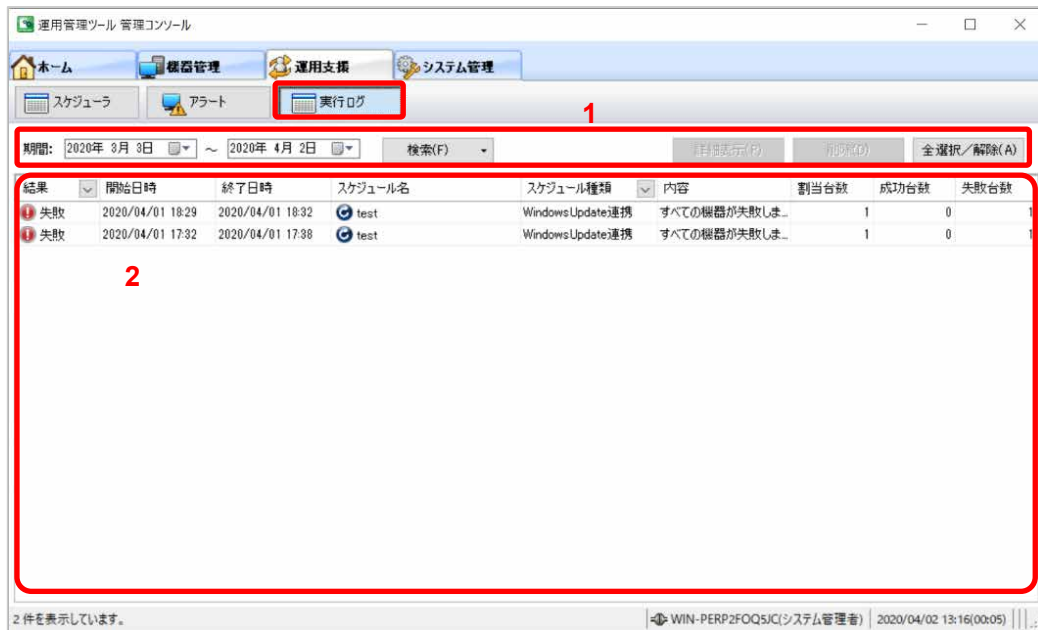


POINT

本画面での操作は、以下をご覧ください。

・3.2 アラート通知の確認

■ 実行ログ



1. 操作域

実行ログに対して、各種操作を行う領域です。

2. 実行ログ一覧

実行ログの一覧が表示されます。



POINT

本画面での操作は、以下をご覧ください。

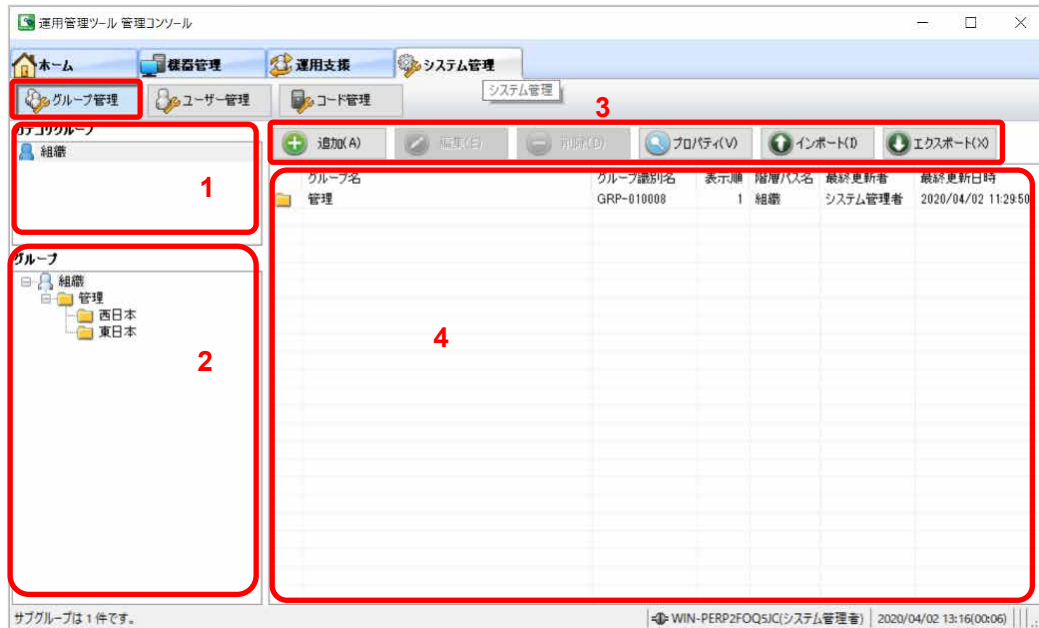
-4.5 実行ログを確認する

1.2.4 運用管理ツール 管理コンソール(システム管理) 画面

「システム管理」タブをクリックすると、「グループ管理」、「ユーザー管理」、「コード管理」の機能の操作ができます。

各機能の操作画面について説明します。

■ グループ管理



1. カテゴリグループ域

カテゴリグループが表示されます。インストール直後は、一番上の階層にあたる「組織」が登録されています。

2. グループ域

カテゴリグループの配下にあるグループがツリー形式で表示されます。

3. 操作域

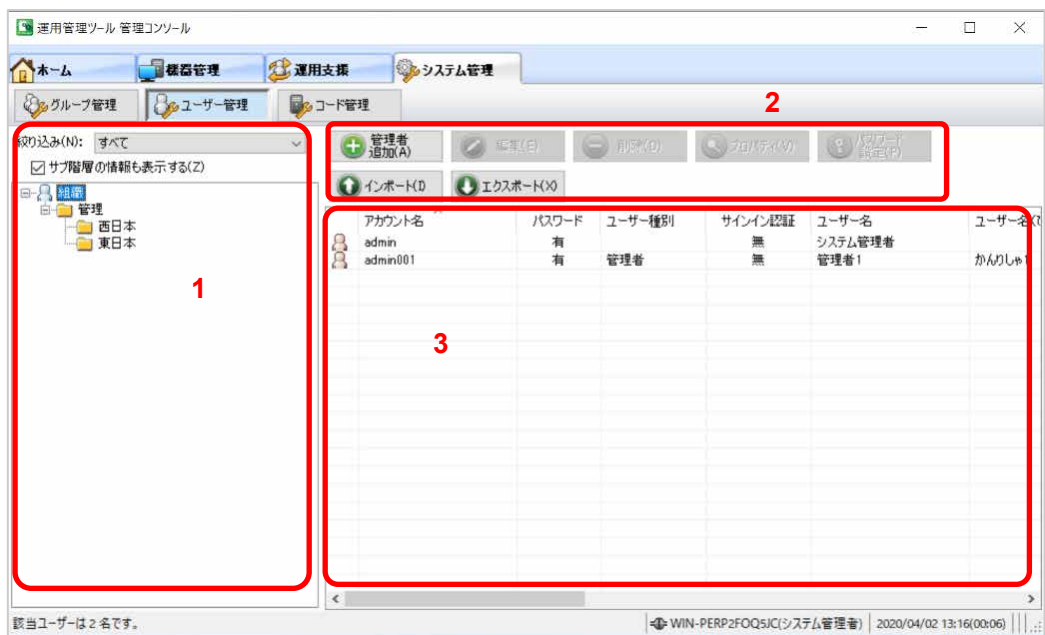
グループの追加、削除およびグループ情報のエクスポート／インポート操作などを行うボタンが表示されます。

4. グループ一覧

グループ域で選択したグループ配下にあるグループ一覧が表示されます。

POINT 本画面での操作は、以下をご覧ください。
・2.1 グループの管理

■ ユーザー管理



1. グループツリー

登録されているグループがツリー形式で表示されます。

2. 操作域

管理者の追加、削除およびユーザー情報のエクスポート／インポート操作などを行うボタンが表示されます。

3. ユーザー一覧

グループツリーで選択したグループに所属する管理者が一覧で表示されます。

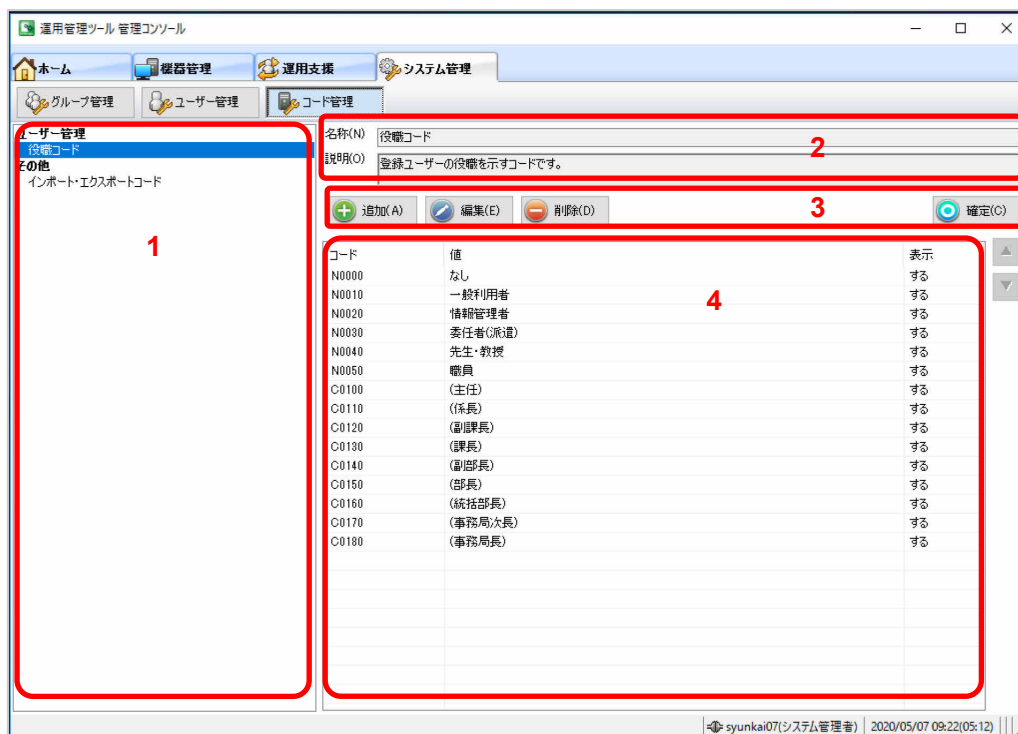


POINT

本画面での操作は、以下をご覧ください。

・2.2 管理者の登録・管理

■ コード管理



1. コード分類一覧

選択可能なコード分類が表示されます。

2. 分類説明

コード分類一覧で選択したコードの名称と説明を表示します。

3. 操作域

コードの追加、編集、削除および反映操作などを行うボタンが表示されます。

4. コード一覧

コード分類一覧で選択した分類に属するコード一覧が表示されます。



POINT

本画面での操作は、以下をご覧ください。

・「付録 D コードの管理」

第2章 システムの管理

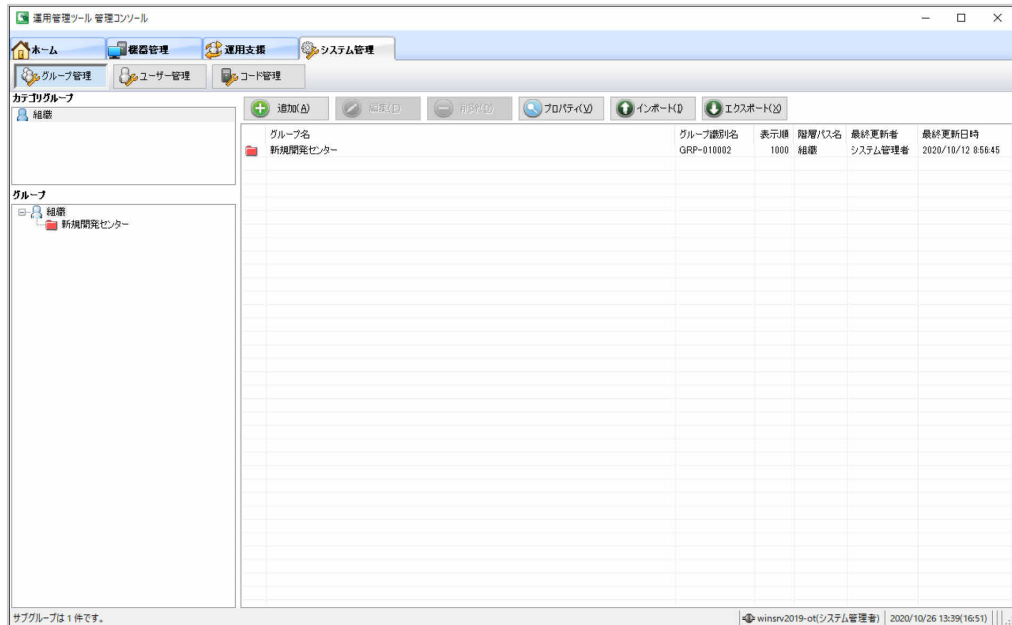
グループ管理やユーザー管理に関する操作方法について説明します。

- 2.1 グループの管理
- 2.2 管理者の登録・管理
- 2.3 端末管理(端末のグループへの設定)

2.1 グループの管理

運用管理ツールをインストール後に、端末(マスター端末、エッジコンピューティングデバイス)およびユーザー(管理者)を登録するためのグループを構成します。

グループに端末を登録することで、管理者端末からのリモート操作などを行います。



POINT グループ階層は、カテゴリグループを含めて 4 階層まで作成できます。

以降、グループの作成、端末のグループへの登録方法などについて説明します。

操作画面構成については、「1.2.4 運用管理ツール 管理コンソール(システム管理) 画面」をご覧ください。

2.1.1 グループ種別と作成事例

端末を管理するときは、新しいグループを作成し、グループに対して端末や管理者を割り当てます。
 新しくグループを作成するときは、用途に合わせてグループ種別を選択します。
 運用管理ツールには、次の4つのグループ種別が用意されています。

グループ種別	主な用途	機器登録	管理者登録	配下に登録できるグループ種別		
				管理	限定	サブ
組織	一番上の階層です。運用管理ツールをインストールすると、最初に用意されています。 主に会社全体を統括する IT 管理部門の担当者を管理者として登録します このグループに登録された管理者からは、すべてのグループ、端末を操作できます。	×	○	○	○	×
管理グループ	中間に位置する階層です。 グループとグループを束ねる役割をします。	×	△ ※注 1	○	○	×
限定グループ	中間に位置する階層です。機器を登録できるので、サブグループを作るほど組織が大きい場合は、この種別のグループのみ作成し、管理者と端末を登録することで運用できます。 このグループに登録された管理者からは、この階層配下のグループ、端末を操作できます。	○	○	×	×	○
サブグループ	階層の一番末端に位置する部署(課やプロジェクトなど)を作成するときに選びます。 限定グループの下にのみ作成できます。	○	△ ※注 2	×	×	○

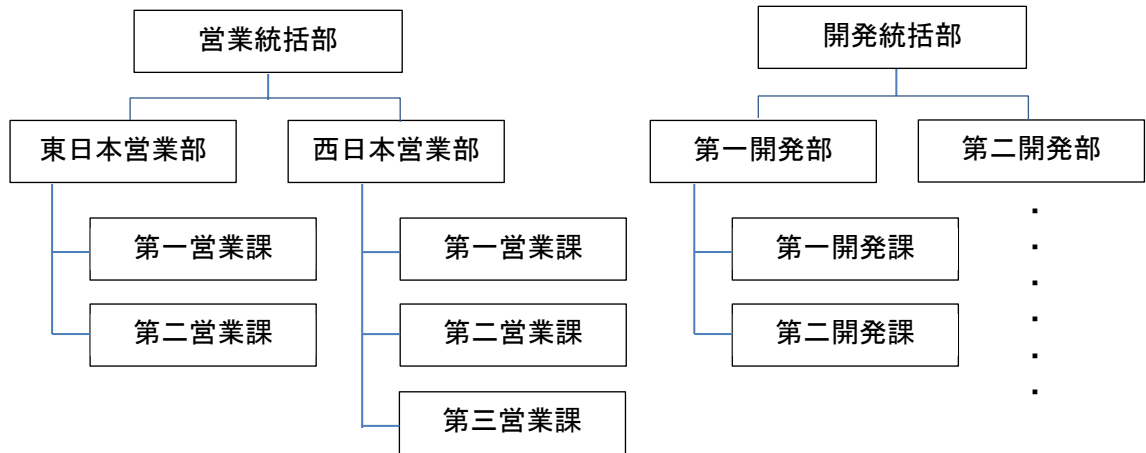
注1: 管理者を登録できますが、「組織」種別に登録した管理者と同じ権限が与えられ、すべてのグループ、端末の操作ができてしまいます。管理グループへの管理者の登録はお勧めしません。

注2: 管理者を登録できますが、並列に存在する他のサブグループのグループ、端末の操作ができてしまいます。サブグループへの管理者の登録はお勧めしません。

グループの作成事例

ここでは、次のような組織を例に、グループの作成事例を紹介します。

グループの作成手順については、「2.1.2 グループを追加／編集／移動する」をご覧ください。

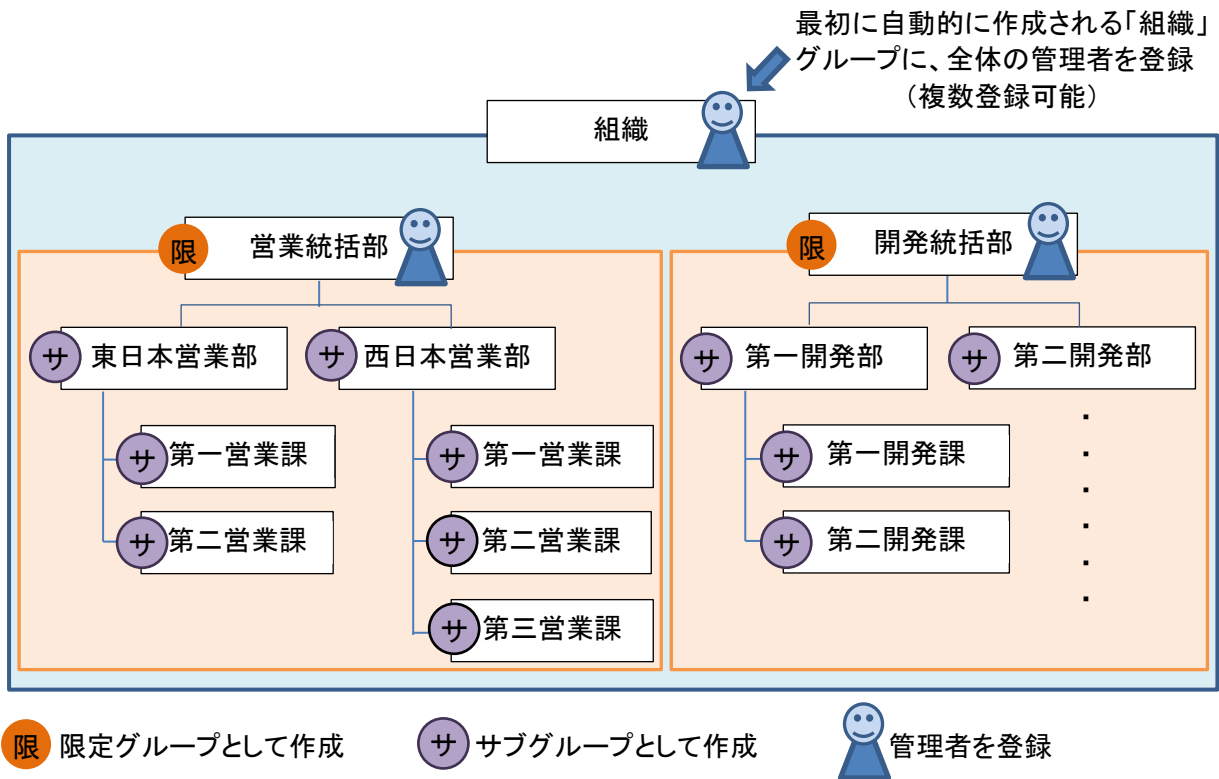


■グループの作成例 その1

次の図は、「営業統括部」と「開発統括部」それぞれに管理者を置く例です。

それぞれの管理者は、自分が登録されているグループ配下の設定や端末管理を行うことができます。お互いの統括部に対して操作することはできません。

「組織」に登録した全体の管理者は、すべての操作を行うことができます。

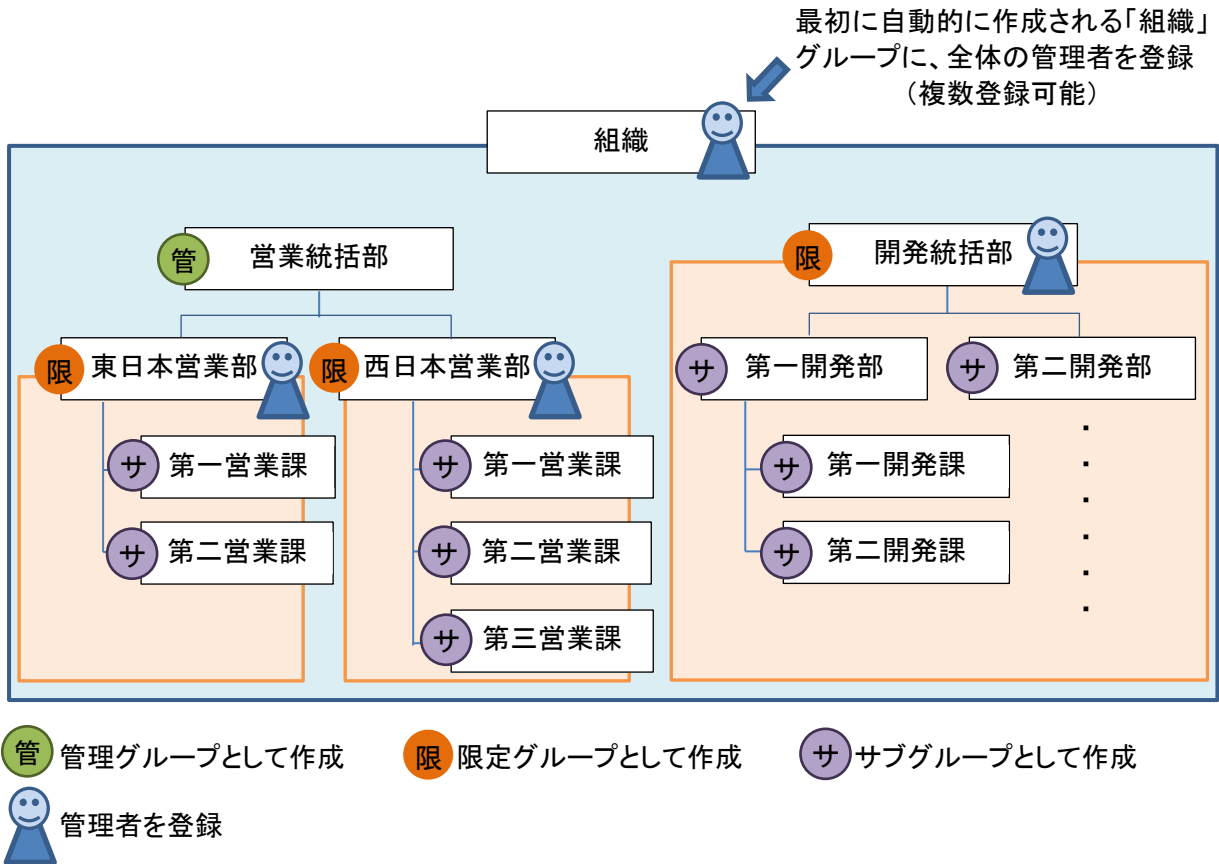


■グループ作成の例 その2

次の図は、営業統括部の中は、「東日本営業部」「西日本営業部」それぞれに管理者を置き、「開発統括部」は、統括部として管理者を置く例です。

それぞれの管理者は、自分が登録されているグループ配下の設定や端末管理を行うことができます。

「組織」に登録した全体の管理者は、すべての操作を行うことができます。



2.1.2 グループを追加／編集／移動する

管理対象の端末を運用に合わせたグループに登録して管理します。

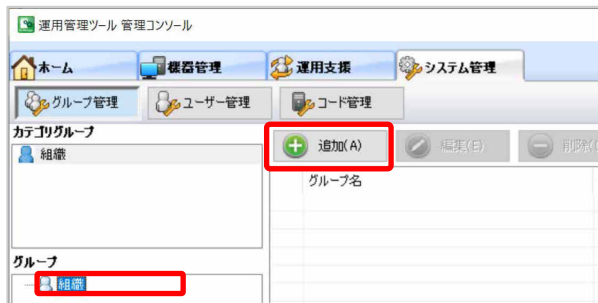
- グループの追加
- グループの編集

■ 操作手順 グループの追加

「組織」配下に、グループを追加する方法を説明します。

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「グループ管理」をクリックします。
2. グループ域で「組織」を選択し、「追加」をクリックします。

すでにグループが登録されている場合は、グループ配下にさらにグループを追加できます。グループを選択し、右クリックメニューからも操作できます。



「グループの追加」画面が表示されます。

3. 「基本情報」タブの各項目に設定内容を入力します。

グループの追加

基本情報 拡張情報 内部情報

グループ種別(L)

アイコン(I)

グループ名(G)

グループ名(かな)(K)

グループ識別名(D)

(グループ識別名は、英数字およびハイフン(-)で、一意になるよう入力してください)

表示順(O)

(表示順は、グループ名以外でグループのツリーの表示順を変更したい場合に利用するソート用の数値です。表示順を変更する場合には適切な数値を入力してください。デフォルトは 1000 が設定されます。)

項目名	内容
グループ種別	グループの種別を設定します。 「管理」限定「サブ」から選択します。 グループ種別については、「2.1.1 グループ種別と作成事例」をご覧ください。
アイコン	グループを区別しやすくするためのアイコンを設定します。
グループ名	任意の名称を設定します。(必須入力)
グループ名(かな)	任意の名称(かな)を設定します。
グループ識別名	組織変更などでグループ編成が発生した場合に、使用する識別名です。 英数字、ハイフン(-)で一意になるように入力してください。 ※未入力の場合は、自動でグループ識別名が設定されます。
表示順	グループのツリー表示順をグループ名以外の順序で表示させたい場合に入力します。 数字の小さい順に上から表示されます。

POINT 「内部情報」タブの情報は自動反映されます。

4. 「登録」をクリックします。

確認画面が表示されます。

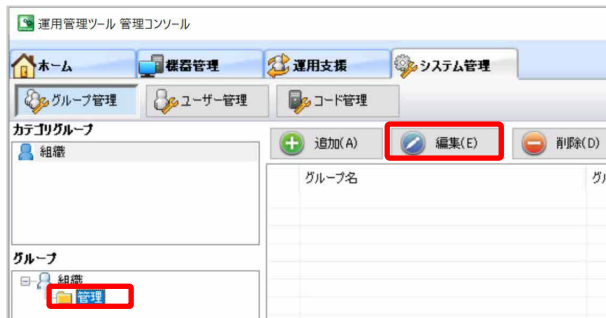
5. 確認のうえ、「はい」をクリックします。

登録したグループがグループ域に追加されます。

■ 操作手順 グループの編集

グループ名やアイコン種別など、グループの情報を編集する方法を説明します。

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「グループ管理」をクリックします。
2. グループ域で変更するグループを選択し、「編集」をクリックします。



グループを選択し、右クリックメニューからも操作できます。

「グループの編集」画面が表示されます。

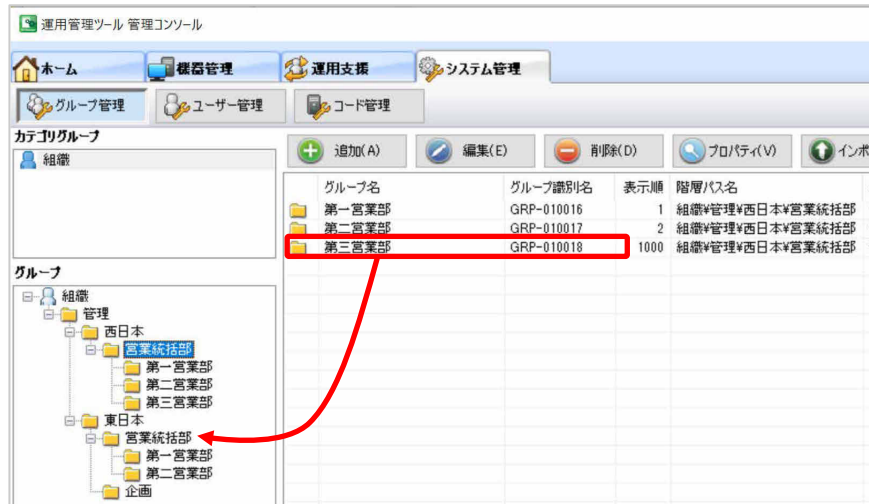
3. 必要に応じて、「基本情報」タブの各項目の内容を変更します。
項目の詳細については、「グループの追加」をご覧ください。
4. 「更新」をクリックします。
確認画面が表示されます。
5. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
グループ情報が更新されます。

POINT グループ名を変更した場合は、運用管理ツール 管理コンソールを再起動してください。再起動後に、新しいグループ名が反映されます。

■ 操作手順 グループの移動

グループを移動する方法を説明します。

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「グループ管理」をクリックします。
2. グループ域で移動するグループを選択し、移動先のグループにドラッグ & ドロップします。



重要

グループ移動後の構成が正しくない場合は、グループ移動後にグループの編集を行い、グループ種別を正しい内容に変更してください。

正しくない構成とは、次のような構成を示します。

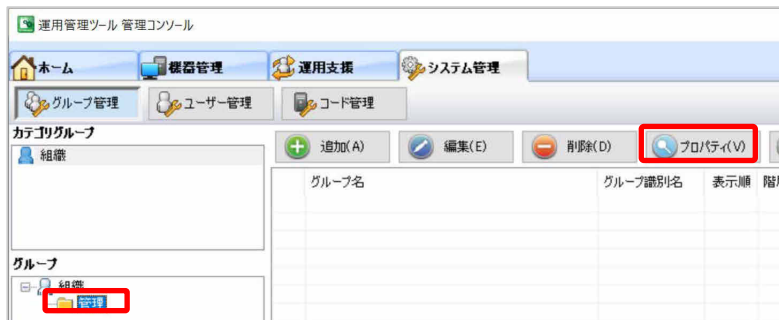
例) 限定グループの下に、限定グループを移動した場合など。

2.1.3 グループを確認する

グループの確認方法について説明します。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「グループ管理」をクリックします。
2. 表示するグループを選択し、「プロパティ」をクリックします。
グループを選択し、右クリックメニューからも操作できます。



「グループの表示」画面が表示されます。

3. 設定内容を確認します。
4. 「閉じる」をクリックします。
「グループの表示」画面が閉じます。

2.1.4 グループを削除する

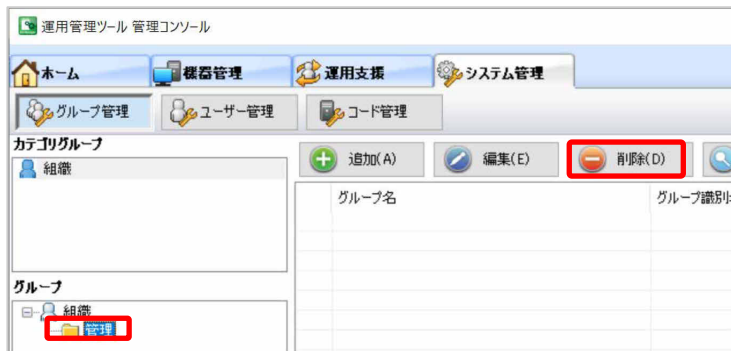
グループ構成の見直しなどで、利用しなくなったグループを削除する方法を説明します。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「グループ管理」をクリックします。

2. 削除するグループを選択し、「削除」をクリックします。

グループを選択し、右クリックメニューからも操作できます。



削除の確認画面が表示されます。

3. 確認のうえ、「はい」をクリックします。

グループが削除されます。

2.1.5 グループをエクスポート／インポートする

グループ構成の情報をエクスポート／インポートする方法について説明します。

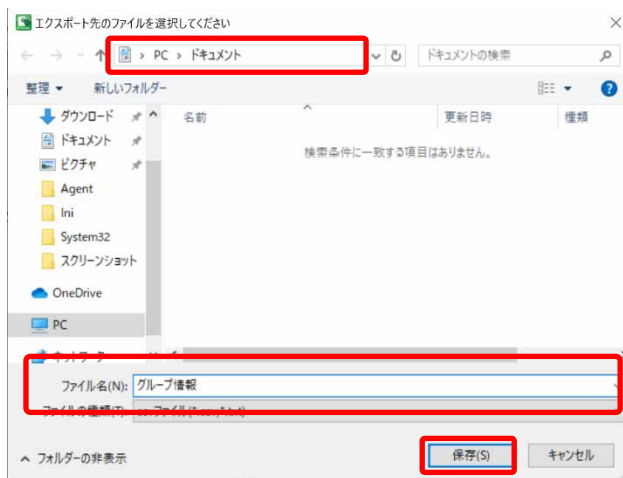
■ 操作手順 グループのエクスポート

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「グループ管理」をクリックします。
2. 「エクスポート」をクリックします。



エクスポートするファイルの保存先を指定する画面が表示されます。

3. エクスポートする CSV ファイルの保存先とファイル名を指定し、「保存」をクリックします。



エクスポートの確認画面が表示されます。

4. 確認のうえ、「はい」をクリックします。

エクスポートが完了したことを通知する画面が表示されます。

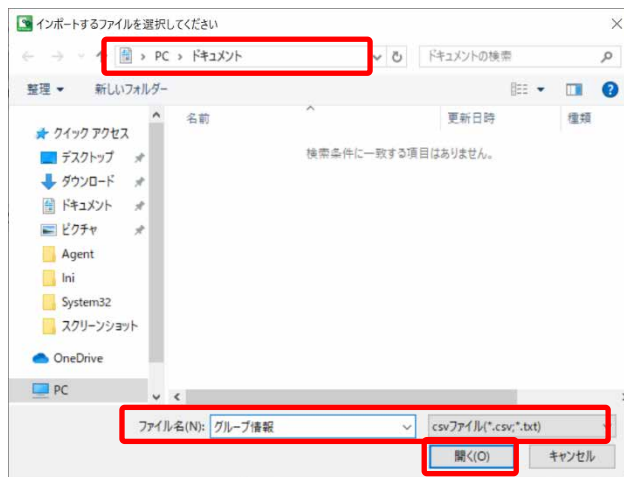
■ 操作手順 グループのインポート

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「グループ管理」をクリックします。
2. 「インポート」をクリックします。



インポートするファイルの保存先を指定する画面が表示されます。

3. インポートする CSV ファイルの保存先とファイル名を指定し、「開く」をクリックします。



インポートの確認画面が表示されます。

4. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
インポートが完了したことを通知する画面が表示されます。
5. 「OK」をクリックします。

2.2 管理者の登録・管理

運用管理ツールの機能を利用するためには、グループに対して管理者を登録する必要があります。管理者の登録は、「ユーザー管理」から行います。

ここでは、管理者の情報を追加／編集する方法を説明します。
また、管理者情報のインポート／エクスポート方法についても説明します。

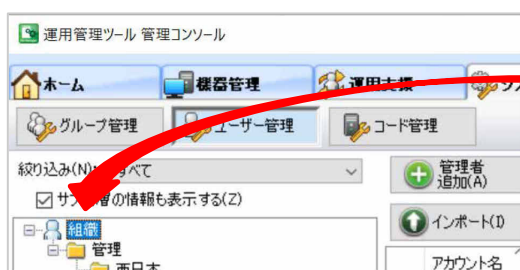
操作画面構成については、「1.2.4 運用管理ツール 管理コンソール(システム管理) 画面」をご覧ください。

2.2.1 管理者の配置

管理者を登録するグループによって、設定やリモート操作など、アクセス可能な範囲が異なります。

全体を管理する管理者は、「組織グループ」に配置してください。

「組織グループ」に配置することで、配下にあるすべてのグループや機器を操作することができます。



特定のグループのみを管理する管理者は、「限定グループ」に配置してください。

「限定グループ」に配置することで、所属している限定グループ配下のグループ、機器のみを操作することができます(他の限定グループのグループ、機器は画面に表示されません)。



2.2.2 管理者を追加／編集する

管理者の追加／編集方法について説明します。

- 管理者の追加
- 管理者の編集
- 管理者のパスワード変更

■ 操作手順 管理者を追加する

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「ユーザー管理」をクリックします。
2. グループツリーで管理者を追加するグループを選択し、「管理者追加」をクリックします。



「ユーザーの追加」画面が表示されます。

3. 管理者の情報を入力します。

基本情報		内部情報	
ユーザー種別(K)	管理者		
アイユーID			
アカウント名(A)	admin001		
パスワード(P)	*****		
確認用パスワード(N)	*****		
ユーザー名(表示用)(U)	管理者1		
ユーザー名(ひらがな)(H)	かんのしゅ		
所属(G)	組織	選択(L)	
電子メール(M)			
役職(D)	なし	<input type="checkbox"/> 部門管理者(T)	
電話番号(E)			
有効無効状態(D)	<input checked="" type="radio"/> 有効(1) <input type="radio"/> 無効(2)		
コメント(C)			

項目名	内容
ユーザー種別	ユーザーの種別を選択します。 ユーザー種別は「管理者」です。
アイコン	ユーザーを区別しやすくするためのアイコンを設定します。
アカウント名	運用管理ツール管理コンソール機能にログインするためのアカウント名を設定します。(必須入力)
パスワード	運用管理ツール管理コンソール機能にログインするためのパスワードを設定します。 ※半角英数字および以下の記号が使用可能です。 ! # \$ % ,(カンマ) - ,(ピリオド) / ;(セミコロン) ? < > * + @ _ ※文字数制限は 32 文字で、大文字、小文字を区別します。
ユーザー名(表示用)	個人を識別するための名称を入力します。(必須入力)
ユーザー名(ひらがな)	ユーザー名(表示用)のひらがな読みを入力します。
所属	選択したグループ名が表示されています。 変更する場合は、「選択」をクリックし、グループを選択します。
電子メール	電子メールアドレスを入力します。 (電子メールの入力を省略しても運用上の影響はありません)
役職	役職名を選択します。 (役職名の選択を省略しても運用上の影響はありません)
電話番号	所属先の電話番号を入力します。 (電話番号の入力を省略しても運用上の影響はありません)
有効無効状態	登録済管理者の有効／無効を設定します。 無効に設定した管理者は、運用管理ツール 管理コンソール機能にログインできなくなります。
コメント	記録しておきたい内容を入力します。

4. 「登録」をクリックします。
5. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。
管理者が登録されます。

■ 操作手順 登録済の管理者の情報を編集する

POINT

- 登録されているパスワードの変更方法は、「ユーザーのパスワードを変更する」をご覧ください。
- 所属するグループについては、次の操作でも変更できます。
ユーザー一覧から変更したい管理者を選択し、グループツリーの新しい所属グループへドラッグ & ドロップします。

- 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「ユーザー管理」をクリックします。
- グループツリーで、管理者が所属するグループを選択します。
選択したグループに登録された管理者が、ユーザー一覧に表示されます。
- ユーザー一覧で変更したい管理者を選択し、「編集」をクリックします。



「ユーザーの編集」画面が表示されます。

- 情報を編集します。

ユーザーの編集(管理者1)

基本情報

ユーザー種別(K) 管理者

アイコン(I)

アカウント名(A) admin001

ユーザー名(表示用)(U) 管理者1

ユーザー名(ひらがな)(H) かんじしゅ1

所属(G) 管理 選択(L)

役職(D) なし 部門管理者(T)

電子メール(M)

電話番号(E)

有効無効状態(D) 有効(1) 無効(2)

コメント(C)

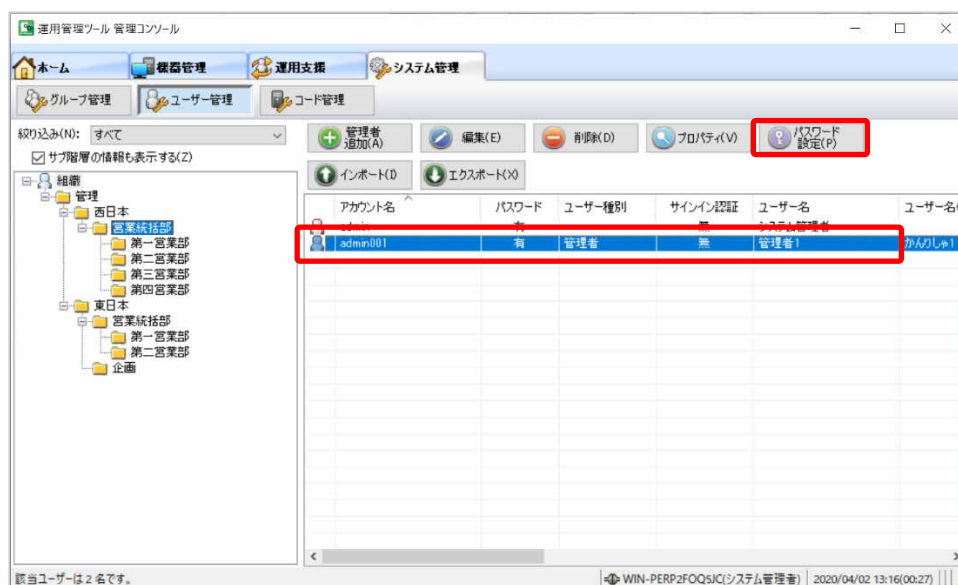
更新(O) 閉じる

項目の詳細については、「管理者を追加する」をご覧ください。

5. 「更新」をクリックします。
更新の確認画面が表示されます。
6. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
更新が完了したことを通知する画面が表示されます。
7. 「OK」をクリックします。

■ 操作手順 パスワードを変更する

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「ユーザー管理」をクリックします。
2. グループツリーで、管理者が所属するグループを選択します。
選択したグループに所属する管理者が、ユーザー一覧に表示されます。
3. パスワードを変更したい管理者を選択し、「パスワード設定」をクリックします。
管理者を選択し、右クリックメニューからも操作できます。



「パスワード変更」画面が表示されます。

4. 新しいパスワードおよび確認用のパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
パスワード変更が完了したことを通知する画面が表示されます。
5. 「OK」をクリックします。

POINT

パスワードを“なし”に変更する場合は、パスワード変更画面で何も入力せずに「OK」をクリックしてください。そのあと確認画面が表示されますので、「はい」をクリックして、変更を完了させてください。

2.2.3 管理者の情報を確認する

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「ユーザー管理」をクリックします。

2. グループツリーでグループを選択します。

選択したグループに所属する管理者が、ユーザー一覧に表示されます。

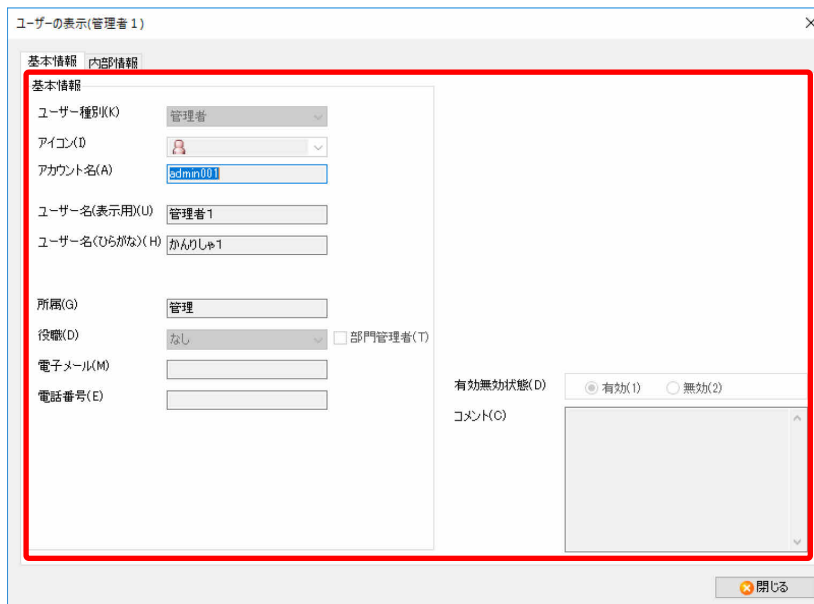
3. 管理者を選択し、「プロパティ」をクリックします。

管理者を選択し、右クリックメニューからも操作できます。また、管理者をダブルクリックして情報を表示させることもできます。



「ユーザーの表示」画面が表示されます。

4. 管理者の情報を確認します。



5. 「閉じる」をクリックします。

2.2.4 管理者を削除する



重要

一度削除した管理者と同じアカウント名を再作成しても、削除された管理者と内部 ID が異なるため、同じアカウント名として認識されません。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「ユーザー管理」をクリックします。
2. グループツリーで、グループを選択します。
選択したグループに所属する管理者が、ユーザー一覧に表示されます。
3. 削除したい管理者を選択し、「削除」をクリックします。



削除の確認画面が表示されます。

4. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
削除が完了したことを通知する画面が表示されます。
5. 「OK」をクリックします。

2.2.5 ユーザーをエクスポート／インポートする

ユーザーの情報のエクスポート／インポート方法について説明します。

エクスポート／インポートされる情報は、運用管理ツールをインストール後に追加登録したユーザー情報だけです。

POINT ビルトインアカウント(admin)は、エクスポートおよびインポートはできません。

■ 操作手順 ユーザーをエクスポートする

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「ユーザー管理」をクリックします。
2. 「エクスポート」をクリックします。



3. 「OK」をクリックします。
4. エクスポートするユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
5. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
6. エクスポートする CSV ファイルの保存先とファイル名を指定し、「保存」をクリックします。



7. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
8. 「OK」をクリックします。

■ 操作手順 ユーザーをインポートする

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「ユーザー管理」をクリックします。
2. 「インポート」をクリックします。



3. 「OK」をクリックします。
4. インポートするファイルを指定し、「開く」をクリックします。



5. インポートする管理者を選択し、「OK」をクリックします。
6. 確認のうえ、「はい」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。

2.3 端末管理(端末のグループへの設定)

管理する端末(マスター端末、エッジコンピューティングデバイス)をグループに登録する方法、および端末情報を確認、変更する方法を説明します。

操作画面構成については、「1.2.2 運用管理ツール 管理コンソール(機器管理) 画面」をご覧ください。

POINT

- 運用管理ツール クライアント機能を端末にインストール時、運用管理ツール サーバ機能をインストールしたサーバとネットワーク上でつながっていた場合は、端末は「未設定」グループ(自動的に作られます)の下に登録されます。その場合、端末を追加する操作は不要です。
- 「未設定」グループに登録された端末は、後ほどしかなるべきグループの下に移動してください。移動の手順については「2.3.2 登録済の端末を別のグループに移動する」をご覧ください。

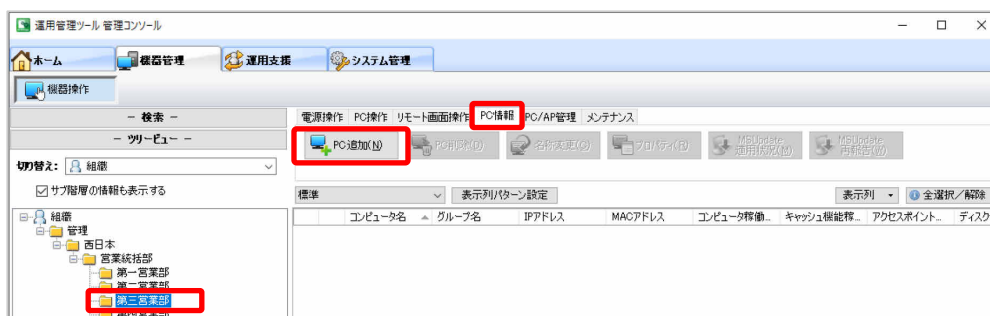
2.3.1 管理する端末を追加する

管理する端末(マスター端末、エッジコンピューティングデバイス)をグループに追加する方法を説明します。

■ 操作手順

- 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
- グループツリーで登録先グループを選択し、「PC 情報」タブの「PC 追加」をクリックします。

グループを選択し、右クリックメニューからも操作できます。



「PC 追加」画面が表示されます。

3. 各項目を入力し、「登録」をクリックします。

端末が登録され、一覧に表示されます。

項目名	内容
コンピュータ名	15文字以内で入力します。(必須項目) 半角英数、-(ハイフン)、_(アンダースコア)は使用できません。 ※運用管理ツールのシステム内で一意になるコンピュータ名を設定します。
IPアドレス	0～255の範囲の値で入力します。
サブネットマスク	0～255の範囲の値で入力します。
MACアドレス	16進数表記で00～FFの範囲の値を入力します。 <ul style="list-style-type: none">全角文字は使用できません。大文字／小文字のどちらも使用できます。

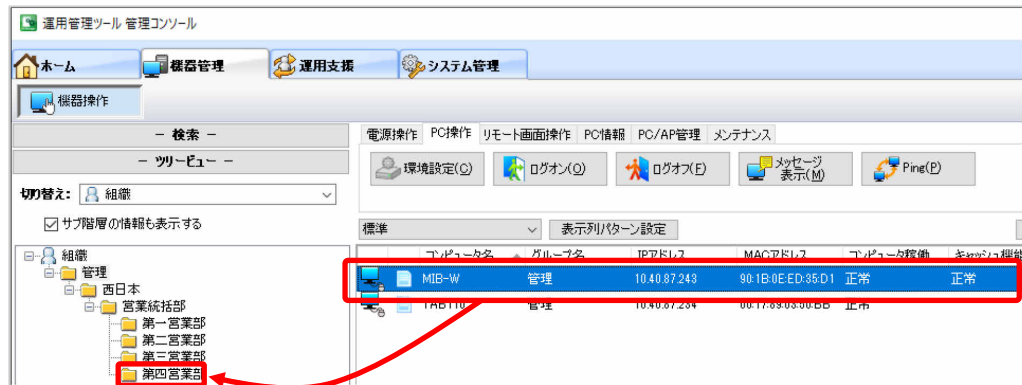
 POINT

- 最新の情報を取得するには、ツリービューまたは操作域で右クリックメニューから「最新の情報に更新」をクリックしてください。このとき、端末の電源をオンにしておいてください。
- エッジコンピューティングデバイスを登録した場合は、続けてエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の時刻設定を、管理者端末の時刻に合わせてください。詳しくは「3.1.11 アクセスポイント部の時刻同期」をご覧ください。

2.3.2 登録済の端末を別のグループに移動する

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. グループツリーでグループを選択し、グループを移動する端末を選択します。
端末を複数選択することもできます。
3. 端末を移動先のグループヘッドラッグ & ドロップします。



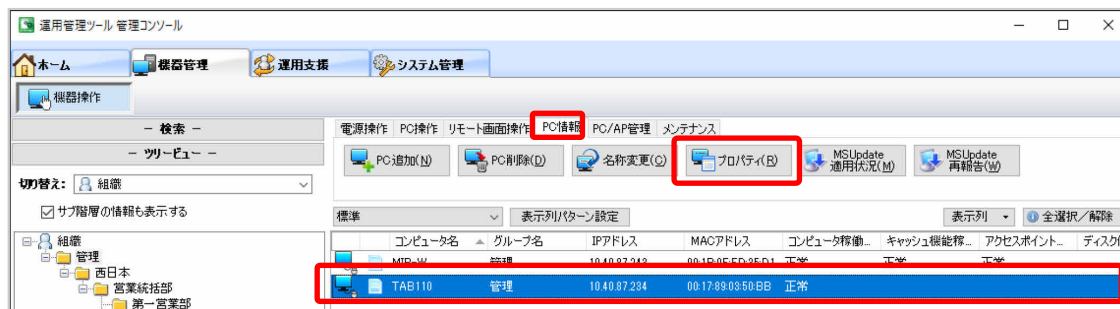
POINT ・ 管理グループには端末を移動できません。

2.3.3 端末の設定情報／稼働状況を確認・変更する

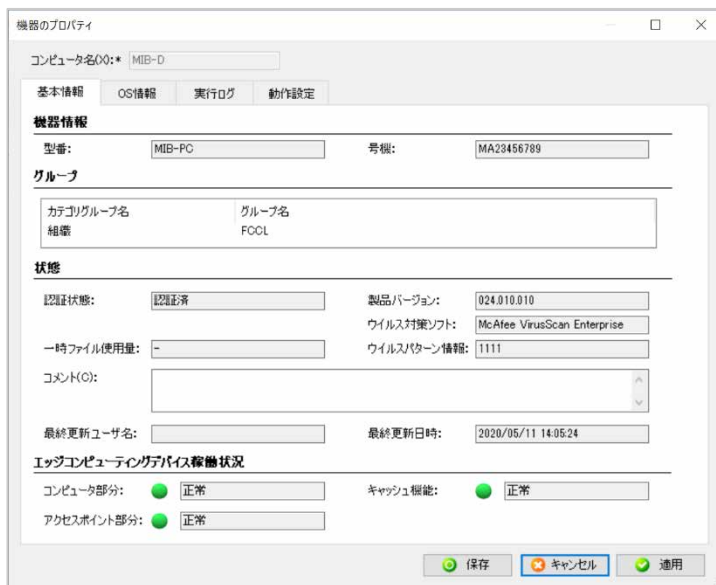
端末の設定情報や稼働状況を確認、変更する方法を説明します。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 設定情報を確認、または変更したい端末を選択し、「PC 情報」タブの「プロパティ」をクリックします。



3. 選択した「機器のプロパティ」画面が表示されます。この画面で設定情報の確認や変更を行います。各設定画面については、次の「■設定画面詳細」をご覧ください。



画面はエッジコンピューティングデバイスの例です。マスター端末の場合は、一番下の「エッジコンピューティングデバイス稼働状況」は表示されません。

POINT 端末を選択し右クリックで表示されるメニュー内の、「プロパティ」からでも「機器のプロパティ」画面を表示することができます。

4. 「保存」をクリックし、変更した情報を更新します。

■ 設定画面詳細

各設定画面について説明します。

・基本情報

機器のプロパティ

コンピュータ名(00): MIB-D

基本情報 OS情報 実行ログ 動作設定

機器情報

型番: MIB-PC 号機: MA29456789

グループ

カテゴリグループ名: FCCL

状態

認証状態: 認証済 製品バージョン: 024.010.010

一時ファイル使用量: ウイルス対策ソフト: McAfee VirusScan Enterprise

コメント: ウイルス対策情報: 1111

最終更新ユーザ名: 最終更新日時: 2020/05/11 14:05:24

エッジコンピューティングデバイス稼働状況

コンピュータ部分: 正常 キャッシュ機能: 正常

アクセスポイント部分: 正常

保存 キャンセル 適用

端末の基本情報を確認できます。

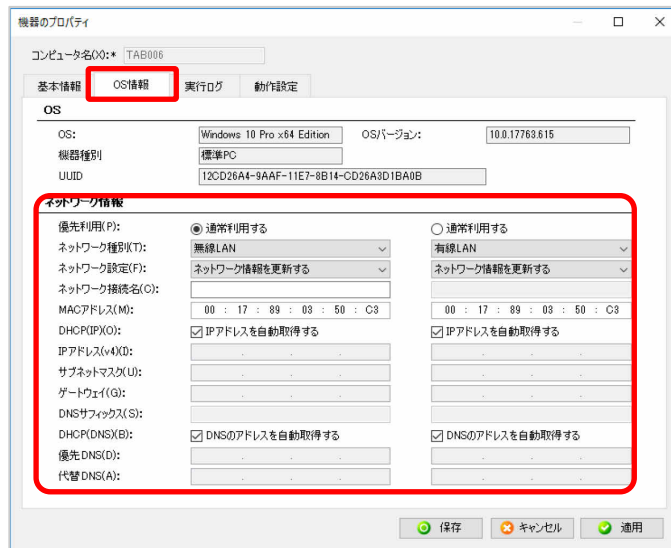
POINT

エッジコンピューティングデバイスの場合、コンピュータ部分、キャッシュ機能、アクセスポイント部分の稼働状況が、次のステータスで表示されます。

ステータス	状態	コンピュータ部分	キャッシュ部分	アクセスポイント部分
正常	正常に動作している	○	○	○
停止	停止している	○	○	—
異常	異常が発生している	○	○	○
正常 (00000JAPAN)	緊急モードで動いている	—	—	○

マスター端末の場合、「エッジコンピューティングデバイス稼働状況」は表示されません。

・OS 情報



端末のネットワーク設定を管理できます。端末のネットワーク設定を変更する必要がある場合はこの画面で行います。主な設定項目は次の通りです。

・ネットワーク情報／優先利用

端末で優先して利用する NIC を設定します。端末に Network Interface Card(以降、NIC)が 2 つ存在している場合に設定が必要な場合があります。

・ネットワーク情報／ネットワーク種別

端末で利用する NIC 種別を設定します。端末の環境に応じて「有線 LAN」または「無線 LAN」を選択してください。

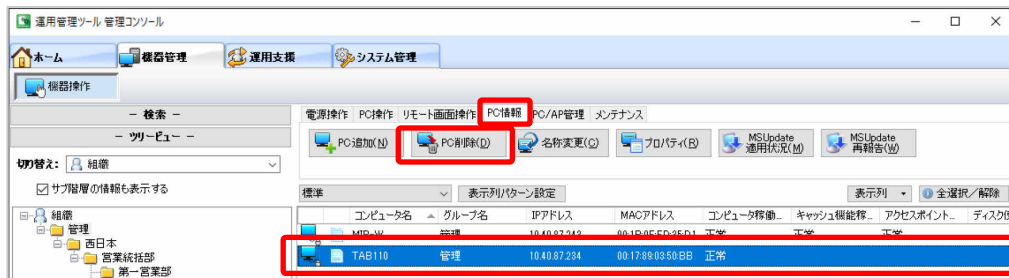
・ネットワーク情報／ネットワーク設定

端末から取得した NIC 情報で、ネットワーク設定を自動更新するかどうかを設定します。

2.3.4 端末を削除する

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 削除する端末を選択し、「PC 情報」タブの「PC 削除」をクリックします。
「Delete」キーでも削除できます。



3. 確認画面が表示されたら、「OK」をクリックします。

重要

運用管理ツール 管理コンソール機能から端末を削除しても、端末が実在し、ネットワークに接続されている場合は、再度、運用管理ツール 管理コンソール機能に端末が自動登録される場合があります。

この場合、端末の運用管理ツール クライアント機能をアンインストールしてから、再度運用管理ツール 管理コンソール機能に登録されている端末を削除してください。

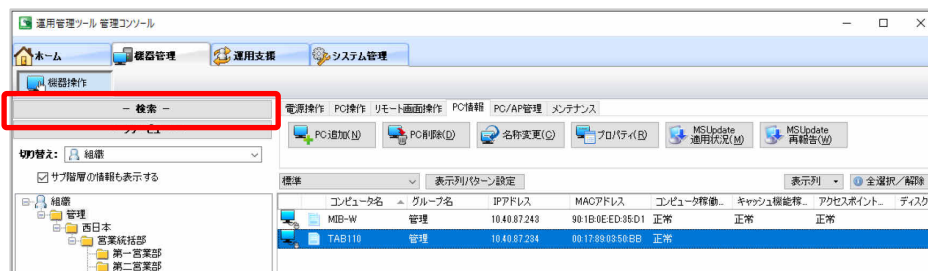
2.3.5 端末を検索する

運用管理ツール 管理コンソール機能に多くのグループや端末が登録されている場合、目的の端末を探すことに時間がかかります。

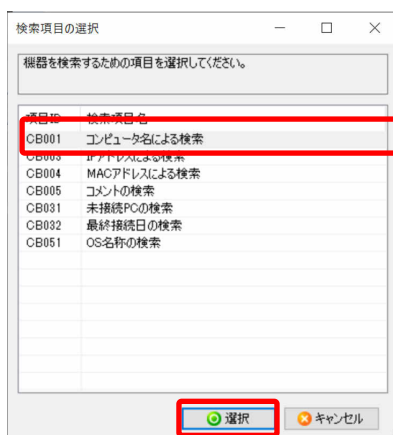
端末の検索方法について説明します。

■ 操作手順 端末の検索

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面から、「機器操作」→「検索」の順にクリックします。



2. 「項目の選択」をクリックし、検索する項目を選択して「選択」をクリックします。



3. 検索条件を入力し、「検索」をクリックします。



入力した条件に合う機器が検索され、結果が表示されます。

4. 「はい」をクリックすると、検索結果がリストに表示されます。

■ 操作手順 検索項目の削除

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面から、「機器操作」→「検索」の順にクリックします。

検索項目の操作画面が表示されます。

2. 「項目の選択」をクリックし、削除する項目を選択して「選択」をクリックします。

3. 「項目の削除」をクリックします。

確認画面が表示されます。

4. 「はい」をクリックします。

選択した項目が削除されます。

2.3.6 端末情報のエクスポート／インポート

端末情報をエクスポート／インポートする方法を説明します。



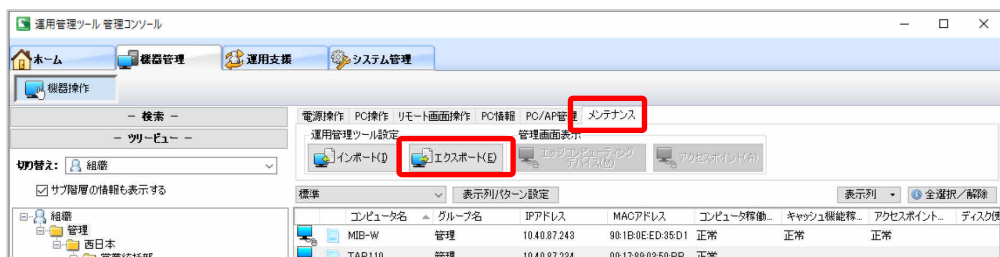
重要

端末情報の中に Unicode 文字列が含まれる場合、CSV ファイルは SJIS で出力されるため、Unicode は？等の文字に変換されます。

■ 操作手順 端末情報のエクスポート

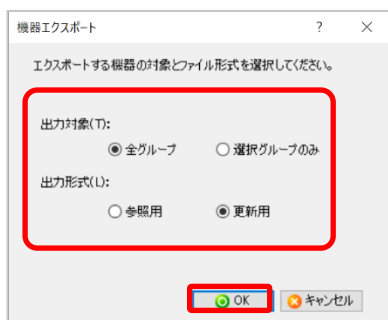
1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。

2. 「メンテナンス」→「エクスポート」の順にクリックします。



「機器エクスポート」画面が表示されます。

3. 「出力対象」と「出力形式」を選択し、「OK」をクリックします。



POINT 出力形式について

- ・ 参照用
表計算ソフトなどにデータを流用するための形式です。
 - ・ 更新用
インポート機能でインポートを行うための形式です。
-

4. エクスポートする CSV ファイルの保存先とファイル名を指定し、「保存」をクリックします。



指定した保存先に CSV ファイルが保存されます。

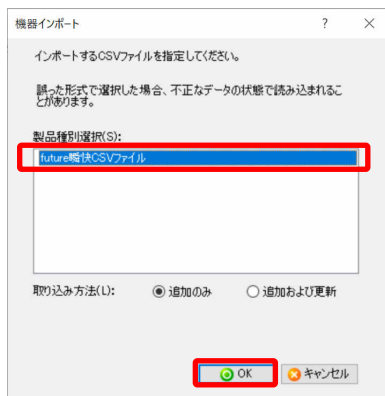
■ 操作手順 端末情報のインポート

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 「メンテナンス」→「インポート」をクリックします。



「機器インポート」画面が表示されます。

3. インポートする製品種別を選択してから、製品種別を選択し、「OK」をクリックします。



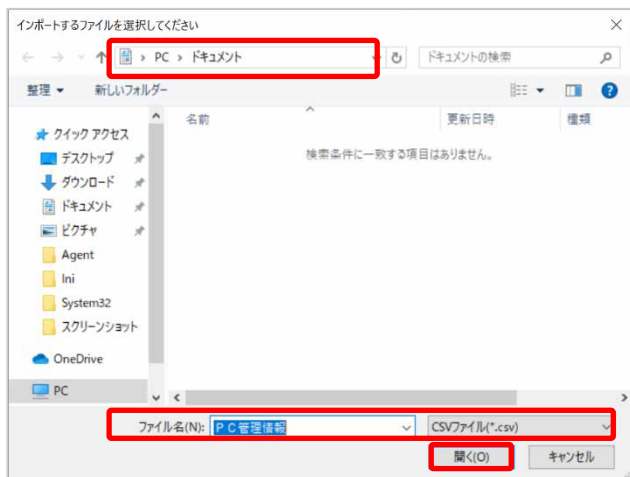
POINT

取り込み方法について

- ・ 追加のみ
すでに登録済みの端末情報があれば無視して追加のみを行います。
- ・ 追加および更新
すでに登録済みの端末情報があれば上書きします。登録済みの端末が無ければ追加を行います

ファイルを指定する画面が表示されます。

4. インポートする CSV ファイルの保存先とファイル名を指定し、「開く」をクリックします。



インポート処理が開始されます。処理が完了後、完了通知の画面が表示されます。

5. 「OK」をクリックします。

第3章

管理コンソール機能からの端末操作

複数の端末が設置されている環境で、リモートで端末を操作する場合の操作方法について説明します

- 3.1 リモート操作
- 3.2 アラート通知の確認

3.1 リモート操作

運用管理ツール 管理コンソール機能からのリモート操作に関する操作について説明します。

操作画面構成については、「1.2.2 運用管理ツール 管理コンソール(機器管理) 画面」をご覧ください。



重要

運用管理ツール 管理コンソール機能と運用管理ツール クライアント機能を同一の端末にインストールした場合、運用管理ツール 管理コンソール機能からは同一端末内の運用管理ツール クライアント機能に操作ができません(再起動を伴うような操作で誤動作を防ぐためです)。

3.1.1 端末の電源操作をする

運用管理ツール 管理コンソール機能から端末に対して、次の電源操作を指示できます。

- 電源 ON
- 電源 OFF
- 再起動
- スタンバイ
- タイマー付き電源制御



重要

- ・ 電源 ON を使用する場合、ネットワーク環境(マジックパケット)および端末がリモート電源 ON 機能(Wake On Lan)に対応している必要があります。
- ・ 端末が起動処理中などの場合は、電源 OFF や再起動の指示を設定しても動作しないことがあります。
- ・ スタンバイ状態の端末は、電源 ON の指示を設定することで復帰できます。あらかじめ端末側のネットワークアダプタの「プロパティの電源の管理」で、スタンバイ状態を解除できる設定にしてください。
なお、機種によっては、ディスプレイが復帰しない場合があります。

ここでは、電源 OFF およびタイマー付き電源制御の指示方法を例に説明します。

■ 操作手順 電源 OFF の操作方法

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「電源操作」→「電源 OFF」をクリックします。
端末を選択し、右クリックメニューからも操作できます。



3. 確認画面で、「OK」をクリックします。
端末の電源が切れます。

■ 操作手順 端末のタイマー設定をする

運用管理ツール 管理コンソール機能から端末にメッセージを表示させた後、指定時間後に電源制御(電源 OFF や再起動)する方法について説明します。

重要 端末にタイマー設定する場合

- ・ メッセージが表示されカウントダウン中にログオフすると、すぐに電源 OFF または再起動されます。

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「電源操作」→「タイマー付き電源制御」をクリックします。



「タイマー付き電源制御」画面が表示されます。

3. 「メッセージ」項目に表示させたいメッセージを入力します。

タイマー付き電源制御

クライアントPCにメッセージ表示させた後、指定時間後に電源制御を行います。

メッセージ(M): 最大文字数256バイトまで
電源を切ります!

注: 各行目以降および横スクロールしなければ見えない文字は、クライアントPCには表示されませんが、自動実行されないため適宜改行を入れるようにしてください。

動作
メッセージを表示したあと、 60 秒後に次の動作を行う。
 電源OFF (O)
 再起動 (R)
 クライアント側でキャンセルを許可する (A)

実行 キャンセル

POINT メッセージ欄に入力した状態のレイアウトで端末に表示されます。
メッセージ欄外の内容は端末には表示されません。

4. 「動作」項目を入力します。

メッセージ表示後、何秒後に電源 OFF または再起動するかを選択します。

5. 「実行」をクリックします。

端末にメッセージが表示され、指定した秒数後に電源 OFF または再起動されます。

POINT

- ・ 端末側に表示されるメッセージは、ログオンパネルやスクリーンセーバーが動作している状態でも表示されます。
- ・ メッセージ表示されている端末に、別のメッセージ表示設定をすると、新しいメッセージで上書きされます。

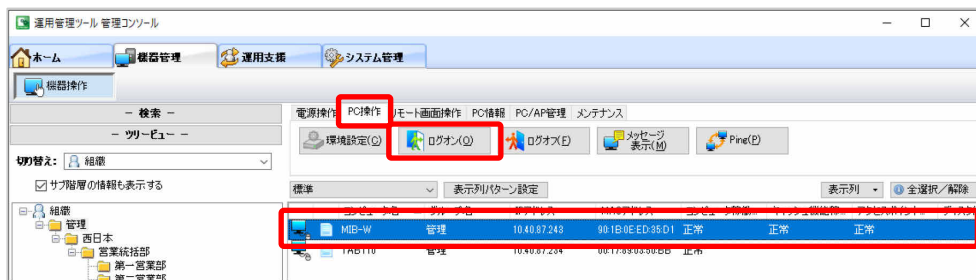
3.1.2 端末のログオン／ログオフをする

運用管理ツール 管理コンソール機能から端末に対して、Windows のログオンおよびログオフ指示ができます。

■ 操作手順 ログオンの操作方法

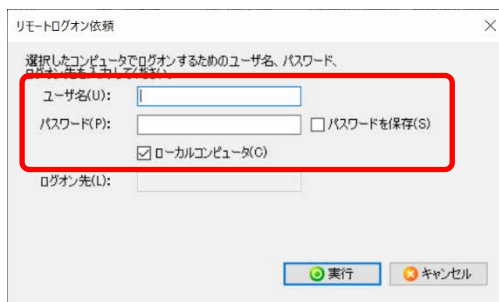
1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「PC 操作」→「ログオン」の順にクリックします。

端末 を選択し、右クリックメニューからも操作できます



「リモートログオン依頼」画面が表示されます。

3. 「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。



POINT

- ・ ログオン先がローカルコンピュータの場合、「ローカルコンピュータ」にチェックを付けてください。
- ・ ドメインにログオンする場合、「ローカルコンピュータ」のチェックを外し、「ログオン先」にドメイン名を入力してください。

例)

NETBIOS ドメイン名を指定する場合 : DOMAIN

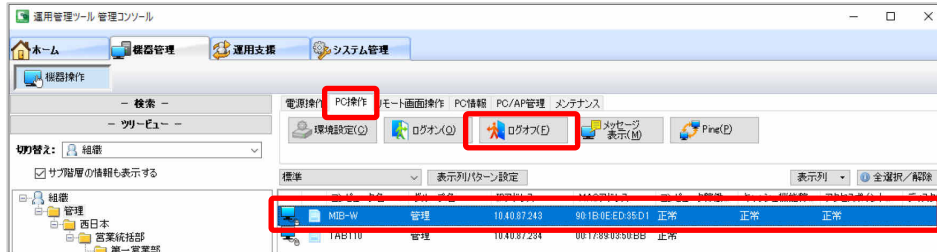
フルドメイン名を指定する場合 : domain.example

4. 「実行」をクリックします。
端末がログオンされます。

■ 操作手順 ログオフの操作方法

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「PC 操作」→「ログオフ」をクリックします。

端末を選択し、右クリックメニューからも操作できます



「リモートログオフ依頼」画面が表示されます。

3. 確認画面で「OK」をクリックします。

端末がログオフされます。



重要

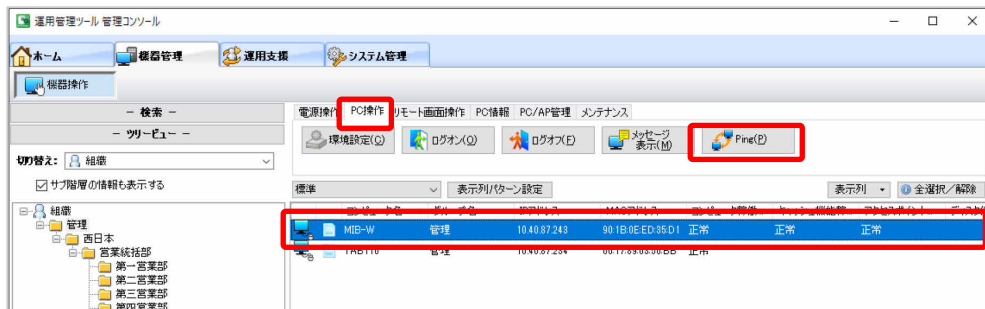
リモートログオンやログオフを行った直後に続けてリモートログオン、ログオフを行うと、処理に失敗することがあります。この場合はしばらく(10 秒程度)時間をおいてから再度実行してください。

3.1.3 端末へ Ping を実行する

運用管理ツール 管理コンソール機能から、指定した端末に Ping を実行させる操作方法について説明します。

■ 操作手順

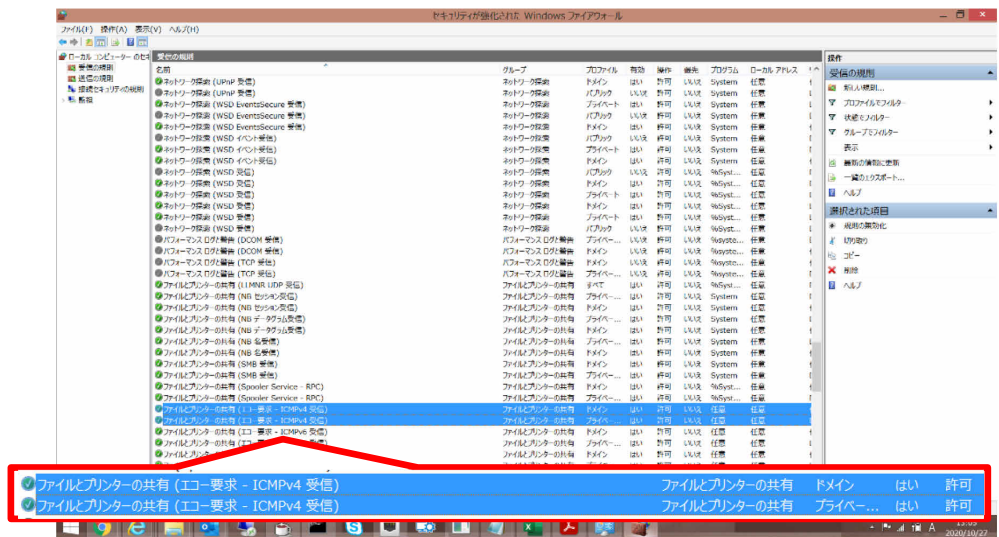
1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」を押します。
2. 操作する端末を選択し、「PC 操作」→「Ping」の順にクリックします。



端末に Ping が実行されます。

POINT

- ・ リモート操作する端末側のファイアウォールが開いている必要があります。
ファイアウォール設定の次の箇所を「許可」にしてください。

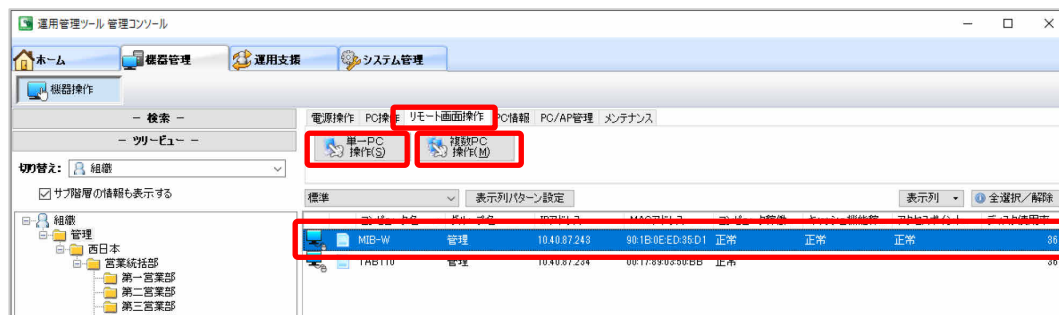


3.1.4 端末をリモート画面操作する

運用管理ツール 管理コンソール機能から端末に対して、リモート画面操作ができます。

■ 操作手順 リモート画面操作方法

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「リモート画面操作」→「単一 PC 操作」または、「複数 PC 操作」の順にクリックします。



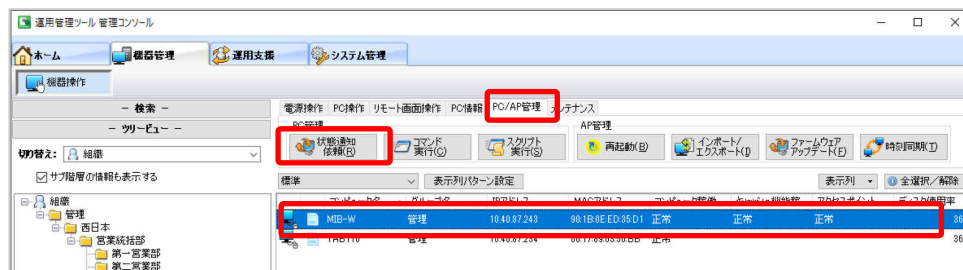
POINT ・ リモート画面操作の詳しい操作方法については、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール リモート操作ガイド』をご覧ください。

3.1.5 端末に対して状態通知依頼をする

端末の状態通知依頼を行うことができます。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「PC/AP 管理」→「状態通知依頼」をクリックします。



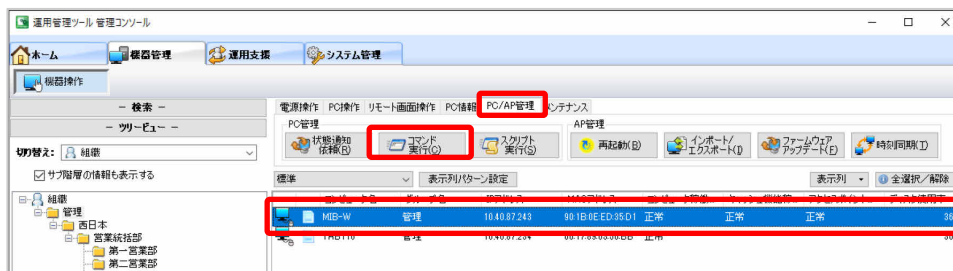
3. 端末の状態が更新されます。

3.1.6 端末に対してコマンド実行をする

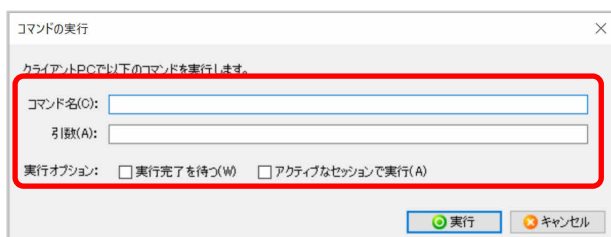
端末に対してコマンド実行を行うことができます。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「PC/AP 管理」→「コマンド実行」をクリックします。



3. 端末で実行するコマンドを入力します。



POINT

- ・ 実行完了を待つ
「実行完了を待つ」をチェックした場合、実行したコマンドが終了するまで待ち合わせを行います。
- ・ アクティブなセッションで実行
「アクティブなセッションで実行」をチェックした場合、現在ログオンしているアカウントの画面で実行します。

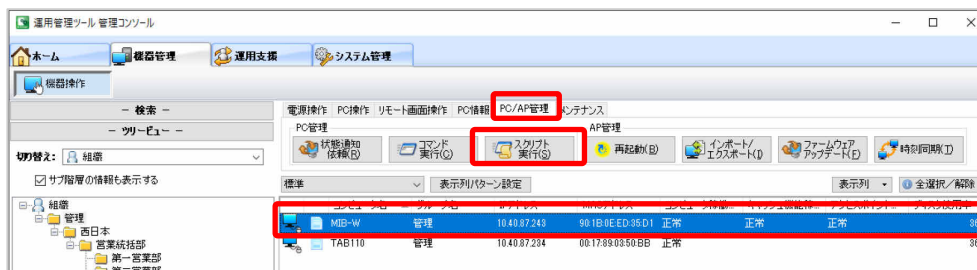
4. 「実行」をクリックします。

3.1.7 端末に対してスクリプト実行をする

スクリプトファイル実行では、スクリプト定義ファイルに沿って様々なコマンドを端末に対して一斉に実行することが可能です。運用管理ツール クライアント機能の一斉レベルアップも可能です。

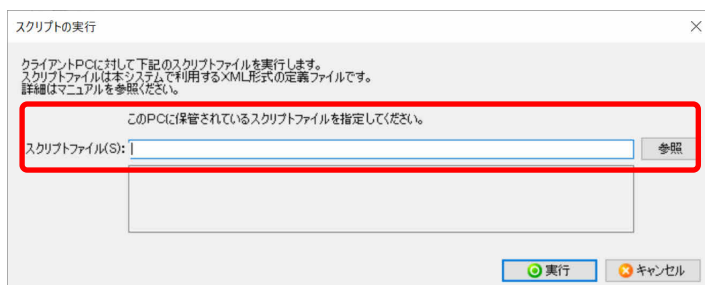
■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作する端末を選択し、「PC/AP 管理」→「スクリプト実行」の順にクリックします。



「スクリプト実行」画面が表示されます。

3. スクリプトファイルを指定します。



4. 「実行」をクリックします。



POINT

使用可能なスクリプトの仕様については、「付録 E スクリプト定義ファイル仕様」をご覧ください。

3.1.8 アクセスポイント部の再起動

エッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部だけを再起動することができます。

重要

・この機能を利用するには、エッジコンピューティングデバイスに運用管理ツールクライアント機能をインストール後、必ず「運用管理ツール/AP部 連携用パスワード設定ツール」を実行してください。上記ツールではadminのパスワードを入力する必要があります。詳しくは、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。

・アクセスポイント部の管理画面にブラウザでログインしている場合は操作に失敗します。

ログインしている場合は、ブラウザで「ログアウト」ボタンを使ってログアウトしてください。

ブラウザの「×」ボタンを押すなどしてアクセスポイント部の管理画面から正しくログアウトできていない場合も、ログイン状態が続きますので、一度管理画面にログインした後ログアウトを行ってください。

(ログアウトの方法)

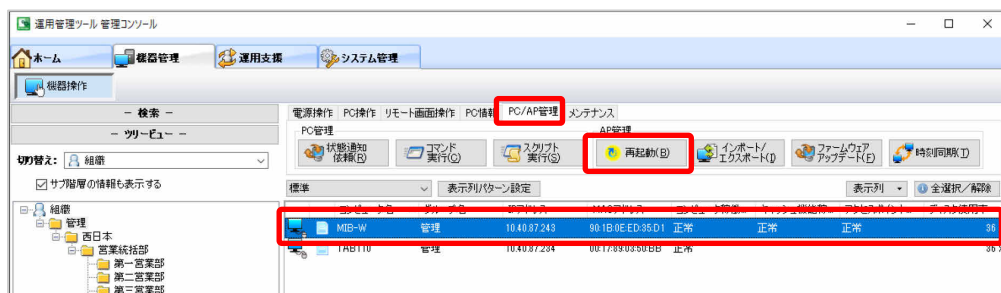
- ・管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「PC/AP管理」→「再起動」の順にクリックします。

POINT

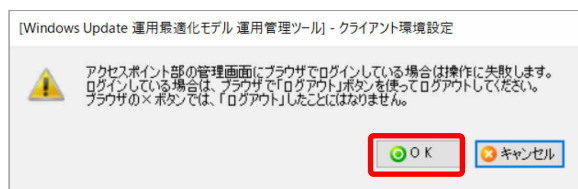
複数のエッジコンピューティングデバイスを選択することで、一度に再起動できます。「処理が完了した時に自動的にウィンドウを閉じる。」にチェックを付けると、手順 3 のあとのメッセージは表示されません。



3. アクセスポイント部の管理画面が他の操作で使用されていないかどうかを確認するメッセージが表示されます。

他の操作で管理画面を使用していると、操作を正常に終了することができません。その場合は、メッセージに従い、ブラウザで「ログアウト」してから、再度操作をお願いします。（「キャンセル」ボタンで、メッセージを閉じます。）

他の操作で使用していない場合は、「OK」をクリックしてください。



4. 「OK」をクリックします。

再起動が行われると、「アクセスポイントの再起動処理が全て正常に完了しました。」と表示されます。

POINT

「失敗:アクセスポイントに二重ログインされている可能性があります。トラブルシューティングを確認し、再度実行してください。」と表示された場合は、操作対象となるエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の管理画面がすでに開かれている可能性があります。また、アクセスポイント部の管理画面からログアウトせずに、ブラウザの×で閉じた場合も同様に表示されます。

次の内容を確認の上、再度手順 1 から実行してください。

- ・管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

5. 「閉じる」をクリックします。

3.1.9 アクセスポイント設定ファイルのインポート/エクスポート、ログファイルのエクスポート

エッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の設定情報をファイルにエクスポートしたり、エクスポートしたファイルをインポートしたりできます。また、アクセスポイントの動作情報を記録したログファイルを出力することができます。

重要

・ この機能を利用するには、エッジコンピューティングデバイスに運用管理ツールクライアント機能をインストール後、必ず「運用管理ツール/AP部 連携用パスワード設定ツール」を実行してください。上記ツールではadminのパスワードを入力する必要があります。詳しくは、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。

・ アクセスポイント部の管理画面にブラウザでログインしている場合は操作に失敗します。

ログインしている場合は、ブラウザで「ログアウト」ボタンを使ってログアウトしてください。

ブラウザの「×」ボタンを押すなどしてアクセスポイント部の管理画面から正しくログアウトできていない場合も、ログイン状態が続きますので、一度管理画面にログインした後ログアウトを行ってください。

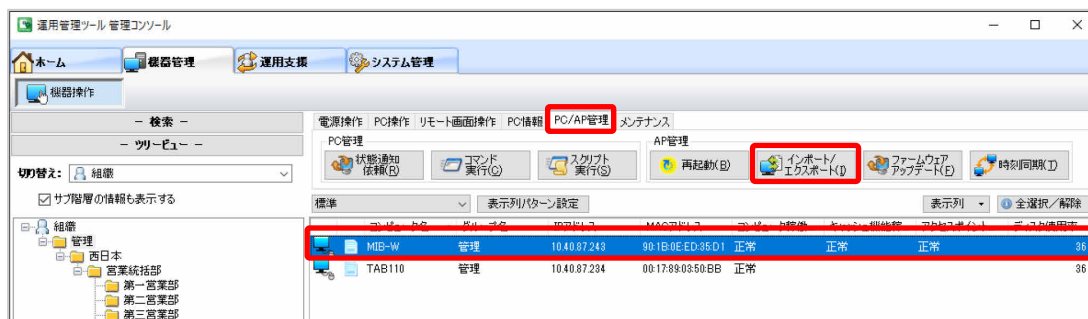
(ログアウトの方法)

- ・ 管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・ 他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

■ 操作手順 アクセスポイント設定ファイルのインポート

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「PC/AP 管理」→「インポート/エクスポート」の順にクリックします。

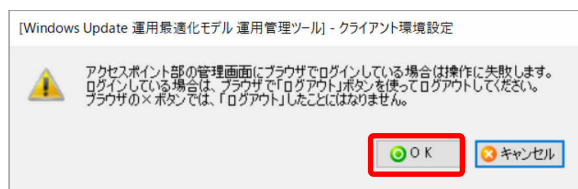
POINT インポートできるのは1台のエッジコンピューティングデバイスに対してです。



3. アクセスポイント部の管理画面が他の操作で使用されていないかどうかを確認するメッセージが表示されます。

他の操作で管理画面を使用していると、操作を正常に終了することができません。その場合は、メッセージに従い、ブラウザで「ログアウト」してから、再度操作をお願いします。（「キャンセル」ボタンで、メッセージを閉じます。）

他の操作で使用していない場合は、「OK」をクリックしてください。



処理を選択する画面が表示されます。

4. 「AP 設定ファイルのインポート」をクリックし、「OK」をクリックします。

POINT 手順 2 で複数のエッジコンピューティングデバイスを選択していると、「AP 設定ファイルのインポート」を選択できません。「キャンセル」をクリックし、手順 2 からやり直してください。

5. インポートするファイルを選択し、「インポート」をクリックします。

6. 確認の画面で、「OK」をクリックします。

インポートが終了すると、「アクセスポイント設定ファイルのインポート処理が全て正常に完了しました。」と表示されます。

POINT 「失敗:アクセスポイントに二重ログインされている可能性があります。トラブルシューティングを確認し、再度実行してください。」と表示された場合は、操作対象となるエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の管理画面がすでに開かれている可能性があります。次の内容を確認の上、再度手順 1 から実行してください。

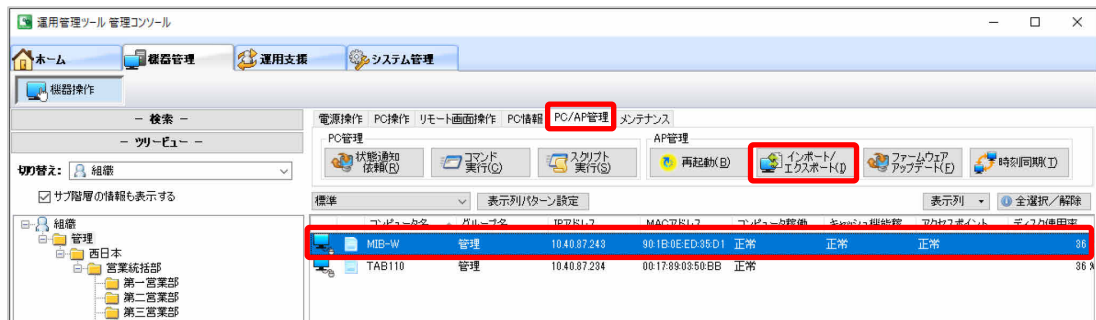
- ・管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

7. 「閉じる」をクリックします。

■ 手順 1 アクセスポイント設定ファイルのエクスポート

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「PC/AP 管理」→「インポート/エクスポート」の順にクリックします。

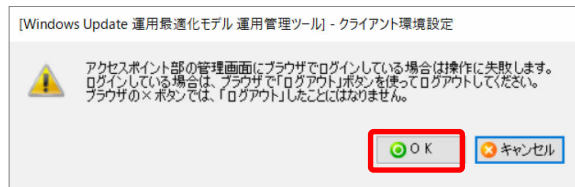
POINT 複数のエッジコンピューティングデバイスを選択することで、一度にエクスポートできます。



3. アクセスポイント部の管理画面が他の操作で使用されていないかどうかを確認するメッセージが表示されます。

他の操作で管理画面を使用していると、操作を正常に終了することができません。その場合は、メッセージに従い、ブラウザで「ログアウト」してから、再度操作をお願いします。（「キャンセル」ボタンで、メッセージを閉じます。）

他の操作で使用していない場合は、「OK」をクリックしてください。



処理を選択する画面が表示されます。

4. 「AP 設定ファイルのエクスポート」をクリックし、「OK」をクリックします。
5. エクスポートしたファイルの保存先を指定し、「エクスポート」をクリックします。

エクスポートが終了すると、「アクセスポイント設定ファイルのエクスポート処理が全て正常に完了しました。」と表示されます。

POINT 「失敗:アクセスポイントに二重ログインされている可能性があります。トラブルシューティングを確認し、再度実行してください。」と表示された場合は、操作対象となるエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の管理画面がすでに開かれている可能性があります。次の内容を確認の上、再度手順 1 から実行してください。

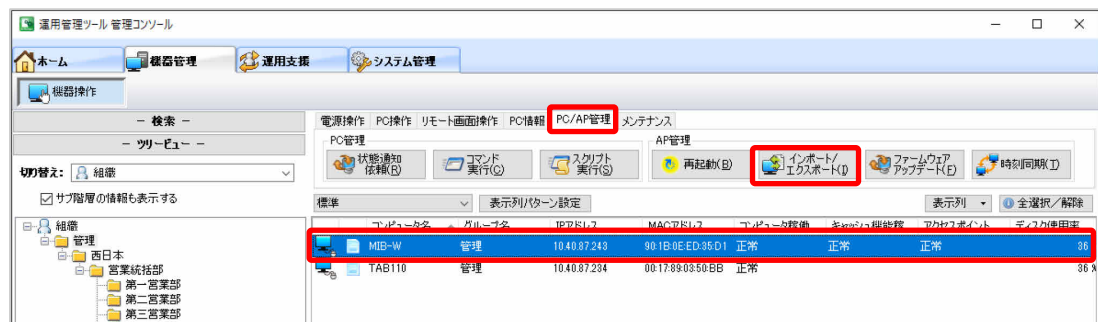
- ・管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

6. 「閉じる」をクリックします。

■ 手順 1 アクセスポイントログファイルのエクスポート

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
2. 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「PC/AP 管理」→「インポート/エクスポート」の順にクリックします。

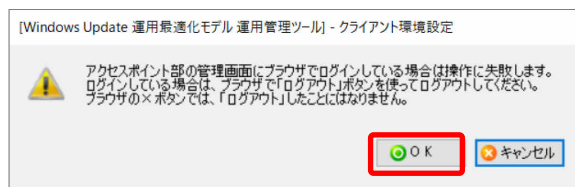
POINT 複数のエッジコンピューティングデバイスを選択することで、一度に複数のログファイルを出力できます。



3. アクセスポイント部の管理画面が他の操作で使用されていないかどうかを確認するメッセージが表示されます。

他の操作で管理画面を使用していると、操作を正常に終了することができません。その場合は、メッセージに従い、ブラウザで「ログアウト」してから、再度操作をお願いします。(「キャンセル」ボタンで、メッセージを閉じます。)

他の操作で使用していない場合は、「OK」をクリックしてください。



処理を選択する画面が表示されます。

4. 「AP ログファイルのエクスポート」をクリックし、「OK」をクリックします。

5. エクスポートしたファイルの保存先を指定し、「エクスポート」をクリックします。

エクスポートが終了すると、「アクセスポイントログファイルのエクスポート処理が全て正常に完了しました。」と表示されます。

 POINT

「失敗:アクセスポイントに二重ログインされている可能性があります。トラブルシューティングを確認し、再度実行してください。」と表示された場合は、操作対象となるエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の管理画面がすでに開かれている可能性があります。また、アクセスポイント部の管理画面からログアウトせずに、ブラウザの×で閉じた場合も同様に表示されます。

次の内容を確認の上、再度手順 1 から実行してください。

- ・管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

6. 「閉じる」をクリックします。

エクスポートされたログのファイル名と内容は次の通りです。

ログファイル名	ログの内容
acfg_event_log	無線接続端末の接続/切断ログ
messages	システムログ
attach_device	LAN/WAN 接続端末情報
dhcp.leases	DHCP リース情報

3.1.10 アクセスポイント部のファームウェアアップデート

エッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部のファームウェアをアップデートします。

重要

- ・ この機能を利用するには、事前にFTPサーバーの構築や設定が必要です。FTPサーバーの構築、設定については、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。
- ・ この機能を利用するには、エッジコンピューティングデバイスに運用管理ツールクライアント機能をインストール後、必ず「運用管理ツール/AP部 連携用パスワード設定ツール」を実行してください。上記ツールではadminのパスワードを入力する必要があります。詳しくは、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。
- ・ ここに記載された手順でファームウェアをアップデートした後は、ファームウェアの書き換え後に再起動が行われるため、アクセスポイント部が動作し始めるまで 5 分程度かかります。その間、アクセスポイント部は動作しませんのでご注意ください。また、再起動が完了するまでは、アクセスポイント部の管理画面に入ったり、再度ファームウェアをアップデートしたりできません。
- ・ アクセスポイント部の管理画面にブラウザでログインしている場合は操作に失敗します。

ログインしている場合は、ブラウザで「ログアウト」ボタンを使ってログアウトしてください。

ブラウザの「×」ボタンを押すなどしてアクセスポイント部の管理画面から正しくログアウトできていない場合も、ログイン状態が続きますので、一度管理画面にログインした後ログアウトを行ってください。

(ログアウトの方法)

- ・ 管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・ 他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

■ 操作手順

1. ファームウェアアップデートのファイルを、事前に設定した FTP サーバーのフォルダに格納します。

POINT

ファイルの格納先は、ポリシーエディタツールで設定した、「AP 操作に関する設定」-「AP ファームウェアアップデートに用いるファイルの格納先パス」で指定した場所になります。

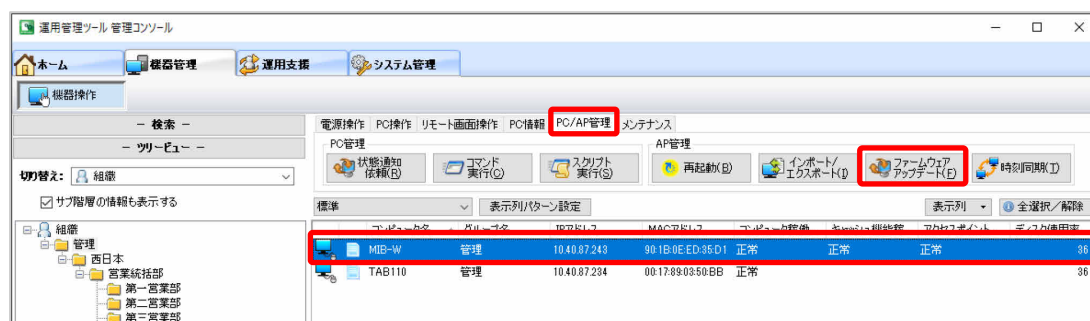
例えば、ポリシーエディタツールの格納先パスで指定したパスが、/FW_UPDATE の場合は、実際のファームウェアの格納パスは C:¥fujitsu¥FTP¥FW_UPDATE となります。

※FTP サーバーのコンテンツディレクトリが C:¥fujitsu¥FTP の場合

2. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。

- 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「PC/AP 管理」→「ファームウェアアップデート」の順にクリックします。

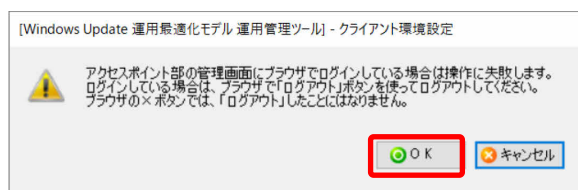
POINT 複数のエッジコンピューティングデバイスを選択することで、一度に複数のエッジコンピューティングデバイスのファームウェアをアップデートできます。



- アクセスポイント部の管理画面が他の操作で使用されていないかどうかを確認するメッセージが表示されます。

他の操作で管理画面を使用していると、操作を正常に終了することができません。その場合は、メッセージに従い、ブラウザで「ログアウト」してから、再度操作をお願いします。（「キャンセル」ボタンで、メッセージを閉じます。）

他の操作で使用していない場合は、「OK」をクリックしてください。



- ファームウェアのアップデートファイルを選択し、「アップデート」をクリックします。

- 確認の画面で、「OK」をクリックします。

ファームウェアのアップデートが終了すると、「ファームウェアのアップデート処理が全て正常に完了しました。」と表示されます。

POINT 「失敗:アクセスポイントに二重ログインされている可能性があります。トラブルシューティングを確認し、再度実行してください。」と表示された場合は、操作対象となるエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の管理画面がすでに開かれている可能性があります。また、アクセスポイント部の管理画面からログアウトせずに、ブラウザの×で閉じた場合も同様に表示されます。

次の内容を確認の上、再度手順 1 から実行してください。

- 管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- 他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

- 「閉じる」をクリックします。

3.1.11 アクセスポイント部の時刻同期

エッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の時刻設定を、管理者端末の時刻に合わせてます。

重要

- この機能を利用するには、エッジコンピューティングデバイスに運用管理ツールクライアント機能をインストール後、必ず「運用管理ツール/AP部 連携用パスワード設定ツール」を実行してください。上記ツールではadminのパスワードを入力する必要があります。詳しくは、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。

- アクセスポイント部の管理画面にブラウザでログインしている場合は操作に失敗します。

ログインしている場合は、ブラウザで「ログアウト」ボタンを使ってログアウトしてください。

ブラウザの「×」ボタンを押すなどしてアクセスポイント部の管理画面から正しくログアウトできていない場合も、ログイン状態が続きますので、一度管理画面にログインした後ログアウトを行ってください。

(ログアウトの方法)

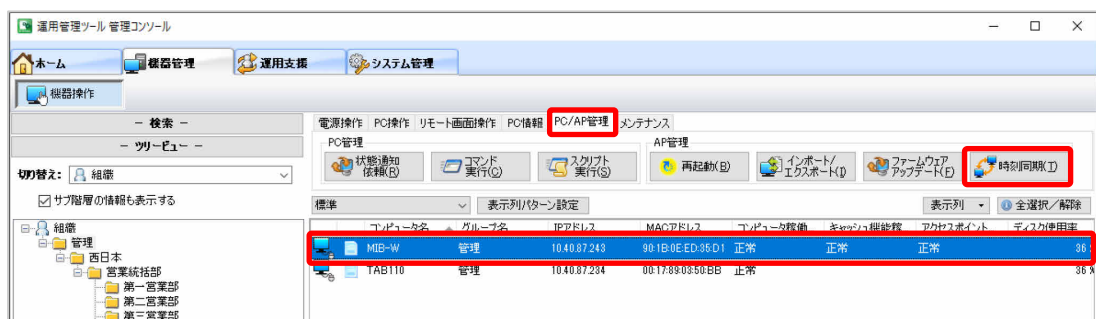
- 管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- 他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

■ 操作手順

- 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」をクリックします。
- 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「PC/AP 管理」→「時刻同期」の順にクリックします。

POINT

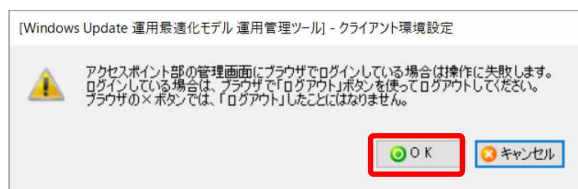
- 複数のエッジコンピューティングデバイスを選択することで、一度に複数のエッジコンピューティングデバイスの時刻を同期できます。
- エッジコンピューティングデバイスを管理対象として登録した場合は、初めにこの操作を実行してください。



3. アクセスポイント部の管理画面が他の操作で使用されていないかどうかを確認するメッセージが表示されます。

他の操作で管理画面を使用していると、操作を正常に終了することができません。その場合は、メッセージに従い、ブラウザで「ログアウト」してから、再度操作をお願いします。（「キャンセル」ボタンで、メッセージを閉じます。）

他の操作で使用していない場合は、「OK」をクリックしてください。



4. 確認の画面で、「OK」をクリックします。

時刻同期が行われると、「時刻同期処理が全て正常に完了しました。」と表示されます。

POINT

「失敗:アクセスポイントに二重ログインされている可能性があります。トラブルシューティングを確認し、再度実行してください。」と表示された場合は、操作対象となるエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の管理画面がすでに開かれている可能性があります。次の内容を確認の上、再度手順 1 から実行してください。

- ・管理コンソール機能を実行している端末(今操作している端末)のブラウザで開かれている場合は、「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。
- ・他の端末から開かれている場合は、その端末で「ログアウト」ボタンを押して正しくログアウトしてください。

5. 「閉じる」をクリックします。

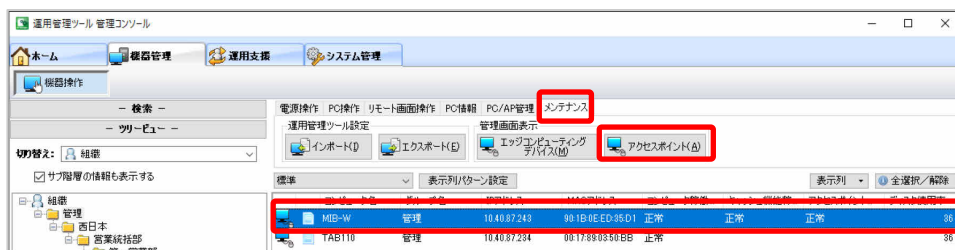
3.1.12 アクセスポイント部の管理画面を開く

運用管理ツール 管理コンソール機能から、指定したエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部の管理画面を開くことができます。

FTP サーバーを構築せずに、アクセスポイント部のファームウェアをリモートで更新したい場合や設定を変更したい場合などに、アクセスポイント部の管理画面を簡単に呼び出せます。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」を押します。
2. 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「メンテナンス」→「アクセスポイント」の順にクリックします。



ブラウザが起動し、アクセスポイント管理画面のログイン画面が表示されます。

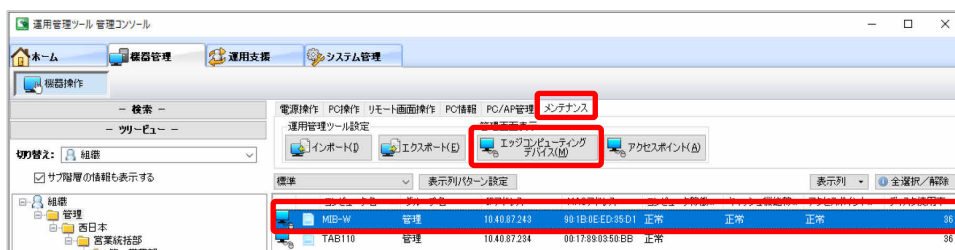
操作方法については『アクセスポイント操作ガイド』をご覧ください。

3.1.13 エッジコンピューティングデバイスの管理画面を開く

運用管理ツール 管理コンソール機能から、指定したエッジコンピューティングデバイスの管理画面を開くことができます。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「機器操作」を押します。
2. 操作するエッジコンピューティングデバイスを選択し、「メンテナンス」→「エッジコンピューティングデバイス」の順にクリックします。



ブラウザが起動し、管理画面のログイン画面が表示されます。

管理画面の操作方法については『管理ガイド』の「基本機能－管理画面」をご覧ください。

3.2 アラート通知の確認

アラート通知は、運用管理ツール サーバ機能または運用管理ツール クライアント機能で管理者に通知すべき事象が発生した場合に運用管理ツール サーバ機能に自動記録される機能です。

通知対象
端末のディスク空き容量が不足している場合
端末のファイルシステムの異常を検知した場合
端末が新規に自動登録された場合
端末のコンピュータ名がすでに登録されているコンピュータ名に変更された場合
端末のコンピュータ名が変更された場合
エッジコンピューティングデバイスのコンピュータ部分が停止 /異常を示している場合
エッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部分が異常を示している場合
エッジコンピューティングデバイスのキャッシュ機能が停止/異常を示している場合

運用管理ツール サーバ機能または運用管理ツール クライアント機能から通知されるアラートの確認方法を説明します。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(運用支援)」画面で、「アラート」をクリックします。



2. アラートが発生した期間を指定し、「検索」をクリックします。



指定した期間内のアラート情報が表示されます。

POINT 3か月以上経過したアラート情報は自動的に削除されます。

第4章 スケジューラ機能の操作

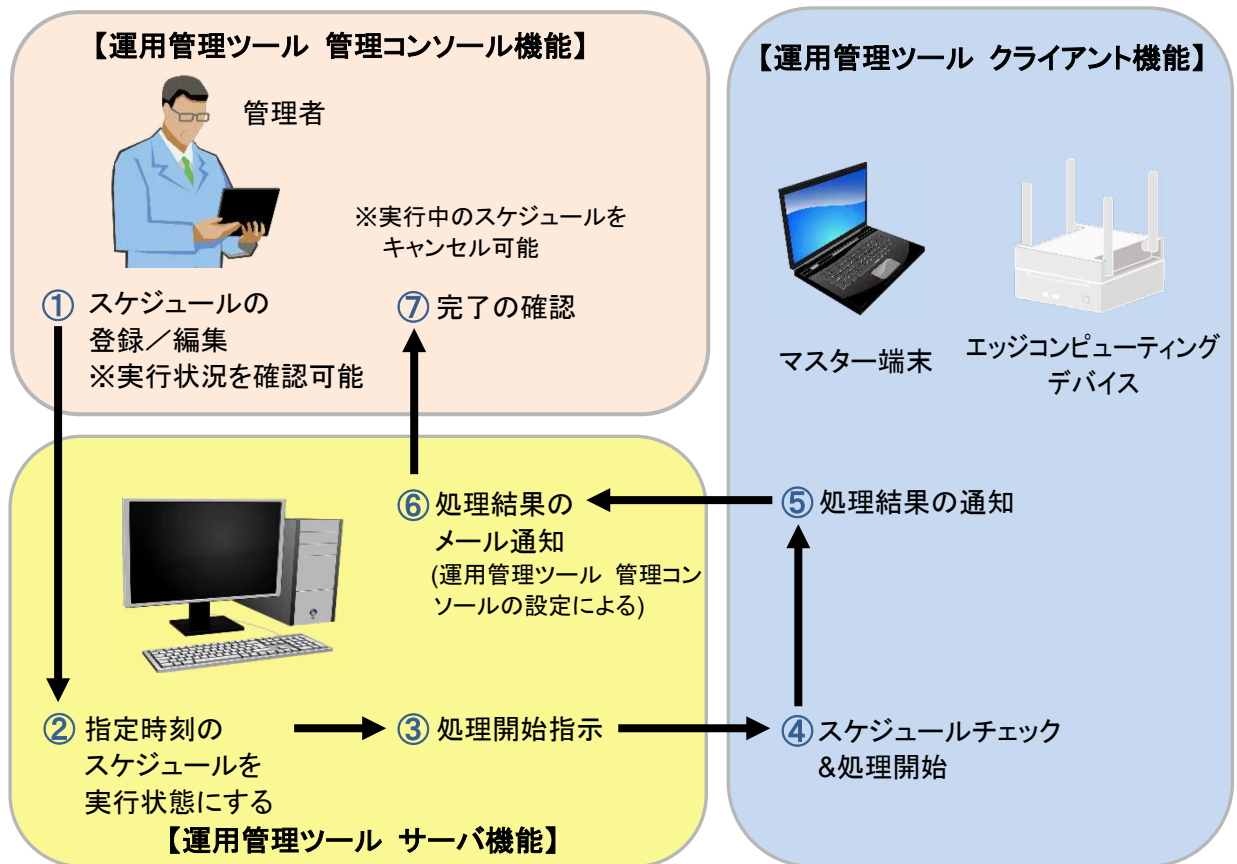
スケジューラとは、システム管理者が管理コンソール機能で指定した時刻(または即時)に、運用管理ツールの各種機能を実行する機能です。

ここでは、スケジュールの登録／編集、および実行中のスケジュールのキャンセル方法などについて説明します。

操作画面構成については、「1.2.3 運用管理ツール 管理コンソール(運用支援)画面」をご覧ください。

- 4.1 スケジューラ機能の流れ
- 4.2 スケジュールを新規登録する
- 4.3 スケジュールを編集／削除する
- 4.4 登録済のスケジュール内容を表示する
- 4.5 実行ログを確認する
- 4.6 実行中のスケジュールをキャンセルする

4.1 スケジューラ機能の流れ



- ① 運用管理ツール コンソール機能でスケジュールを登録します。また、スケジュールの編集や実行状況も確認できます。
- ② ③ 運用管理ツール サーバ機能は、指定時刻(または期間)に達したスケジュールを実行状態にし、端末に処理開始指示を行います。
- ④ ⑤ 運用管理ツール クライアント機能は、定期的に行うスケジュールがあるかをチェックし、実行するスケジュールがあれば処理を開始します。処理が完了すると、結果が通知されます。
- ⑥ 運用管理ツール コンソール機能の設定により、処理結果をメールで通知できます。
- ⑦ 随時、実行が完了したことを確認します。

4.2 スケジュールを新規登録する

スケジュール登録できる操作には、次の種類があります。

- 電源オン
- 電源オフ
- 再起動
- スタンバイ
- ログオン
- ログオフ
- Windows Update 連携 (QU 適用)
- Windows Update 連携 (FU 適用)
- コマンドライン
- スクリプト実行

ここでは、スケジュール種類を「Windows Update 連携 (FU 適用)」に設定した場合を例に説明します。

POINT

- Windows Update 連携には、QU 適用 (品質更新プログラム / Quality Update) と FU 適用 (機能更新プログラム / Feature Update) の 2 種類あります。
- Windows Update 連携の処理の流れ詳細については、「第 5 章 アップデート連携」-「アップデート連携機能を実行する」をご覧ください。

■操作手順 「Windows Update 連携 (FU 適用)」のスケジュールを設定する

重要

Windows Update 連携のスケジュール設定時には次の設定が必要です。

「Windows Update 連携 (FU 適用)」/「Windows Update 連携 (QU 適用)」設定時共通

- マスター端末有りの運用時、Windows Update 適用時にマスター端末が電源 OFF の場合、Wake On LAN を有効にする必要があります。

設定方法は、各端末のマニュアルをご覧ください。

- マスター端末有りの運用時、マスター端末に別途グループポリシーでの設定等が必要です。設定方法は、『導入ガイド』の「第4章セットアップ」-「基本機能- 初期設定 (業務端末 / マスター端末)」をご覧ください。

「Windows Update 連携 (FU 適用)」設定時

- マスター端末有りの運用時、Windows Update 適用時にマスター端末が電源 OFF の場合、Windows Update 連携のスケジュール設定の前に、電源オンのスケジュールを設定する必要があります。

「Windows Update 連携 (QU 適用)」設定時

- マスター端末有りの運用時、運用管理ツール クライアント機能のアップデート設定は必ず設定してください。

「電源オン」のスケジュールを設定する

Windows Update 連携(FU)適用のスケジュールを設定するときは、必ず事前に「電源オン」のスケジュールを設定します。

Windows Update 連携(QU)適用の場合は、この手順は不要です。P.85 から操作してください。

1. 「運用管理ツール コンソール(運用支援)」画面で、「スケジューラ」→「新規作成」の順にクリックします。



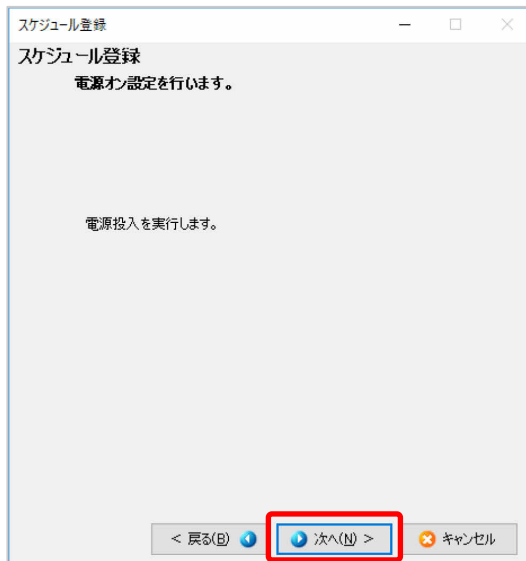
「スケジュール基本設定」画面が表示されます。

2. スケジュール内容を設定し、「次へ」をクリックします。

名称	説明
スケジュール名	スケジュール内容を区別するための名称を入力します。
スケジュール種類	実行する操作をプルダウンメニューから選択します。 選択した操作内容の説明が表示されます。
コメント	必要に応じてコメントを入力します。 コメントはスケジュール一覧に表示されます。

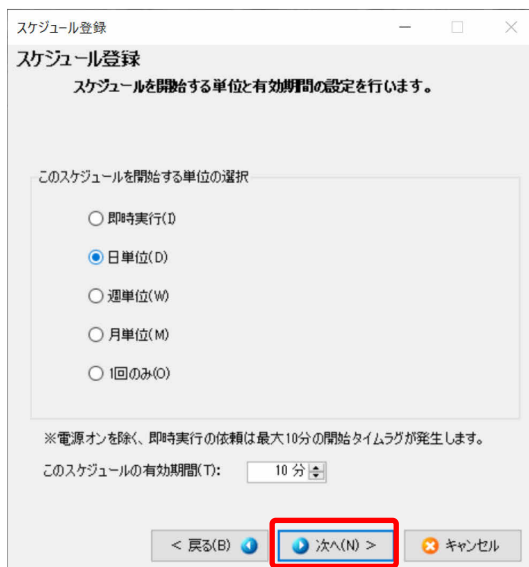
「電源オン設定を行います」画面が表示されます。

3. 「次へ」をクリックします。



「スケジュールを開始する単位と有効期間の設定を行います」画面が表示されます。

4. スケジュールを開始する単位と有効期限を指定し、「次へ」をクリックします。



ここからは、「日単位」を選択した場合を例に説明します。

「開始日時の設定(日単位)を行います」画面が表示されます。

POINT

- ・ 「即時実行」は、スケジュールを作成した直後に実行させたい場合に選択します。任意のタイミングに手動で実行させるスケジュールを作成したい場合は、「1回のみ」のスケジュールを過去の日時で作成し、作成後に実行させたいタイミングで「即時実行」をクリックして、スケジュールを実行させてください。
- ・ 「即時実行」のスケジュールを作成した場合、スケジュールが開始されるまでには最大10分のタイムラグがあります。
- ・ 「このスケジュールの有効期間」は、スケジュールが開始されてから終了するまでの時間を指定します。この期間内に端末が指示を受けて処理が開始されない場合、スケジュールの実行結果はエラーとなります。

5. 実行する時刻を指定し、「次へ」をクリックします。

「割当単位種別の設定を行います」画面が表示されます。

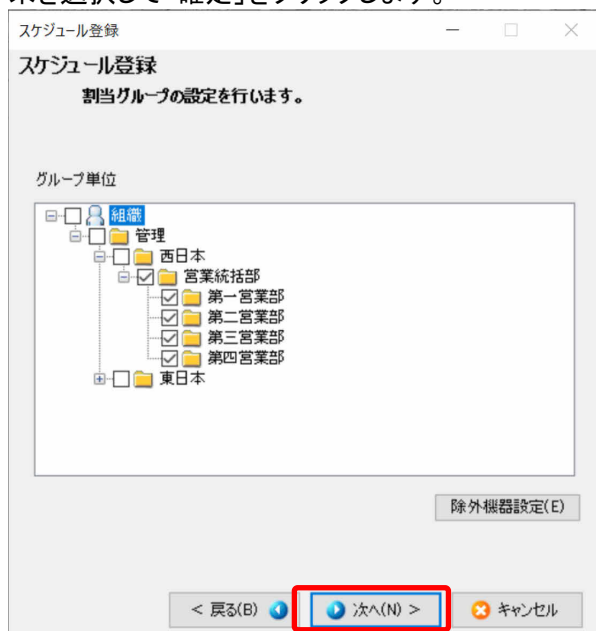
6. スケジュールを実行する単位(グループまたは機器)を選択し、「次へ」をクリックします。

名称	説明
グループ単位	グループ単位でスケジューラ機能を実行させる場合に選択します。
機器単位	端末ごとにスケジューラ機能を実行させる場合に選択します。

「割当グループの設定を行います」画面が表示されます。

7. スケジュールを実行するグループのチェックボックスにチェックを付け、「次へ」をクリックします。

スケジュールを実行させたくない端末がある場合は、「除外機器設定」をクリックし、該当する端末を選択して「確定」をクリックします。



「メール送信設定を行います」画面が表示されます。

8. スケジュール実行後にメール通知する場合は、内容を設定し、「次へ」をクリックします。

名称	説明
スケジュール終了後にメール送信を行う	スケジュール実行後にメール送信を行う場合は、チェックボックスにチェックを付けます。
送信先メールアドレス	宛先のメールアドレスを入力します。複数の宛先を入力する場合は、「;」(セミコロン)で区切ってください。
件名	発信メールの件名を入力します。
本文	通知する内容を記入します。
「テストメール送信」	クリックすると、指定した宛先へテストメールを送信します。

メール送信を行うためには、事前にメール設定が必要です。メール設定については、「付録 R メール設定」をご覧ください。

メール送信が不要な場合は、何も入力せずに「次へ」をクリックします。

9. 設定内容を確認し、変更なければ「登録」をクリックします。

設定内容を変更する場合は、「戻る」をクリックして変更してください。

スケジュール登録

スケジュール登録

以下の内容で設定を行います。

項目	設定内容
スケジュールID	未設定
スケジュール名	全台シャットダウン
スケジュール種類	電源オフ
スケジュール	毎日 17:30
有効期間	10 分
コメント	
割当種別	グループ単位

< 戻る(B) 登録 キャンセル

10. 登録完了の画面で、「完了」をクリックします。

スケジュール一覧に、登録内容が表示されます。

POINT

- すでに登録済みのスケジュール内容を参照して登録する場合は「参照作成」をクリックして、新規登録と同様の操作で登録してください。
- 登録したスケジュール内容をすぐに開始したい場合は、「即時実行」をクリックしてください(即時実行は開始まで最大 10 分のタイムラグが発生します)。
- スケジュール一覧の「最新のステータス」が「実行中」のスケジュールのみ、「キャンセル」をクリックして実行を中断できます。
- 一時的にスケジュールの実行を無効状態にするときは、「無効」をクリックしてください。スケジュールを再開するときは、「有効」をクリックしてください。

「Windows Update 連携(FU 適用)」のスケジュールを設定する

1. 「運用管理ツール コンソール(運用支援)」画面で、「スケジューラ」→「新規作成」の順にクリックします。



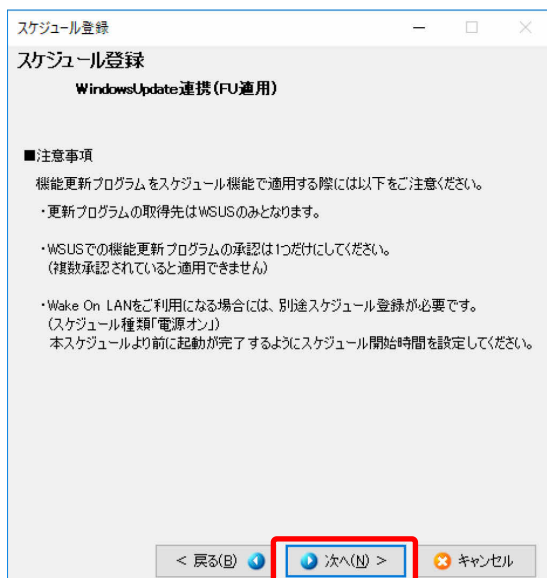
「スケジュール基本設定」画面が表示されます。

2. スケジュール内容を設定し、「次へ」をクリックします。

名称	説明
スケジュール名	スケジュール内容を区別するための名称を入力します。
スケジュール種類	実行する操作をプルダウンメニューから選択します。 選択した操作内容の説明が表示されます。
コメント	必要に応じてコメントを入力します。 コメントはスケジュール一覧に表示されます。

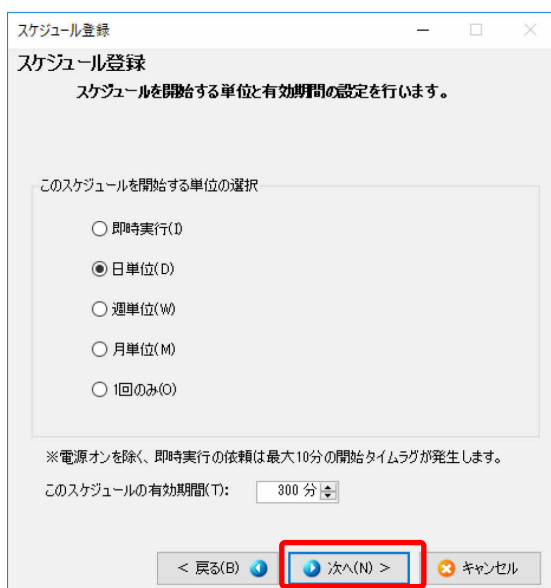
Windows Update 連携(FU 適用)の注意事項が表示されます。

3. 注意事項を確認して、「次へ」をクリックします。



「スケジュールを開始する単位と有効期限の設定を行います」画面が表示されます。

4. スケジュールを開始する単位と有効期限を指定し、「次へ」をクリックします。



ここからは、「日単位」を選択した場合を例に説明します。

「開始日時の設定(日単位)を行います」画面が表示されます。

POINT

- ・ 「即時実行」は、スケジュールを作成した直後に実行させたい場合に選択します。任意のタイミングに手動で実行させるスケジュールを作成したい場合は、「1回のみ」のスケジュールを過去の日時で作成し、作成後に実行させたいタイミングで「即時実行」をクリックして、スケジュールを実行させてください。
- ・ 「即時実行」のスケジュールを作成した場合、スケジュールが開始されるまでには最大10分のタイムラグがあります。
- ・ 「このスケジュールの有効期間」は、スケジュールが開始されてから終了するまでの時間を指定します。この期間内に端末が指示を受けて処理が開始されない場合、スケジュールの実行結果はエラーとなります。

5. 実行する時刻を指定し、「次へ」をクリックします。

「割当単位種別の設定を行います」画面が表示されます。

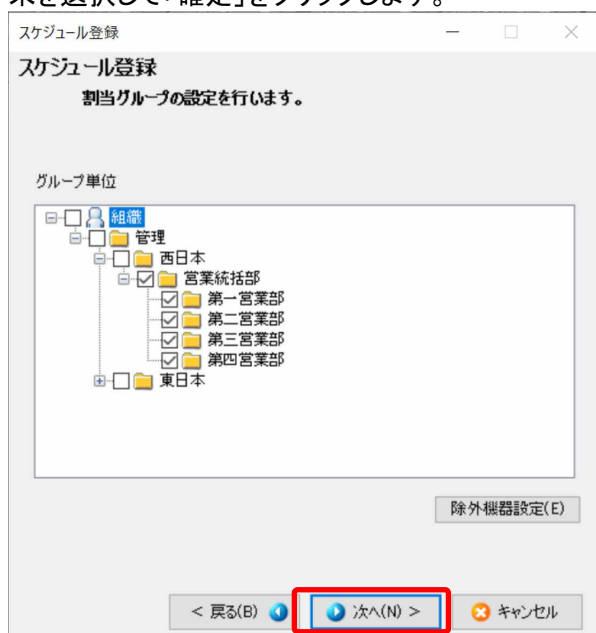
6. スケジュールを実行する単位(グループまたは機器)を選択し、「次へ」をクリックします。

名称	説明
グループ単位	グループ単位でスケジューラ機能を実行させる場合に選択します。
機器単位	端末ごとにスケジューラ機能を実行させる場合に選択します。

「割当グループの設定を行います」画面が表示されます。

7. スケジュールを実行するグループのチェックボックスにチェックを付け、「次へ」をクリックします。

スケジュールを実行させたくない端末がある場合は、「除外機器設定」をクリックし、該当する端末を選択して「確定」をクリックします。



「メール送信設定を行います」画面が表示されます。

8. スケジュール実行後にメール通知する場合は、内容を設定し、「次へ」をクリックします。

名称	説明
スケジュール終了後にメール送信を行う	スケジュール実行後にメール送信を行う場合は、チェックボックスにチェックを付けます。
送信先メールアドレス	宛先のメールアドレスを入力します。複数の宛先を入力する場合は、「;」(セミコロン)で区切ってください。
件名	発信メールの件名を入力します。
本文	通知する内容を記入します。
「テストメール送信」	クリックすると、指定した宛先へテストメールを送信します。

メール送信を行うためには、事前にメール設定が必要です。メール設定については、「付録 R メール設定」をご覧ください。

メール送信が不要な場合は、何も入力せずに「次へ」をクリックします。

9. 設定内容を確認し、変更なければ「登録」をクリックします。

設定内容を変更する場合は、「戻る」をクリックして変更してください。

スケジュール登録

スケジュール登録

以下の内容で設定を行います。

項目	設定内容
スケジュールID	未設定
スケジュール名	Windows Update(FU適用)
スケジュール種類	WindowsUpdate連携(FU適用)
スケジュール	毎日 15:19
有効期間	300 分
コメント	
割当種別	グループ単位

< 戻る(B) 登録 キャンセル

10. 登録完了の画面で、「完了」をクリックします。

スケジュール一覧に、登録内容が表示されます。

POINT

- ・ すでに登録済みのスケジュール内容を参照して登録する場合は「参照作成」をクリックして、新規登録と同様の操作で登録してください。
- ・ 登録したスケジュール内容をすぐに開始したい場合は、「即時実行」をクリックしてください(即時実行は開始まで最大 10 分のタイムラグが発生します)。
- ・ スケジュール一覧の「最新のステータス」が「実行中」のスケジュールのみ、「キャンセル」をクリックして実行を中断できます。
- ・ 一時的にスケジュールの実行を無効状態にするときは、「無効」をクリックしてください。スケジュールを再開するときは、「有効」をクリックしてください。

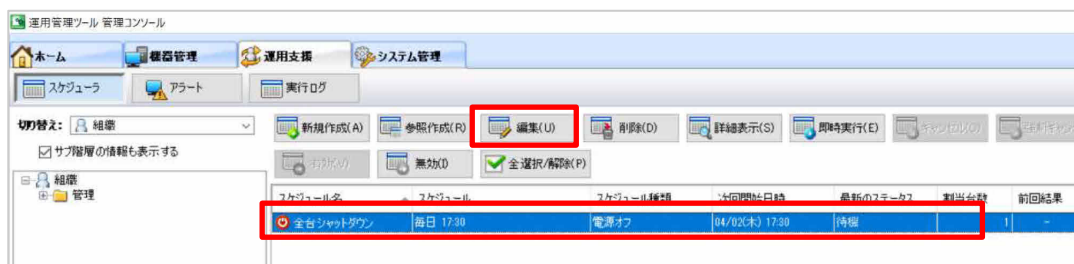
4.3 スケジュールを編集／削除する

登録済みのスケジュール内容を編集／削除する方法について説明します。

-
- POINT**
- ・ スケジュール一覧の「最新のステータス」が「実行中」のスケジュールは、編集／削除できません。
-

■操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(運用支援)」画面で、「スケジュール」をクリックします。
2. スケジュール一覧で、編集するスケジュール名を選択し、「編集」をクリックします。



-
- POINT**
- ・ 削除する場合は、削除するスケジュールを選択し、「削除」をクリックして画面の指示に従ってください。
-

「スケジュール基本設定」画面が表示されます。

3. スケジュール内容を変更し、「次へ」をクリックします。
このあとは、新規登録の手順を参考に設定を変更してください。

4.4 登録済のスケジュール内容を表示する

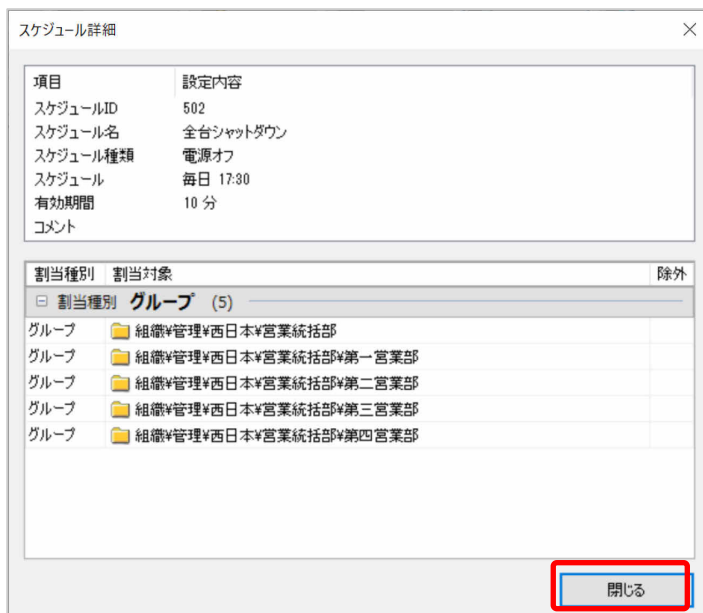
■操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(運用支援)」画面で、「スケジューラ」をクリックします。
2. スケジューラ一覧で、参照するスケジュール名を選択し、「詳細表示」をクリックします。



「スケジュール詳細」画面が表示されます。

3. 登録内容を確認後、「閉じる」をクリックします。



POINT

- ・ スケジュールに割り当てられているグループ・機器の台数を確認する場合は、「詳細表示」からご覧ください。スケジューラの一覧画面に表示されている割当台数は、スケジュールを実行した時の割当台数が表示されます。スケジュールが未実行の場合は、スケジュール登録の割当台数が表示されます。
- ・ スケジューラ一覧の「前回の結果」が「成功」もしくは「失敗」の場合、スケジュールに割り当てられた端末の「失敗」台数により、スケジュール一覧の表示色が変化します。

白: 割り当てた端末すべて成功

橙: 割り当てた端末のうち、20%未満の台数で失敗あり

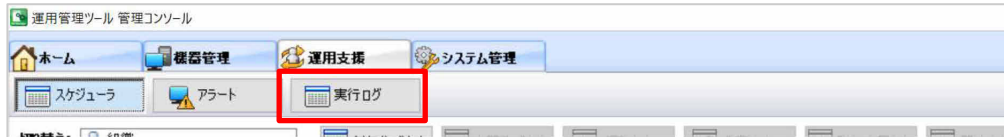
赤: 割り当てた端末のうち、20%以上の台数で失敗あり

4.5 実行ログを確認する

スケジューラ機能により実行された処理結果の確認方法を説明します。

■操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(運用支援)」画面で、「実行ログ」をクリックします。



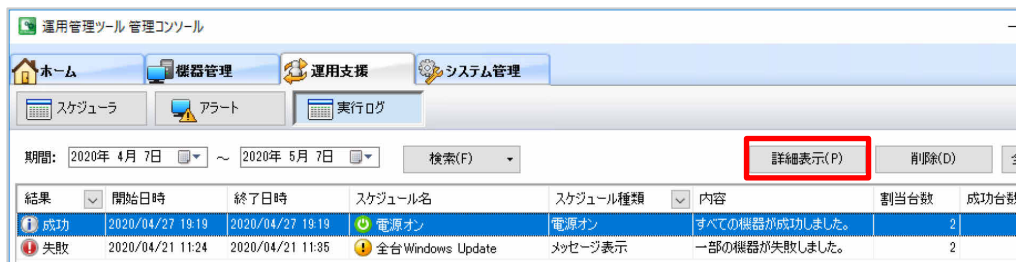
2. スケジュールの実行期間を指定し、「検索」をクリックします。



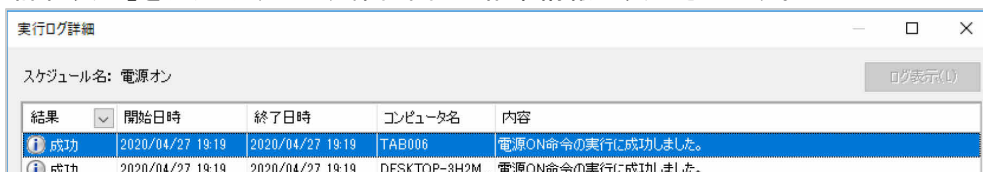
指定した期間内に実行されたスケジュール内容の結果一覧が表示されます。

POINT ・ 3か月以上経過した実行ログは自動的に削除されます。

端末単位の結果情報が存在するスケジュールの場合は、「詳細表示」が有効になります。



3. 「詳細表示」をクリックすると、端末単位の結果情報が表示されます。



さらに端末単位のログファイルが存在する場合は、「ログ表示」が有効になります。

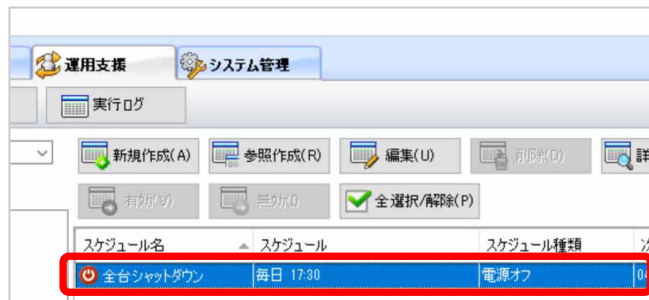
4. 「ログ表示」をクリックすると、ログファイルの内容が表示されます。

4.6 実行中のスケジュールをキャンセルする

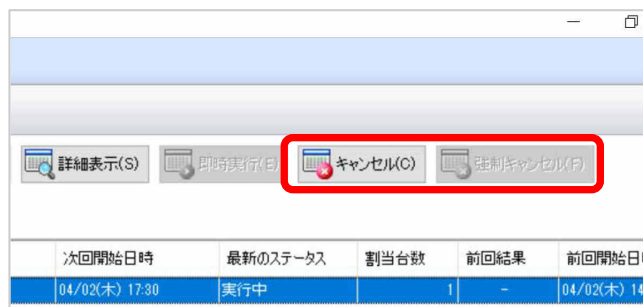
スケジューラ機能により実行されたスケジュールを、実行中にキャンセルする方法を説明します。

■操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(運用支援)」画面で、キャンセルしたいスケジュールを選択します。



2. スケジュールが実行中に「キャンセル」または「強制キャンセル」をクリックします。



ボタン	用途
キャンセル	正常に動作中のスケジュールを途中で中断したい場合に使用します。
強制キャンセル	端末で異常が発生し、処理が継続できない場合に使用します。

3. すべての端末のスケジュールをキャンセルしたい場合は「全てキャンセル」をクリックします。個々の端末をキャンセルしたい場合は、対象の端末をリストから選択し、「選択 PC をキャンセル」をクリックします。

第5章 アップデート連携の設定と実行

運用管理ツールには、Windows Update の実行を自動で行う「Windows Update 連携機能」があります。

これを「アップデート連携機能」と呼びます。

- 5.1 アップデート連携の設定
- 5.2 アップデート連携の実行
- 5.3 手動で Windows Update を実行する

5.1 アップデート連携の設定

運用管理ツールのアップデート連携を行うための設定方法を説明します。アップデート連携を実行するためには、次の2つの設定を行う必要があります。

- ・連携内容の設定
- ・スケジュールの設定

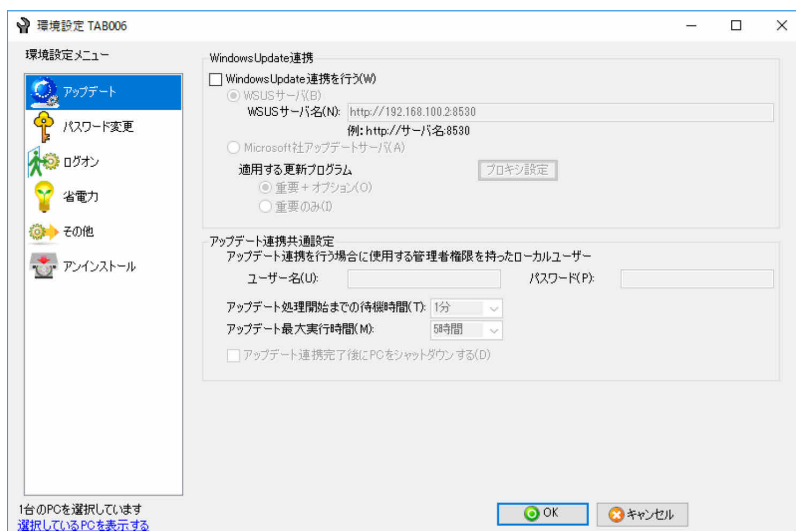
それぞれの設定方法を説明します。

5.1.1 連携内容の設定を行う

ここでは、アップデート連携の連携内容の設定方法を説明します。連携内容の設定は、運用管理ツール クライアント機能に対して行う設定です。次の説明は、運用管理ツール クライアント機能での操作手順を示していますが、運用管理ツール 管理コンソールから複数の端末の設定を一斉に行うこともできます。

■ 操作手順

1. 運用管理ツール クライアント機能の環境設定画面を開き、「アップデート」画面から設定を行います。「アップデート」画面の設定内容については「6.3 アップデート設定」をご覧ください。



POINT 各クライアントでアップデート連携の連携内容の設定が行われているかを管理コンソールから確認するには、機器管理の「Windows Update 連携設定状況」列をご覧ください。

S/Nバージョン	Windows Update連携設定状況	最終排
3.9600.18756	設定済み	2019/0

5.1.2 スケジュールの設定を行う

アップデート連携のスケジュール設定は、運用管理ツールのスケジューラ機能を利用して設定を行います。設定方法については、「第4章 スケジューラ機能の操作」をご覧ください。

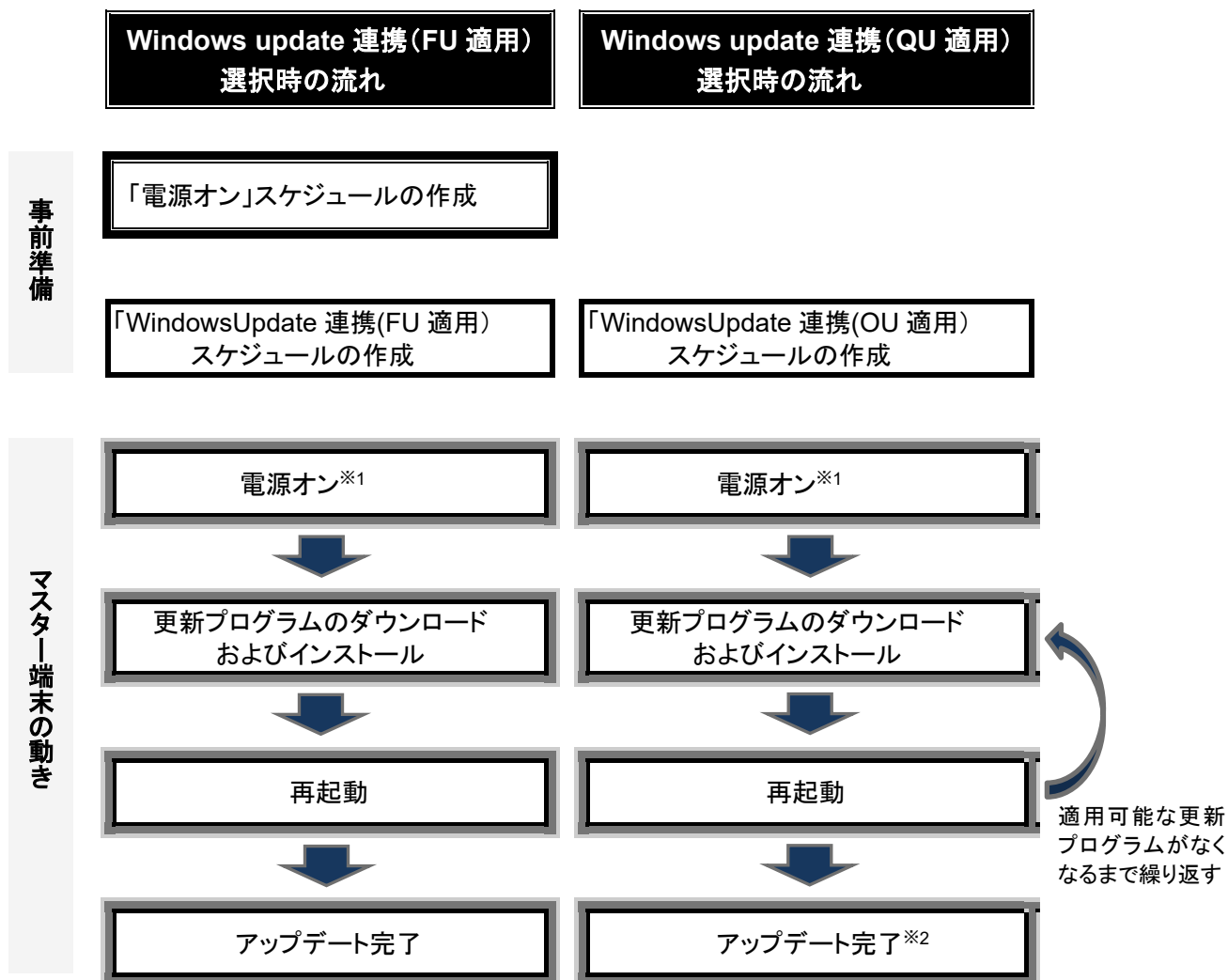
5.2 アップデート連携の実行

運用管理ツールのアップデート連携を実行する方法は次の通りです。

5.2.1 アップデート連携機能を実行する

スケジューラ機能で設定された日時になると、アップデート連携の処理が自動的に開始されます。アップデート連携の処理の流れは次のような順で自動的に行われます。

■ アップデート連携の処理の流れ



※1 ・Wake On Lan に対応していない端末は電源オンされません。事前に電源オンしてください。
・Wake On Lan に対応した端末においては、Wake On Lan 設定をしてください。

※2 運用管理ツール クライアント機能のアップデート設定にて、「アップデート連携完了後に PC をシャットダウンする」を設定した場合はシャットダウンします。

5.2.2 アップデート連携の実行結果を確認する

アップデート連携が実行されると、実行した処理結果が管理コンソール機能から参照できます。実行結果のログの参照方法については「4.5 実行ログを確認する」をご覧ください。

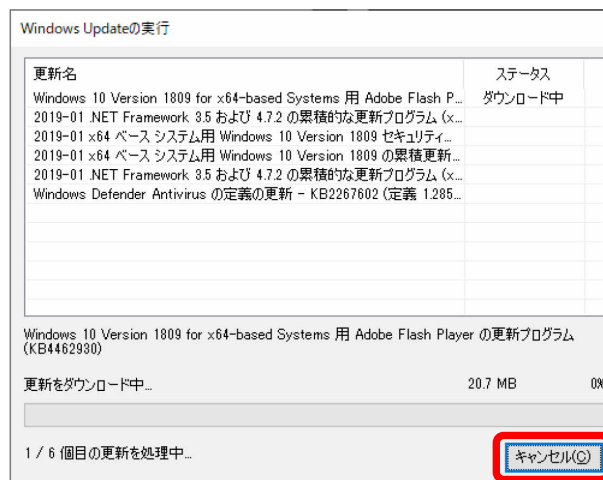
5.2.3 アップデート連携の実行をキャンセルする

運用管理ツール クライアント機能で行う方法と、運用管理ツール 管理コンソール機能から行う方法の2つの方法があります。

キャンセル処理は、更新プログラムのダウンロードやインストールなどの処理の区切りで行われますので、キャンセル処理が完了するには、数分以上要する場合があります。また、キャンセル処理では、数回の端末の再起動が行われます。キャンセル処理が完了するまでは、端末を操作しないでください。

■運用管理ツール クライアント機能からキャンセルする

運用管理ツール クライアント機能の次の画面が表示されている状態で、「キャンセル」をクリックします。このとき、運用管理ツール クライアント機能のパスワードを確認されます。パスワードを入力すると、キャンセルが受け付けられます。



■運用管理ツール 管理コンソール機能からキャンセルする

運用管理ツール 管理コンソール機能からキャンセルする手順は、「4.6 実行中のスケジュールをキャンセルする」をご覧ください。

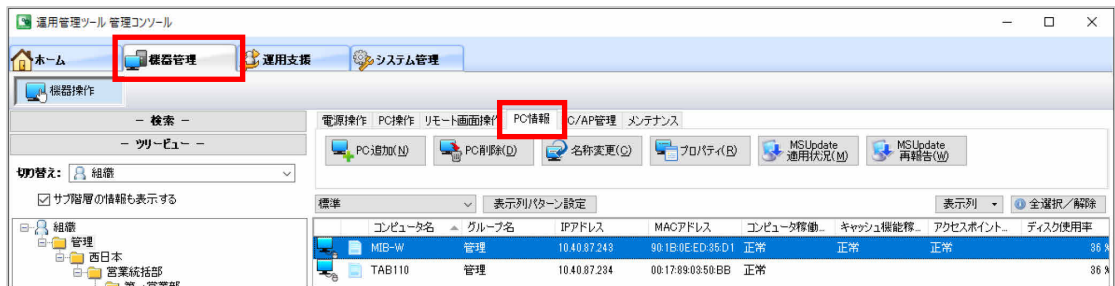
5.2.4 パッチ一覧を確認する

運用管理ツールの Windows Update 連携機能には、端末の適用済みパッチを一覧で表示する機能があります。この機能を利用してパッチの適用状況を確認できます。

■ 操作手順

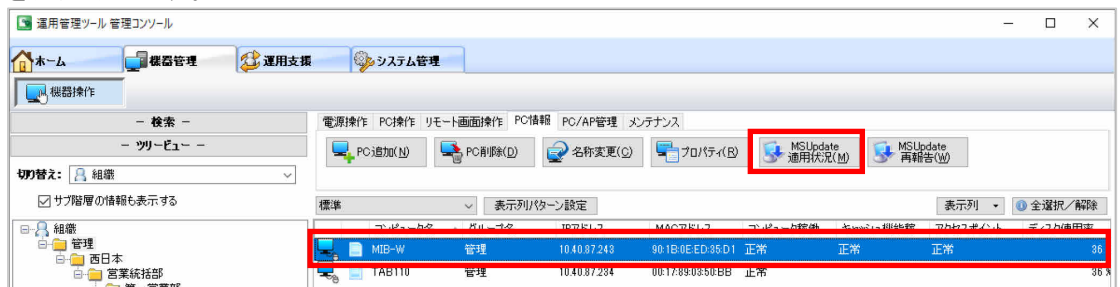
1. 運用管理ツール 管理コンソール機能の起動

運用管理ツール 管理コンソール機能(機器管理)画面から「PC 情報」をクリックします。



2. パッチ一覧を取得する端末を選択する

パッチ適用結果の一覧を表示する対象となるすべての端末を選択して、「MSUpdate 適用状況」をクリックします。



5.2.5 アップデート連携のトラブルシューティング

運用管理ツールにおけるアップデート連携のトラブルシューティングについて説明します。

■ トラブル例と対策

トラブル内容	対策
スケジュールした日時になってもアップデート連携の処理が始まらない	端末でアップデート連携の連携内容の設定が行われていないと、処理は開始されません。アップデート連携の連携内容の設定が行われているかは、管理コンソール機能の機器一覧から「Windows Update 連携設定状況」をご確認ください。
	Wake On Lan に未対応の端末の場合、端末の電源がオンでなければ開始されません。Wake On Lan 対応端末の場合、Wake On Lan の設定が行われているか確認してください。
更新プログラムの適用に失敗した	WSUS サーバを利用している場合は、WSUS サーバ名の指定が間違っていないか確認してください。 Microsoft 社アップデートサーバを利用している場合は、プロキシ設定が誤っていないか確認してください。
	スケジューラ機能の実行結果ログに、アップデート連携のログが出力されています。ログに記録されている 16 進数のエラーコードは、Windows が出力するエラーコードとなるため、マイクロソフト社の Web サイトなどから、原因を確認してください。
	端末側で、Windows が出力した WindowsUpdate.log に、詳細なログが出力されています。Windows 10 の場合は、PowerShell の Get-Window sUpdateLog コマンドを実行し、事前にログをテキスト形式に変換する必要があります。Get-WindowsUpdateLog コマンドの使い方および WindowsUpdate.log の確認方法については、マイクロソフト社の Web サイトをご確認ください。

5.3 手動で Windows Update を実行する

運用管理ツール クライアント機能をインストールした端末において、運用管理ツールのアップデート連携機能を使わずに、手動で Windows Update を実行する方法を説明します。

■ 操作手順

1. Windows の「設定」または「コントロールパネル」から Windows Update を行う。

POINT

Windows 10 では「Windows の更新時に他の Microsoft 製品のプログラムも入手します」のチェックボックスがグレーアウトし、チェックをオンにできない場合があります。この場合、次のレジストリの値を 0 に書き換えることで、チェックをオンにすることができます。

・キー名

HKLM¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥Windows¥WindowsUpdate¥AU

・エントリ名

NoAutoUpdate (REG_DWORD)

・値

1 から 0 に変更

※レジストリ変更後は、端末を再起動するとチェックボックスが操作可能になります。

POINT

リモート画面操作機能を利用することで、複数台の端末に対して、一斉に操作を行うことができます。詳しくは『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール リモート操作ガイド』をご参照ください。

2. Windows Update が完了したら端末を再起動する。

第6章 クライアント機能の操作

端末からの操作や環境設定方法について説明します。

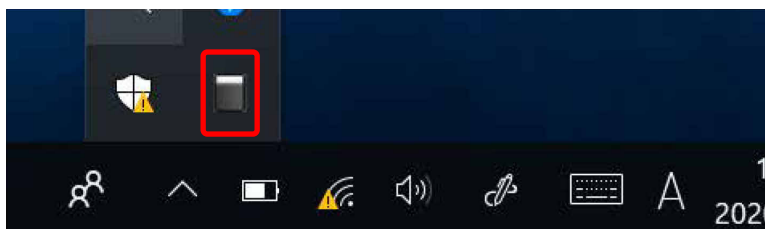
- 6.1 基本操作
- 6.2 「環境設定」画面の構成
- 6.3 アップデート設定
- 6.4 パスワード変更
- 6.5 ログオン設定
- 6.6 省電力設定
- 6.7 その他設定
- 6.8 運用管理ツール クライアント機能のアンインストール
- 6.9 運用管理ツール クライアント機能の状態確認

6.1 基本操作

運用管理ツール クライアント機能の基本的な操作について説明します。

6.1.1 タスクトレイの運用管理ツールアイコン




運用管理ツール クライアント機能がインストールされると、端末のタスクトレイに運用管理ツールアイコンが表示されます。



端末での操作は、運用管理ツールアイコンから操作を行います。

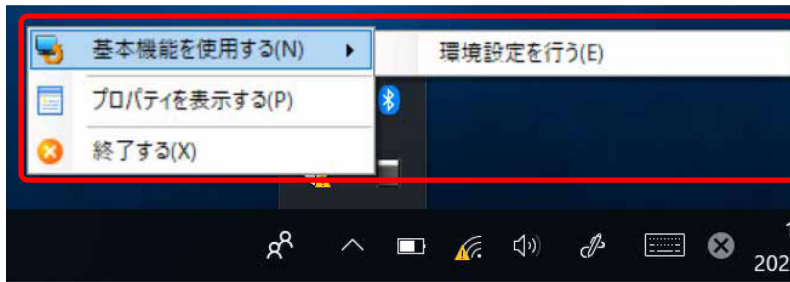
■ 運用管理ツールアイコンの種類について

運用管理ツールアイコンは、運用管理ツールの動作状態などをアイコンの種類で区別しています。各アイコンの動作状態は次のとおりです。

アイコンの種類	動作状態
	運用管理ツール クライアント機能は正常に動作しています。
	運用管理ツール クライアント機能が起動準備中です。
	運用管理ツール クライアント機能が運用管理ツールサーバに再接続中です。

■ 運用管理ツールアイコンの右クリックメニュー

運用管理ツールアイコンを右クリックすると、右クリックメニューが表示されます。



右クリックメニューから次の機能が選択できます。

POINT 機能メニューは、運用管理ツール クライアント機能の動作状況によって非表示となっている場合や、無効となっている場合があります。

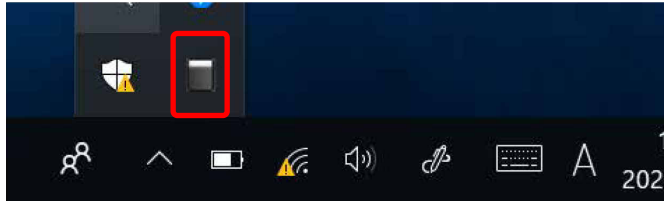
機能メニュー	説明
基本機能を使用する	端末の基本機能を設定します。
環境設定を行う	端末の動作環境の変更などを行います。
プロパティを表示する	製品のバージョン情報を表示します。
終了する	<p>運用管理ツールアイコンを終了します。</p> <p>再度運用管理ツールアイコンを表示させたい場合は、製品インストールフォルダの、BzTary.exe を実行します。</p> <p>アイコンが終了されていても、運用管理ツール 管理コンソール機能からの指示は受け付けられます。</p> <p>製品インストールフォルダの初期値は次の通りです。</p> <p>32 ビット OS C:\Program Files\FCCLECW management tool\Console</p> <p>64 ビット OS C:\Program Files(x86)\FCCLECW management tool\Console</p>

6.1.2 基本機能の「環境設定」画面の起動

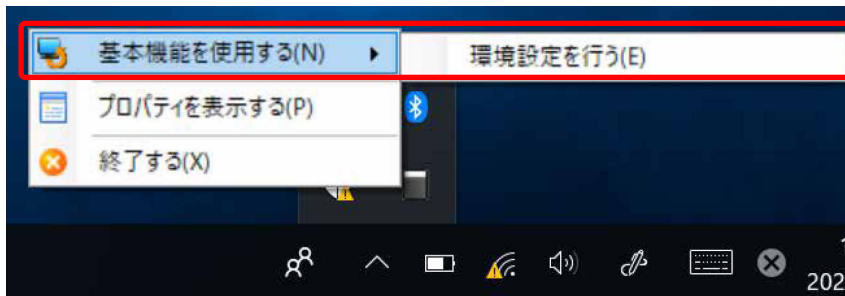
基本機能の「環境設定」画面の表示方法について説明します。

■ 操作手順

1. タスクトレイの運用管理ツールアイコンを右クリックします。

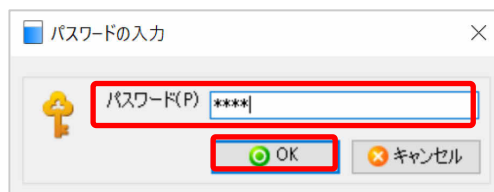


2. 右クリックメニューで、「基本機能を使用する」→「環境設定を行う」の順にクリックします。



「パスワード入力」画面が表示されます。

3. 運用管理ツール クライアント機能をインストール時に設定したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



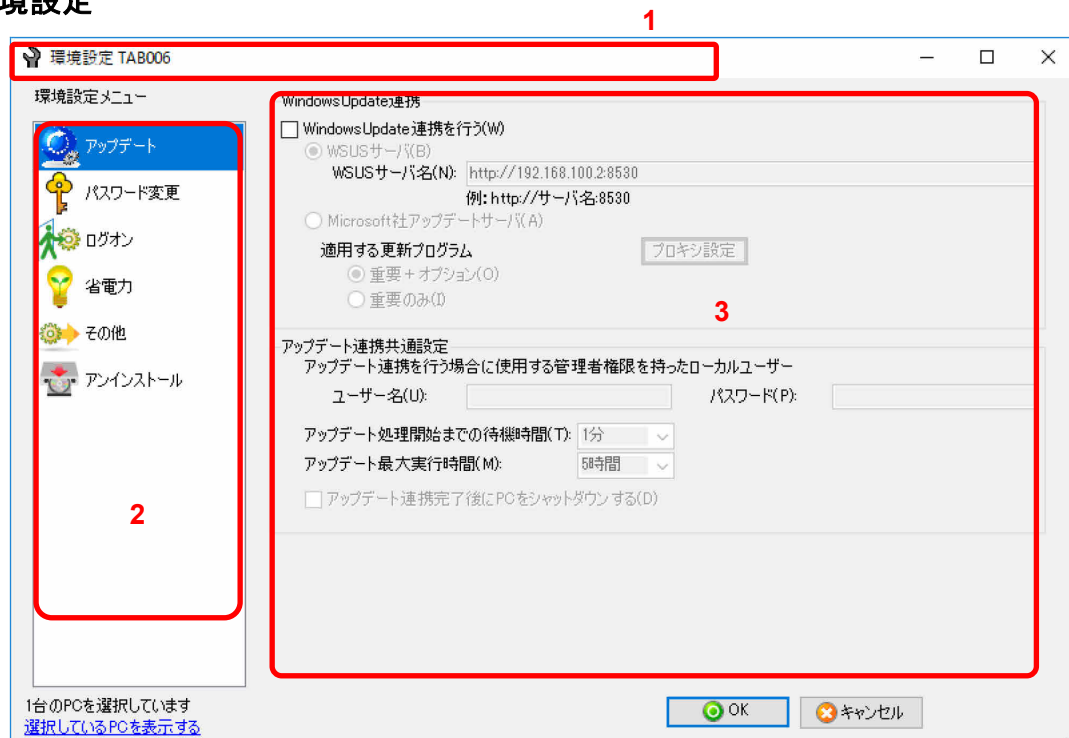
6.2 「環境設定」画面の構成

使用する機能のメニューをクリックすると、各操作画面が表示されます。

6.2.1 「環境設定」画面

「環境設定」画面の基本構成について説明します。

■ 環境設定



1. タイトルバー

「環境設定 コンピュータ名」が表示されます。

2. 環境設定メニュー域

機能メニューが表示されます。

3. 操作域

環境設定メニュー域で選択した機能の設定項目が表示されます。

6.3 アップデート設定

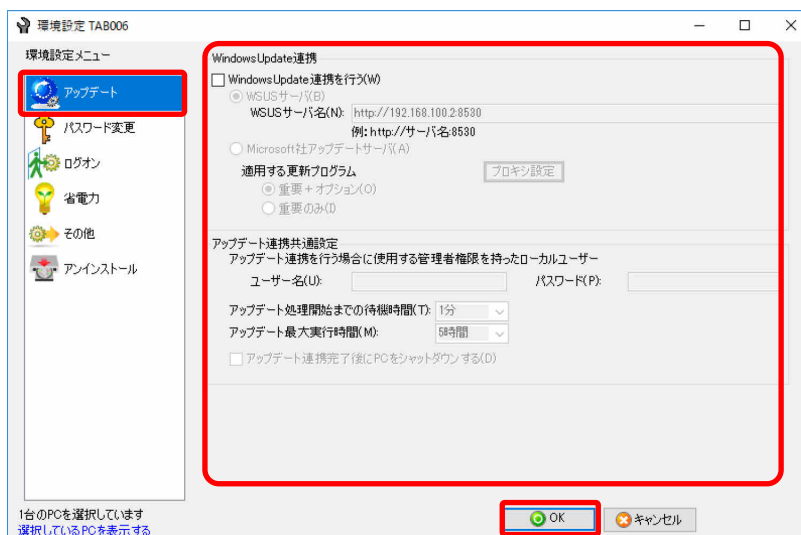
運用管理ツールには、Windows Update の実行を自動で行う Windows Update 連携機能があります。これをアップデート連携機能と呼びます。ここでは、Windows Update 連携機能の設定方法について説明します。

重要

1. アップデート設定での設定値は、品質更新プログラム (QU) 適用時のみ使用されます。機能更新プログラム適用時は、別途 WSUS サーバー等の設定が必要となります。
詳しくは、『導入ガイド』-「第4章 セットアップ」-「2.基本機能 - 初期設定」をご覧ください。
2. マスター端末有りの運用時、アップデート設定は必ず設定してください。

■ 操作手順

1. 「アップデート」をクリックします。
2. Windows Update のアップデート設定を行います。



項目名	内容
Windows Update 連携を行う	Windows Update 連携を行いたい場合は、チェックします。
WSUS サーバ	WSUS サーバを使う場合に選択し、WSUS サーバ名を入力します。
Microsoft 社アップデートサーバ	Microsoft 社のアップデートサーバを使う場合に選択します。その際、適用させる更新プログラムを「重要 + オプション」「重要のみ」のいずれかを選択します。また、必要に応じて、プロキシの設定を行ってください。

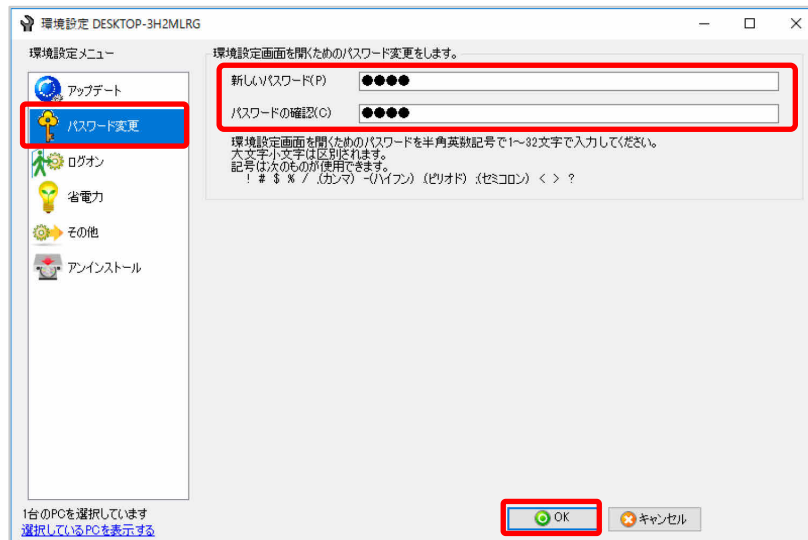
項目名	内容
アップデート連携共通設定	Windows Update 連携を「スケジュール連携」で行う場合、この項目を設定する必要があります。
アップデート連携を行う場合に使用する管理者権限を持ったローカルユーザー	<p>運用管理ツール クライアント機能をインストールしている端末(マスター端末、エッジコンピューティングデバイス)の管理者権限を持った Windows のローカルユーザーのアカウント名とパスワードを入力します。</p> <p>アップデート連携の実行時は、ここで指定したアカウントで自動的に Windows にログオンされ、アップデート処理が実行されます。</p> <p>誤った情報を入力した場合は、環境設定画面で「OK」をクリックした際にエラーになります。</p> <p>また、次のような場合はアップデート連携の設定と実行に失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルユーザーアカウントにパスワードを設定しなかった場合 ・ローカルユーザーアカウントではなく、ドメインアカウント名とパスワードを設定した場合 <p>必ずパスワードを設定したローカルユーザーアカウント名とパスワードを入力してください。</p>
アップデート処理開始までの待機時間	<p>アップデート連携の処理で、自動ログオンされてから、アップデートの処理が開始されるまでの待ち時間を指定します。</p> <p>アップデートの処理開始が早すぎてアップデートに失敗する場合は、時間を長くしてください。</p>
アップデート最大実行時間	<p>アップデート連携処理に要する最大の時間を指定します。</p> <p>ここで指定した時間内にアップデート連携処理が終わらない場合は処理を中断し、その時点までに適用できた更新プログラムが反映された状態で終わります。</p> <p>時間切れで適用できなかった更新プログラムは、次のアップデート連携時に適用されます。</p> <p>適用すべき更新プログラムが多い場合や、更新プログラムのダウンロードに時間がかかる場合などは、時間を長くしてください。</p>
アップデート連携完了後に PC をシャットダウンする	<p>チェックをすると、アップデート連携完了後に端末がシャットダウンされます。</p> <p>チェックしない場合は、アップデート連携完了後に端末は再起動され、起動した状態で終わります。</p>

6.4 パスワード変更

運用管理ツール クライアント機能のパスワードの変更方法について説明します。

■ 操作手順

1. 「パスワード変更」をクリックします。
2. 新しいパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



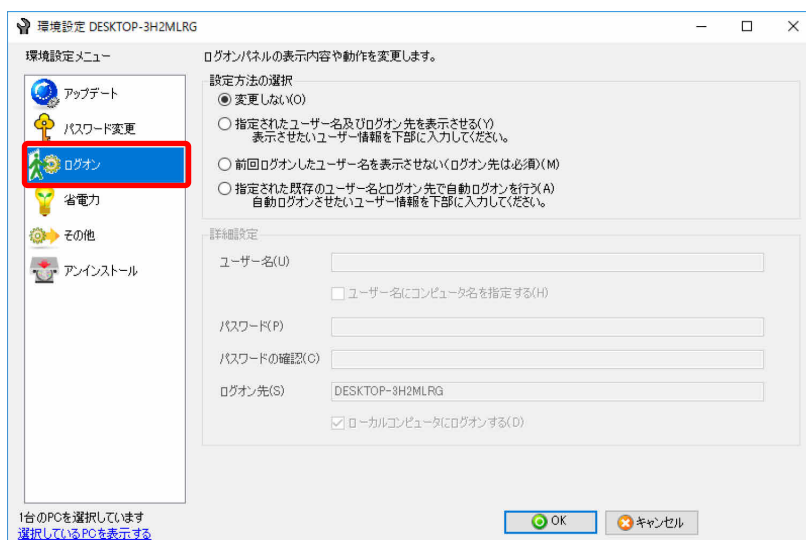
6.5 ログオン設定

端末における Windows のログオンパネルの表示内容や動作設定を変更できます。

■ 操作手順

1. 「ログオン」をクリックします。

画面の説明に従い、ログオンパネルの設定を行います。



項目名	内容
変更しない	ログオン画面の表示内容や動作を変更しない場合に選択します。
指定したユーザー名及びログオン先を表示させる	固定のユーザー名とログオン先をログオン画面に表示させたい場合に選択します。 この項目を選択すると、下部のユーザー名とログオン先が入力可能になります。
前回ログオンしたユーザー名を表示させない	ログオン画面にユーザー名を表示させない(ユーザー名を空にする)場合に選択します。
指定された既存のユーザー名とログオン先で自動ログオンを行う	自動ログオンをさせたい場合に選択します。 この項目を選択すると、下部のユーザー名、パスワード、ログオン先が入力可能になります。

POINT

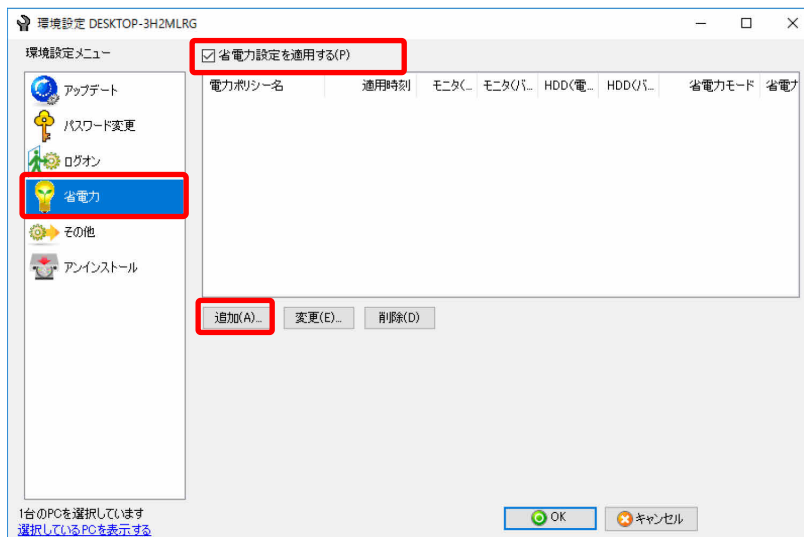
「指定された既存のユーザー名とログオン先で自動ログオンを行う」の設定後、設定を変更したい(自動ログオンを辞めたい)場合は、「前回ログオンしたユーザー名を表示させない」に設定し、再起動してください。その後、「変更しない」に設定し直してください。

6.6 省電力設定

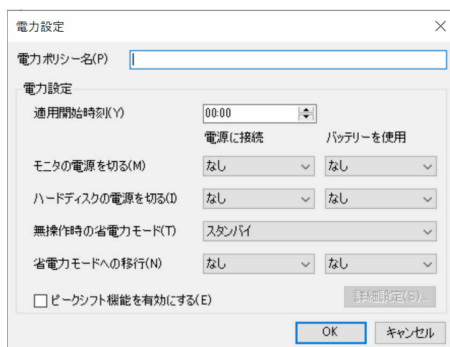
端末の省電力に関する設定を時間ごとに細かく設定できます。

■ 操作手順

1. 「省電力」をクリックします。
2. 「省電力設定を適用する」をチェックし、「追加」をクリックします。



3. 画面の説明に従い、電力設定を行います。



項目名	内容
電力ポリシー名	省電力設定に任意に名前を付けます。 例:「授業中の電力設定」、「放課後の電力設定」
適用開始時刻	この電力設定の適用を開始させる時刻を指定します。 ※適用の終了時刻はありません。別の電力ポリシーの適用時刻が来ると、これまで適用されていた電力ポリシーが終了します。
モニターの電源を切る	モニターの電源を切るまでの時間を、電源接続時とバッテリー使用時のそれぞれで指定します。
ハードディスクの電源を切る	ハードディスクの電源を切るまでの時間を、電源接続時とバッテリー使用時のそれぞれで指定します。

項目名	内容
無操作時の省電力モード	端末を一定時間操作しなかった場合に動作する省電力モードを、「スタンバイ」、「シャットダウン」のいずれかから選択します。
省電力モードへの移行	省電力モードへ移行するまでの時間を、電源接続時とバッテリー使用時のそれぞれで指定します。
ピークシフト機能を有効にする	ピークシフト機能を使って電力消費量の制御を行いたい場合は、チェックボックスを有効にし、詳細設定ボタンを押し設定を行います。 ピークシフトの詳細設定では、バッテリーの充電抑止と、AC 電源からの電力供給抑止を行う時刻を設定できます。

 **重要**

「無操作時の省電力モード」で「シャットダウン」を選択した場合、シャットダウン設定時刻の1分前に、本当にシャットダウンして良いかの確認ダイアログを表示し、カウントダウンが始まります。

ここで「キャンセル」をクリックするとシャットダウンはキャンセルされ、「OK」をクリックすると即座にシャットダウンが開始されます。作業中のデータを保存しないままシャットダウンすると、作業中のデータは失われますので注意してください。

 **POINT**

運用管理ツールで設定した省電力モードへの移行時間は、OS のコントロールパネルの電源オプションにある「コンピューターをスリープ状態にする」の待ち時間に設定されます。

省電力設定によるシャットダウン前の確認ダイアログの表示時間は 1 分固定になっており変更できません。

 **POINT**

ピークシフト機能が利用できるのは、2008 年以降に発売された富士通製のノート PC やタブレット PC です。対象機種などの詳しい情報は、富士通のピークシフトのホームページをご覧ください。

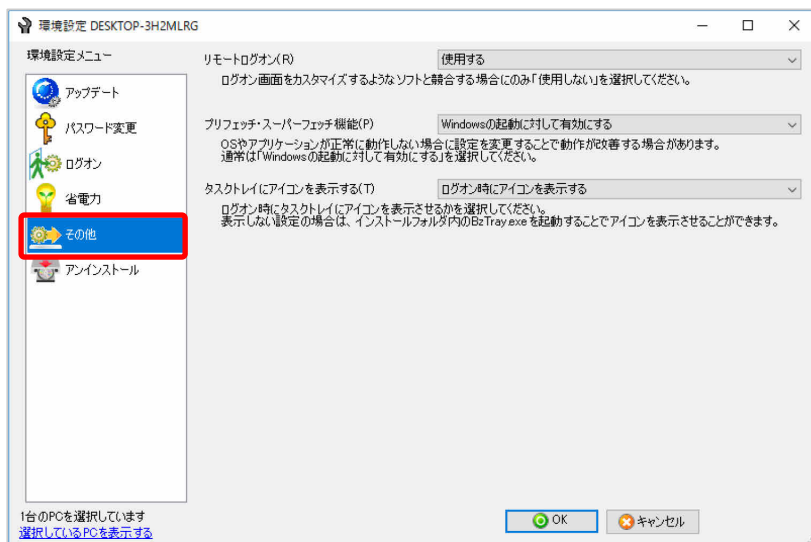
6.7 その他設定

その他、運用管理ツール クライアント機能の設定について説明します。

■ 操作手順

1. 「その他」をクリックします。

画面の説明に従い、各種設定を行います。



項目名	内容
リモートログオン	リモートログオンの機能を使用するか、使用しないかを選択します。 ログオン画面をカスタマイズするソフトウェアと競合が発生した場合に、「使用しない」を選択してください。
スーパーフェッチ・プリフェッチ機能	オペレーティングシステムやアプリケーションの起動を高速化させる機能であるプリフェッチ・スーパーフェッチ機能の設定を変更します。 初期値では「Windows の起動に対して有効にする」になっています。 オペレーティングシステムの起動が非常に遅くなった、またはディスクへのアクセスやアプリケーションの起動が遅い場合は、この機能を無効にしてください。 【設定を変更しない】 現在の設定値を変更しない場合に選択します。 【無効にする】 プリフェッチ・スーパーフェッチ機能を無効にする場合に選択します。 【アプリケーションの起動に対して有効にする】 アプリケーションの起動に対してのみ、プリフェッチ・スーパーフェッチ機能を有効にする場合に選択します。 【Windows の起動に対して有効にする】 Windows の起動に対してのみ、プリフェッチ・スーパーフェッチ機能を有効にする場合に選択します。 【アプリケーションと Windows の起動に対して有効にする】 アプリケーション、および Windows の起動に対して、プリフェッチ・スーパーフェッチ機能を有効にする場合に選択します。

項目名	内容
タスクトレイにアイコンを表示する	<p>タスクトレイに、運用管理ツールアイコンを表示するかしないかを選択します。</p> <p>端末の利用者に運用管理ツールの存在を見えないようにする場合は、アイコンを非表示にしてください。</p> <p>※非表示にした運用管理ツールアイコンを表示する場合は、運用管理ツール クライアント機能のインストールフォルダ内の「BzTray.exe」を実行してください。</p> <p>製品インストールフォルダの初期値は次の通りです。</p> <p>32 ビット OS C:\Program Files\FCCLECW management tool\Console</p> <p>64 ビット OS C:\Program Files(x86)\FCCLECW management tool\Console</p>

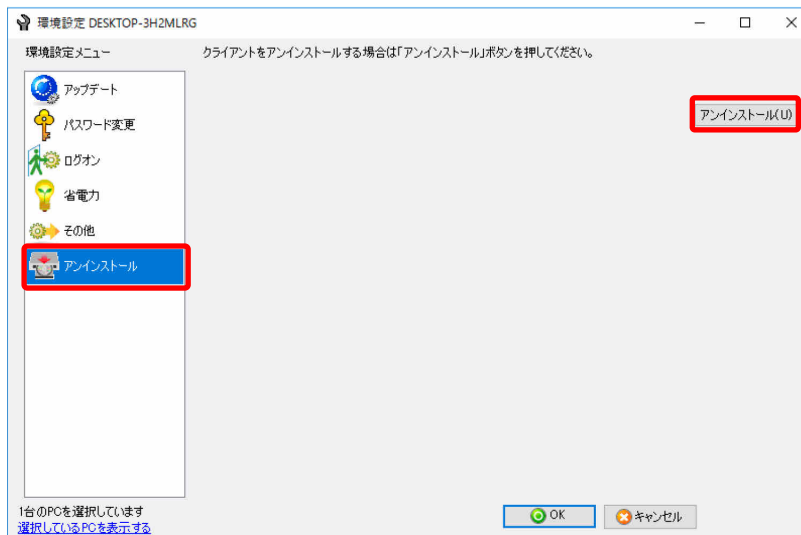
6.8 運用管理ツール クライアント機能のアンインストール

運用管理ツール クライアント機能からアンインストールを行う方法を説明します。

運用管理ツール 管理コンソール機能からのアンインストール方法については、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。

■ 操作手順

1. 「アンインストール」→「アンインストール」の順にクリックします。



2. 画面の指示に従い、運用管理ツール クライアント機能のアンインストールを行います。

6.9 運用管理ツール クライアント機能の状態確認

運用管理ツール クライアント機能の状態を確認する方法を説明します。

運用管理ツール クライアント機能の状態は、「プロパティ」画面から確認できます。

① 製品情報

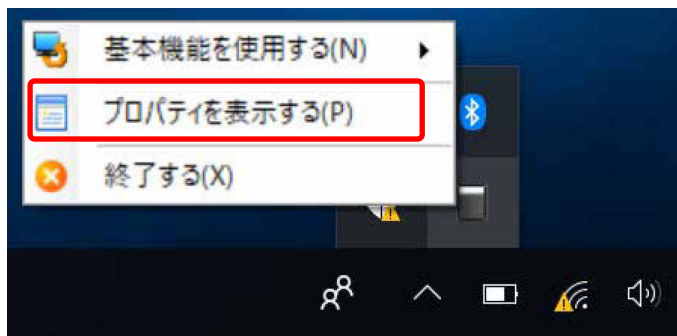
製品のバージョンが表示されます。

② 基本情報

接続先のサーバ名が表示されます。

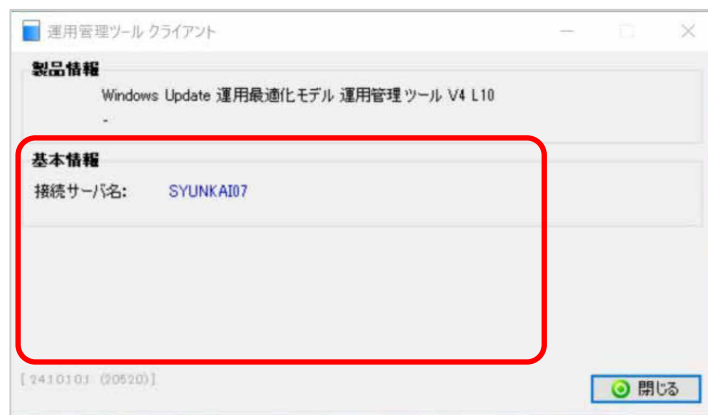
■ 操作手順

1. タスクトレイの運用管理ツールアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティを表示する」をクリックします。



「プロパティ」画面が表示されます。

2. 動作状況を確認します。



- 3 「閉じる」をクリックします。

付録

- 付録 A 運用管理ツール 管理コンソール機能に表示される項目
- 付録 B 運用管理ツール 管理コンソール機能の環境設定
- 付録 C 運用管理ツール 管理コンソール機能の表示パターン
- 付録 D コードの管理
- 付録 E スクリプト定義ファイル仕様
- 付録 F ポリシーエディタツールの使用方法
- 付録 G メール設定

付録 A 運用管理ツール 管理コンソール機能に表示される項目

表示されるアイコンの種別と、それぞれの状態について説明します。

■ 処理状態アイコン

端末一覧の 2 列目には各種処理の状態を示すアイコンが表示されます。

アイコン	説明
	未動作
	指示中
	処理準備中
	処理開始中
	処理中
	処理完了中

■ 機器操作画面の表示項目

機器操作画面の機器のリストには、さまざまな情報が表示されます。各列の内容は次の表のとおりです。



キャッシュ機能稼働状況、アクセスポイント稼働状況は、エッジコンピューティングデバイスのみステータスが表示されます。マスター端末はコンピュータ稼働状況のみ表示されます。

項目名	内容
#OS 状態#	状態によりアイコンが変わります。 (本項目は必ず選択されます。チェックを外すことはできません)
#状態#	各種処理の状態を示すアイコンが表示されます。 (本項目は必ず選択されます。チェックを外すことはできません)
コンピュータ名	端末のコンピュータ名が表示されます。 (本項目は必ず選択されます。外すことはできません)
グループ名	端末が属するグループ名が表示されます。
エージェント種別	端末にインストールされているエージェントプログラムの種別が表示されます。(例: エージェント)
IP アドレス	端末から取得した IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	端末から取得したサブネットマスクが表示されます
GW アドレス	端末から取得したデフォルトゲートウェイが表示されます。
設定 IP アドレス	運用管理ツール 管理コンソール機能で設定している端末の IP アドレスが表示されます。
設定サブネットマスク	運用管理ツール 管理コンソール機能で設定している端末のサブネットマスクが表示されます。

項目名	内容
設定 GW アドレス	運用管理ツール 管理コンソール機能で設定している端末のデフォルトゲートウェイが表示されます。
MAC アドレス	端末の MAC アドレスが表示されます。
コンピュータ稼働状況	運用管理ツールクライアント機能をインストールした端末のコンピュータ部分の稼働状況が表示されます。
キャッシュ機能稼働状況	運用管理ツール クライアント機能をインストールしたエッジコンピューティングデバイスのキャッシュ機能の稼働状況が表示されます。
アクセスポイント稼働状況	運用管理ツール クライアント機能をインストールしたエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイント部分の稼働状況が表示されます。
省電力ポリシー名	端末で設定されている省電力ポリシー名が表示されます。
LAN 形態	端末が運用管理ツール サーバに対して通信を行う際に使用しているネットワークカードの種類が表示されます。(例:有線)
IP 設定	端末が「固定 IP」か「DHCP」かが表示されます。
DNS サフィックス	端末の DNS サフィックスが表示されます。
ディスク使用量	端末のディスクの使用量が表示されます。
ディスク空容量	端末のディスクの空容量が表示されます。
ディスク使用率	端末のディスクの使用率が表示されます。
CPU 情報	端末の CPU 情報が表示されます。
型名	端末の機器型名が表示されます。
シリアル番号	端末のシリアル番号が表示されます。
ウイルス対策ソフト	ウイルス対策ソフトの製品名が表示されます。
ウイルスパターン	ウイルス対策ソフトのパターンファイル情報が表示されます。
ログインアカウント	現在、端末にログインしているアカウント名が表示されます。
OS 名	端末の OS 名が表示されます。
OS バージョン	端末の OS のバージョンが表示されます。
SP 名	端末の OS サービスパック名が表示されます。
ドメイン名	端末がログインしているドメイン名が表示されます。
Windows Update 連携設定状況	端末に対して Windows Update 連携が設定されているか、されていないか表示されます。
最終接続日	端末がサーバに最後に接続した日時が表示されます。
AP ファームウェアバージョン	運用管理ツール クライアント機能をインストールしたエッジコンピューティングデバイスのアクセスポイントのファームウェアのバージョンが表示されます。
最終接続先 IP アドレス	端末がサーバに接続した最終 IP アドレスが表示されます。
起動日時	端末が起動した最新の日時が表示されます。
前回起動日時	端末が前回起動した日時が表示されます。
前回終了日時	端末が前回終了した日時が表示されます。

項目名	内容
コメント	端末のプロパティ画面の[基本情報]タブで設定したコメントが表示されます。
製品名	端末にインストールされている運用管理ツールの製品名が表示されます。
バージョン	端末にインストールされている運用管理ツールのバージョンが表示されます。

付録 B 運用管理ツール 管理コンソール機能の環境設定

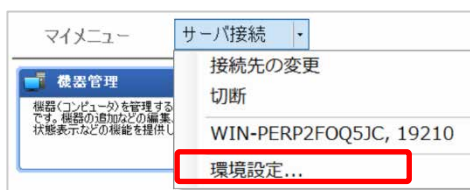
運用管理ツール 管理コンソール機能の環境設定の設定方法について説明します。



通常は、環境設定の変更は必要ありません。システム管理者からの指示で標準設定から変更を行う場合のみ操作します。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(ホーム)」画面で、「サーバ接続」→「環境設定」の順にクリックします。



「コンソールの環境設定」画面が表示されます。

2. 管理者からの指示に従い、必要な項目を設定します。



各項目の説明については、「環境設定項目」をご覧ください。

3. 「OK」をクリックします。

設定した内容に更新されます。

すべての項目に対し、設定内容を初期値に戻したい場合は、「製品初期値に戻す」をクリックしてから、「OK」をクリックしてください。

■ 環境設定項目

機能	説明
表示情報を自動で最新化する	「運用管理ツール 管理コンソール」画面の各画面に表示される情報を自動で最新表示する場合にチェックします。 また、最新化する場合に、指定された間隔で表示情報を最新化します。
一覧情報取得時の分割件数	一覧表示する情報をサーバから取得するときの、1回のアクセスで取得する情報の件数(50~5000件)を指定します。
サブ階層の情報を表示する	「運用管理ツール 管理コンソール」のグループツリーが表示されている各機能画面で、選択グループのサブ階層の情報をデフォルトで表示する場合にチェックします。
クライアント制御時の実行モード	端末を制御している場合の実行モードを、次のいずれかで設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 直接実行モード(推奨) 端末への操作、制御などの指示をクライアント 管理コンソール機能から直接行います。 サーバ実行モード 端末への操作、制御などの指示を運用管理ツール サーバ経由で行います。運用管理ツール 管理コンソール機能と運用管理ツール クライアント機能のセグメントが離れている場合でファイアウォールなどが間に存在する場合は、このモードを選択ください。
クライアント PC への命令送信後の確認画面	端末に対して命令を送信した後に表示される確認画面を自動で閉じるか否かを選択します。
クライアント PC への接続方法	運用管理ツール 管理コンソール機能から端末への接続方法を選択します。 実際のネットワーク環境に応じて選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク設定を使用する 端末のプロパティ画面で設定されているネットワーク情報から判断して通信します。 「IP アドレスを自動取得する」のチェックが OFF(=固定 IP アドレス)であれば、IP アドレスを使用して通信します。「IP アドレスを自動取得する」のチェックが ON(=DHCP)であればコンピュータ名を使用して通信します。 報告 IP アドレスを使用する 端末からサーバへ定期的に状態報告された際の IP アドレスを使用して通信します。 通信できない場合は、「ネットワーク設定」を使用して再度通信します
クライアント PC の最新化方法	端末から最新情報を取得する場合の操作方法を指定します。 通常は F5 キーを押すと、運用管理ツール クライアント機能から直接情報を取得し、Shift+F5 キーを押すと運用管理ツール サーバから情報を取得します。 このキー操作を変えたい場合に、この設定を変更してください。
PC の接続タイムアウト	端末と接続ができない場合に、この値を変更してください。 0 を設定するとシステムデフォルト値(20 秒)が指定されます。
PC の通信タイムアウト	端末と通信が正常に動作しない場合に、この値を変更してください。0 を設定するとシステムデフォルト値(24 秒)が指定されます。
電源 ON の間隔	複数台の端末を同時に電源 ON する場合の間隔を指定してください。0 を設定するとシステムデフォルト値(0.1 秒)が指定されます。
リモートログオンの間隔	複数台の端末に対して同時にリモートログオンする場合の間隔を指定してください。0 を設定するとシステムデフォルト値(0 秒)が指定されます。

付録C 運用管理ツール 管理コンソール機能の表示パターン

端末の状態を示す各項目の表示パターンの設定や編集方法について説明します。

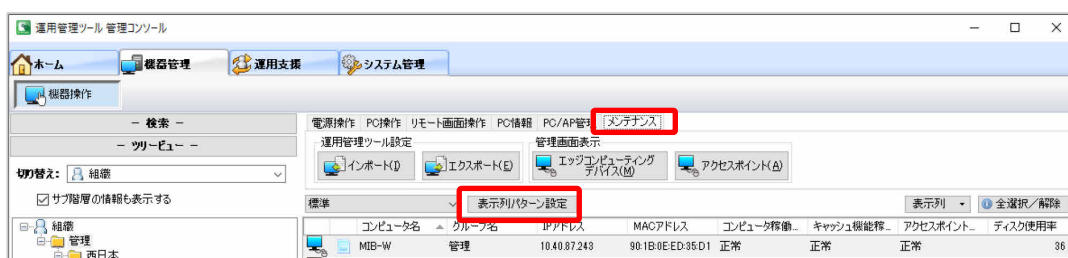
表示列パターンの設定

「機器管理」の表示域に表示される端末の情報項目(IP アドレス、MAC アドレスなど)から、表示させたい項目を選択したパターンを設定できます。

また、情報項目の表示順を変更することもできます。

■ 操作手順 表示列パターンの追加

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「メンテナンス」→「表示列パターン設定」の順にクリックします。



「表示列パターン」画面が表示されます。

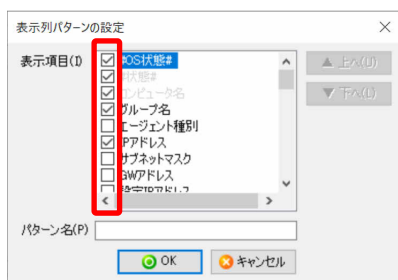
2. 「追加」をクリックします。



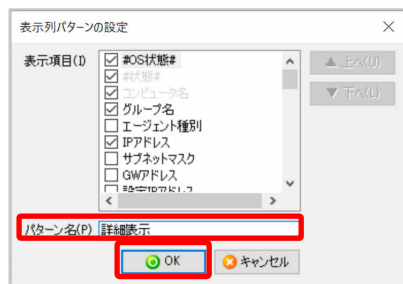
「表示列パターンの設定」画面が表示されます。

3. 「表示項目」で、画面に表示させる項目にチェックを付け、表示させない項目のチェックを外します。

「▲上へ」、「▼下へ」ボタンで、表示位置を移動できます。



4. 「パターン名」に任意の名称を入力し、「OK」をクリックします。
全角 30 文字(半角 60 文字)以内で設定してください。

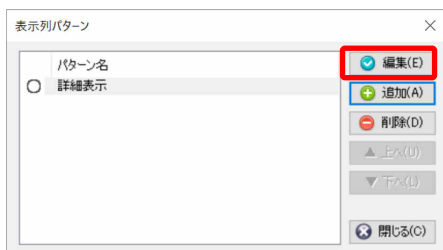


5. 「表示列パターン」画面に、新しく設定したパターン名が登録されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。
表示列のプルダウンメニューに、設定したパターン名が表示されます。

■ 操作手順 表示列パターンの編集

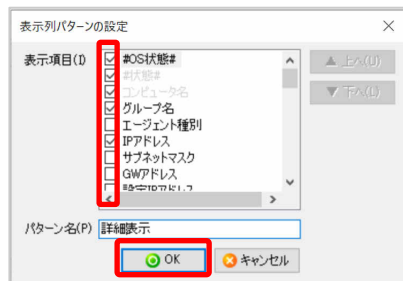
1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「メンテナンス」→「表示列パターン設定」の順にクリックします。
「表示列パターン」画面が表示されます。

2. 編集するパターン名を選択し、「編集」をクリックします。



「表示列パターンの設定」画面が表示されます。

3. 「表示項目」を変更し、「OK」をクリックします。



4. 「閉じる」をクリックします。

■ 操作手順 表示列パターンの削除

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「メンテナンス」→「表示列パターン設定」の順にクリックします。

「表示列パターン」画面が表示されます。

2. 削除するパターン名を選択し、「削除」をクリックします。



「表示列パターン削除の確認」画面が表示されます。

3. 「OK」をクリックします。

指定したパターン名が削除されます。

表示列の変更

「機器管理」の表示域に表示されている端末の情報項目を、必要な項目だけ表示させる操作手順について説明します。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(機器管理)」画面で、「メンテナンス」→「表示列」の順にクリックします。



プルダウンメニューに列名が表示されます。

2. 表示する列名にチェックを付け、表示させない列のチェックを外します。

The screenshot shows the '運用管理ツール 管理コンソール' (Operation Management Tool Management Console) interface. On the right side, there is a column configuration panel with a red border, listing various system information columns with checkboxes. The main table displays the following data:

コンピュータ名	グループ名	IPアドレス	MACアドレス	コンピュータ稼働	キャッシュ機能稼働
MIB-W	管理	10.40.87.243	90-1B-0E-ED-35-D1	正常	正常
TAB110	管理	10.40.87.234	00-17-89-03-50-BB	正常	

POINT 「コンピュータ名」の列は常に表示されるため、非表示にできません。

機器操作画面の機器のリストには、さまざまな情報が表示されます。各列の内容は「0 運用管理ツール 付録」をご覧ください。

付録 D コードの管理

ユーザー情報に利用する役職は、あらかじめ運用管理ツールに登録されているもの以外にカスタマイズを行うことができます。

ここでは、コードの確認、登録、編集、および削除方法を説明します。

コードの確認方法

現在設定されているコード一覧を確認することができます。

■ 操作手順

1. 「運用管理ツール 管理コンソール(システム管理)」画面で、「コード管理」をクリックします。
2. コード分類一覧から一覧表示したいコード分類を選択します。

選択したコード分類に含まれるコードがコード一覧に表示されます。
選択可能なコード分類は次のとおりです。

コード分類名	内容
ユーザーの役職コード	ユーザー管理で利用されるユーザー情報の「役職」を設定する際に使用されます。ユーザーを役職で識別、分類したい場合にご利用ください。

コードの追加、編集、削除方法

ここでは、コード管理でのコードの追加、編集、削除の方法について説明します。

- コードマスタ情報を追加する
- コードマスタ情報を編集する
- コードマスタ情報を削除する



重要

複数サーバ構成でコード管理を行う場合は、情報集約サーバで操作を行ってください。情報集約対象サーバでは、コード管理の操作はできません。

■ 操作手順 コードマスタ情報を追加する

1. コード一覧上で追加を行います。

「追加」をクリックし、コードの追加を行います。
コード一覧上の右クリックメニューからも操作できます。



重要

すでに登録されているコードと同じコードを追加することはできません。

2. 編集内容を確定します。

「確定」をクリックし、編集内容を確定します。
コード一覧上の右クリックメニューからも操作できます。
確認画面が表示されるため内容を確認し、「はい」をクリックします。編集内容が反映されます。

■ 操作手順 コードマスタ情報を編集する

1. コード一覧で選択したコードを編集します。

編集したいコードを選択し「編集」をクリックすることで値の編集を行います。
コード一覧上の右クリックメニューからも操作できます。

2. 編集内容を確定します。

「確定」をクリックし、編集内容を確定します。
コード一覧上の右クリックメニューからも操作できます。
確認画面が表示されるため内容を確認し、「はい」をクリックします。編集内容が反映されます。

■ 操作手順 コードマスタ情報を削除する



重要

すでに使用されているコードを削除した場合は、その後のシステム運用に支障をきたす可能性があります。

1. コード一覧で選択したコードを削除します。

削除したいコードを選択し、「削除」をクリックします。
コード一覧上の右クリックメニューからも操作できます。

2. 編集内容を確定します。

「確定」をクリックし、編集内容を確定します。
コード一覧上の右クリックメニューからも操作できます。
確認画面が表示されるため内容を確認し、「はい」をクリックします。編集内容が反映されます。

付録 E スクリプト定義ファイル仕様

スクリプト実行で指定できるスクリプト定義ファイルの仕様を説明します。

スクリプト定義ファイルは XML 形式で記述され、ファイルの文字コードは UTF-8 となります。このため、UTF-8 の文字コードが扱えるテキストエディタをご用意ください。

■ タグの説明

Comment : このスクリプトの説明文を記載します。

ScriptCommand : スクリプトコマンド(RunSequence タグ) を列挙します。

この定義内で ScriptCommand の順番に実行します。

RunSequence : 実行するコマンドを定義します。

Name 属性 : このシーケンスの名称を設定します。

Command 属性 : 実行するコマンド(命令) を指定します。

RunCommand, PutFile が指定できます。

* RunCommand の指定

Command タグ : 実行するコマンド名を指定します。

Arguments タグ : コマンドに渡す引数を指定します。

ActiveSession タグ : 実行するコマンドを現在アクティブなセッション(デスクトップ) に表示するかどうかを指定します。

true/false で指定します。

アクティブなセッションが無い、セッションが切り替わろう

としている場合など、表示できない場合があります。

Wait タグ : コマンドを実行後にコマンド実行の終了を待つかどうかを指定します。

true/false で指定します。

長時間待った場合、画面はタイムアウトになる可能性があります。

* PutFile の指定

Local タグ : 転送するファイルを指定します。

Remote タグ : 転送先(保存先) のファイル名を指定します。

■ サンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<SncScript>
<Comment>
  運用管理ツールが導入されている端末 でメモ帳を表示するためのスクリプトです。
</Comment>
<ScriptCommand>
  <RunSequence Name="Step1" Command="RunCommand">
    <Command>notepad.exe</Command>
    <Arguments>C:¥xxx¥aaa.txt</Arguments>
    <ActiveSession>true</ActiveSession>
    <Wait>false</Wait>
  </RunSequence>
</ScriptCommand>
</SncScript>
```

付録 F ポリシーエディタツールの使用方法

「ポリシーエディタツール」を利用することで運用管理ツールの詳細な環境変更を行うことができます。



重要

ポリシーエディタツールでは、運用管理ツールの内部的な設定値を変更します。そのため、使用を誤ると運用管理ツールが正しく動作しなくなる場合があります。

ポリシーエディタツールの設定変更後、運用管理ツールが動作しなくなった場合は、設定変更箇所を見直してください。

初期値から設定変更が行われている箇所は項目名が青色で表示されます。

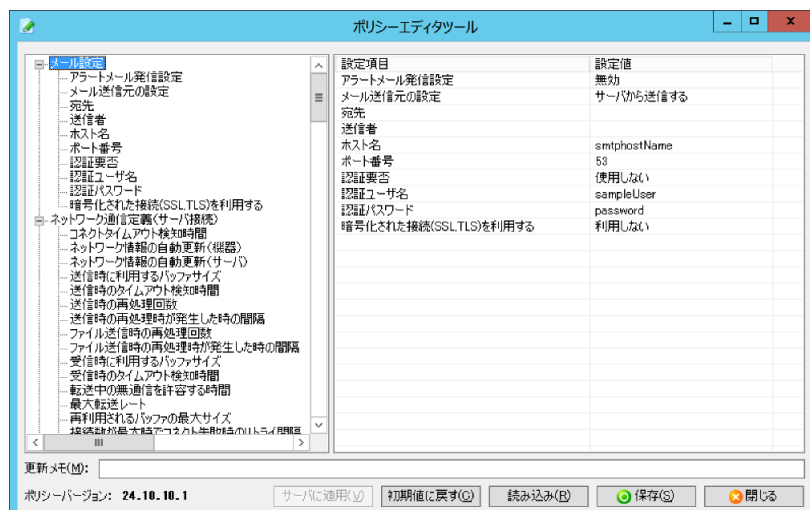
設定を見直しても動作しない場合は、「初期値に戻す」ボタンをクリックして設定を初期値に戻した後、再度必要な設定を行ってください。

設定値のインポート/エクスポート機能はないため、「初期設定に戻す」ボタンは注意してご利用ください。

1. ポリシーエディタツールの起動

運用管理ツールのインストールフォルダ配下にある「ポリシーエディタツール (PolicyEditorKicker.exe)」を実行してください。

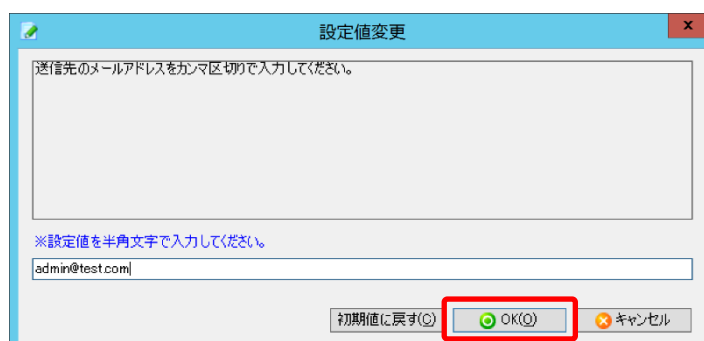
例) C:\Program Files (x86)\FCCL\ECW management tool\Server
¥PolicyEditorKicker.exe



2. 項目の変更

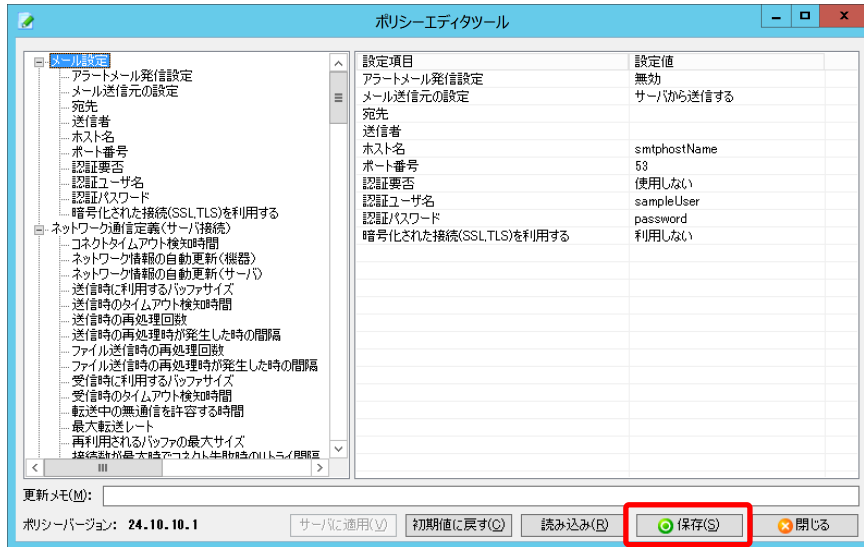
画面左側のツリーから変更したい項目のカテゴリを選択すると画面右側に設定項目が表示されます。その中から変更したい項目をダブルクリックで選択することで設定値変更画面が表示されます。

設定を変更した後は「OK」をクリックしてください。



3. 変更の保存

「保存」をクリックして設定内容を保存してください。

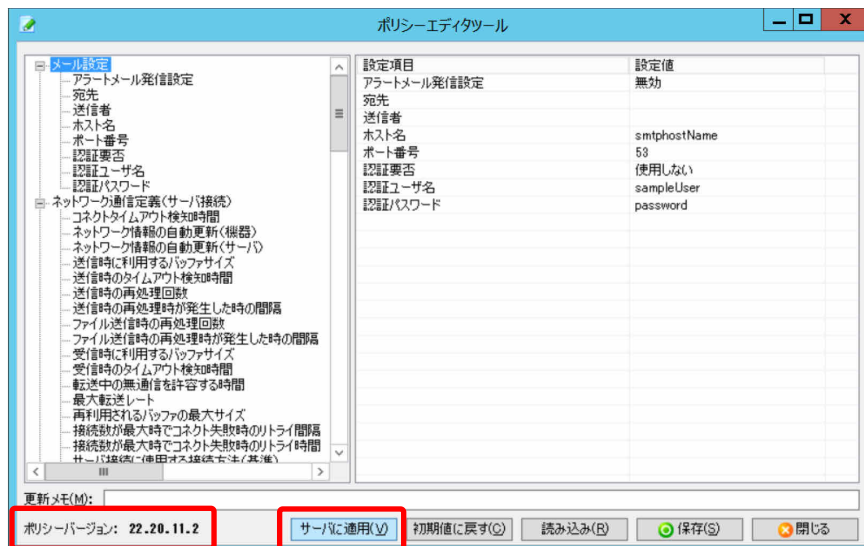


重要

「保存」をクリックした時点では、ポリシーエディタツールで変更した内容は、運用管理ツールの各機能には反映されていません。必ず、手順 4.「サーバへの反映」を行ってください。

4. サーバへの反映

「サーバに適用」をクリックして、ポリシーの変更内容を運用管理ツール サーバに反映してください。運用管理ツール サーバにポリシーの変更内容が反映されると、画面左下のポリシーバージョン表記が更新されます。



5. 端末への反映

サーバに反映されたポリシーの変更内容は、端末の OS 再起動後に、サーバに再接続されたタイミングで自動的に反映されます。

付録 G メール設定

運用管理ツールがシステム異常等のアラートを検知した場合に、システム管理者に対してアラートメールを送信したり、スケジュール機能で作成したスケジュールが完了した場合に結果メールを送信したりするための設定を行います。



重要

- 通信プロトコルの暗号化通信の拡張として STARTTLS に対応しています。SMTP over SSL には対応していませんのでご注意ください。

1. ポリシーエディタツールを起動する

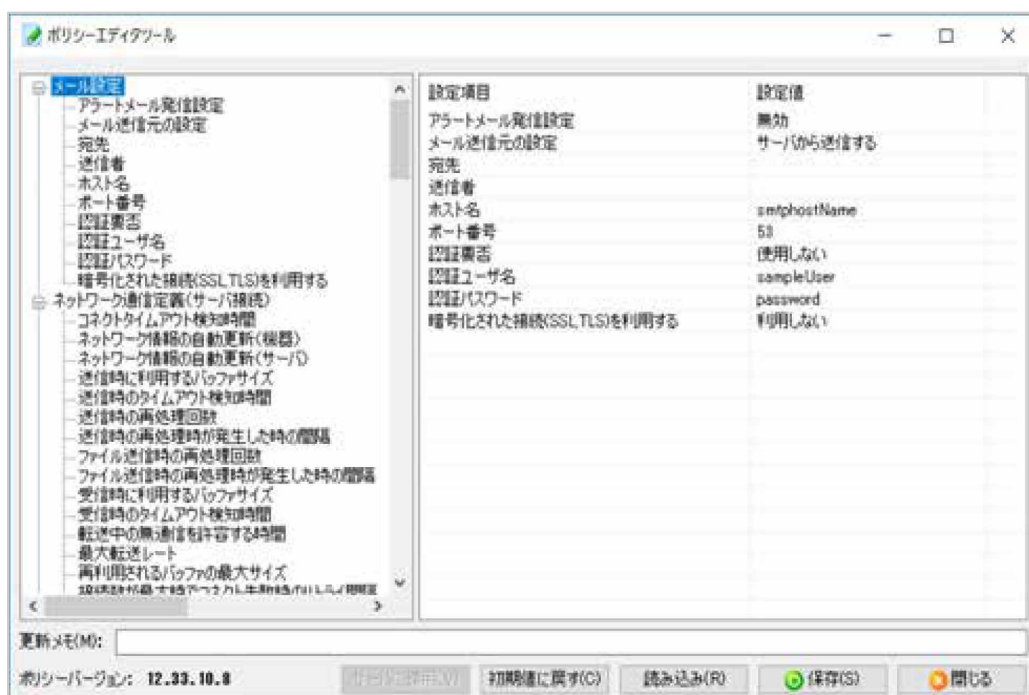
運用管理ツール サーバ機能のインストールフォルダ配下にある「ポリシーエディタツール(Policy EditorKicker.exe)」を実行してください。


例) 64 ビット OS の場合

C:\Program Files (x86)\FCCL\ECW management tool\Server
PolicyEditorKicker.exe

2. 情報を設定する

ポリシーエディタツールより、以下の項目の設定を行ってください。



設定項目	設定内容
アラートメール発信設定	アラートメールの送信の有効/無効を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・「無効」を選択した場合は、アラートメールは送信されません。(製品既定値) ・「有効」を選択した場合は、アラートメールが送信されます。
メール送信元の設定	アラートメールの送信元を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・「サーバから送信する」を選択した場合は、サーバからアラートメールが送信されます。(製品既定値) ・「クライアントから送信する」を選択した場合は、端末から個々にアラートメールが送信されます。 <p> 重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クライアントから送信する」を選択した場合は、クライアントから起動する「環境設定」画面から「メール通知」設定が可能になります。詳細については手順4をご覧ください。
宛先	アラートメールを送信するシステム管理者のメールアドレスを入力してください。システム管理者のメールアドレスが複数ある場合は、メールアドレスを半角カンマで区切ることで設定することが可能です。 スケジューラの場合は、各スケジュールで設定された宛先が使用されます。
送信者	送信者のメールアドレスを入力してください。 ここで設定するアドレスは、アラートメール、スケジューラの処理完了メール共通です。
ホスト名	メール送信サーバ(SMTP)のホスト名を入力してください。 ここで設定するホスト名は、アラートメール、スケジューラの処理完了メール共通です。
ポート番号	メール送信サーバ(SMTP)のポート番号を入力してください。 ここで設定するポート番号は、アラートメール、スケジューラの処理完了メール共通です。
認証要否	メール送信サーバ(SMTP)でユーザー認証を使用するか否かを選択してください。 ここで設定する認証要否設定は、アラートメール、スケジューラの処理完了メール共通です。
認証ユーザ名	メール送信サーバ(SMTP)にユーザー認証が必要な場合は、認証ユーザ名を入力してください。 ここで設定するパスワードは、アラートメール、スケジューラの処理完了メール共通です。
認証パスワード	メール送信サーバ(SMTP)にユーザー認証が必要な場合は、認証パスワードを入力してください。 ここで設定するパスワードは、アラートメール、スケジューラの処理完了メール共通です。
暗号化された接続(SSL, TLS)を利用する	メール送信サーバ(SMTP)とSTARTTLSを利用した暗号化通信を行う際、利用するプロトコルを指定してください。 ここで設定するパスワードは、アラートメール、スケジューラの処理完了メール共通です。

3. 変更を反映する

設定した内容を反映します。

「保存」をクリックして設定内容を保存した後、「サーバに適用」をクリックし、変更内容を反映させます。

アラートメールの送信を有効にしておく、次のようなメールが送信されます。

件名:[運用管理ツール] アラート通知

Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツールからアラートが発行されました。

発生時間: 2020/04/10 15:18:57

発生PC: RC13-08(!RC13-08@RC13-13)

内容 : ディスクの空き容量が不足しています。

強制修復の実行もしくは不要なファイルの削除を行い、修復ポイント(起動ポイント)の設定を行ってください。

+-----+

このメールは Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツールからの自動発信メールです。

+-----+



重要

- 運用管理ツール クライアント機能のインストールフォルダ配下の「PolicyStdEditorKicker.exe」を実行した場合は、「サーバに適用」はありません。「保存」をクリックして設定内容を保存した後に、OSを再起動してください(再起動後に変更内容が反映されます)。
- メール送信元の設定で「クライアントから送信する」を選択した場合は、手順4に進んでください。

4. 端末でメール通知内容を設定する(端末から送信時のみ)

メール送信元の設定で「クライアントから送信する」を選択した場合、端末のタスクトレイの運用管理ツールアイコンから起動する「環境設定」に、「メール通知」設定が表示されます。



POINT

- 本設定は前述のポリシーエディタツールで設定した内容よりも優先されます。

「メール通知」で設定する内容や操作は次の通りです。

設定項目	設定内容
メール通知機能を利用する	アラートメールの送信の有効/無効を選択してください。 ・チェック OFF の場合は、アラートメールは送信されません。(製品既定値) ・チェック ON の場合は、アラートメールが送信されます。 以下の設定は本設定がチェック ON の場合のみ可能です。
送信先メールアドレス	アラートメールを送信する宛先(例. システム管理者)のメールアドレスを入力してください。複数の宛先を設定する場合は、メールアドレスを半角セミコロンで区切ることで設定することが可能です。
件名	送信するアラートメールの件名を入力してください。

設定項目	設定内容
本文	送信するアラートメールの本文を入力してください。 本文には以下のパラメータが利用可能です。 (パラメータはメール送信時に実際の値に変換されて送信されます) 《使用できるパラメータ》 {COMPUTER} : 端末のコンピュータ名 {IPADDRESS} : 端末の IP アドレス {DATE} : アラート発生日 {TIME} : アラート発生時刻 {MSGID} : メッセージ番号 {MSG} : 発生内容
メール送信サーバおよびポート番号	メール送信サーバ(SMTP)のホスト名およびポート番号を入力してください。
暗号化された接続	メール送信サーバ(SMTP)と STARTTLS を利用した暗号化通信を行う際、利用するプロトコルを指定してください。
送信元メールアドレス	送信者のメールアドレスを入力してください。
[テストメール送信]	設定内容に従ってテストメールを送信します。 なお、テストメールで送信されるメールの本文のパラメータ部は値に変換されずにそのまま送信されます。

 POINT

- ・ 設定項目はすべて必須入力です。
- ・ 「テストメール送信」をクリックして、メールが正常に送信できることを必ず確認しておいてください。

設定およびテストメール送信確認が完了後、「OK」をクリックすると設定内容が保存されます。初期設定の内容でメール通知設定を行っている場合は、次のようなメールが送信されます。

件名: クライアント異常通知

クライアントで異常を検知しました。
該当クライアントの動作状況を確認してください。

コンピュータ: RC13-08(192.168.246.110)

発生日時: 2020/04/22 20:08:00

エラー番号: RUA-0502

エラー内容: ○○○が正常に動作していません。

環境を確認してください。

ESPRIMO Edge Computing Edition
Windows Update 運用最適化モデル
運用管理ツール ユーザーガイド

B6FK-5901-01 Z0-00

発行日: 2021 年 4 月

発行責任: 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。